

狭山市ヤングケアラー実態調査 結果報告書

令和5年1月

狭山市こども支援部
狭山市学校教育部

目次

I	調査の概要	1
II	小学生編	2
1	調査の概要	2
2	調査結果	3
3	国が実施したアンケート調査結果との比較	15
III	中学生編	16
1	調査の概要	16
2	調査結果	17
3	国が実施したアンケート調査結果との比較	46
IV	高校生編	47
1	調査の概要	47
2	調査結果	48
3	国が実施したアンケート調査結果との比較	65
V	調査結果	66
1	実態把握	66
2	今後の方向性	67

I 調査の概要

子ども本人を対象としたヤングケアラーの全国調査が令和2年度に初めて行われ、中学2年生5.7%、全日制高校2年生4.1%、定時制高校2年生相当では8.5%の生徒が世話をしている家族が「いる」と回答し、令和3年度に小学6年生を対象とした同様の調査では、6.5%の児童が世話をしている家族が「いる」との回答があり、狭山市においても、ヤングケアラーの実態を明らかにすべく、このたびのアンケート調査を実施した。

なお、国のヤングケアラー実態調査の結果と比較するために、アンケート調査における質問内容については、国の調査内容と同様とした。

1 調査目的

ヤングケアラーに対する認知度を高め、潜在化しているヤングケアラーの実態を把握し、今後必要な支援施策の検討を行う基礎資料とする。

なお、調査は記名式とし直接の支援につなげる。

2 実施主体

学校教育部とこども支援部の合同実施

3 対象者

市内公立小学校4年生～6年生の児童

市内公立中学校の生徒

市内の県立高校に在籍する市内在住の生徒

4 調査時期

令和4年7月～9月

5 調査項目

国で実施したアンケート調査と同様

II 小学生編

1 調査の概要

(1) 対象者

市内公立小学校 4 年生～6 年生の児童 (3,301 人)

(2) 調査時期

令和 4 年 7 月 5 日～9 月下旬

(3) 調査方法

- ・記名式による調査
- ・書面で協力依頼をし、回答はタブレット端末を利用
- ・一部の調査項目については、回答内容に応じ聞き取り調査

(4) 回答状況

各人数は調査日時点

種 別	児童数	回答者数	回答率
市内公立小学校 4～6 年生	3,301 人	2,648 人 (うち無記名 386 人)	80.22%

※国アンケート調査回答率：約 39.83%

(5) その他

「ヤングケアラー」についての児童の認知度が低いと予想されたため、埼玉県が作成し令和 4 年 1 月に児童に配布されたリーフレットを使用した説明付画像を視聴した後にアンケートを実施することとした。

当該報告書は国の調査結果と比較するために作成するものであるが、アンケート結果より集計された数値・割合は、あくまでも参考値として捉えていただきたい。

調査期間中に、学級閉鎖・学校閉鎖等があったこと、また学期末と重なったこともあり、アンケートが実施できなかった児童もいた。

学校にはアンケート結果の情報提供をし、アンケートができなかった児童も含め、すぐに支援が必要な児童がないかどうか確認を求めた。

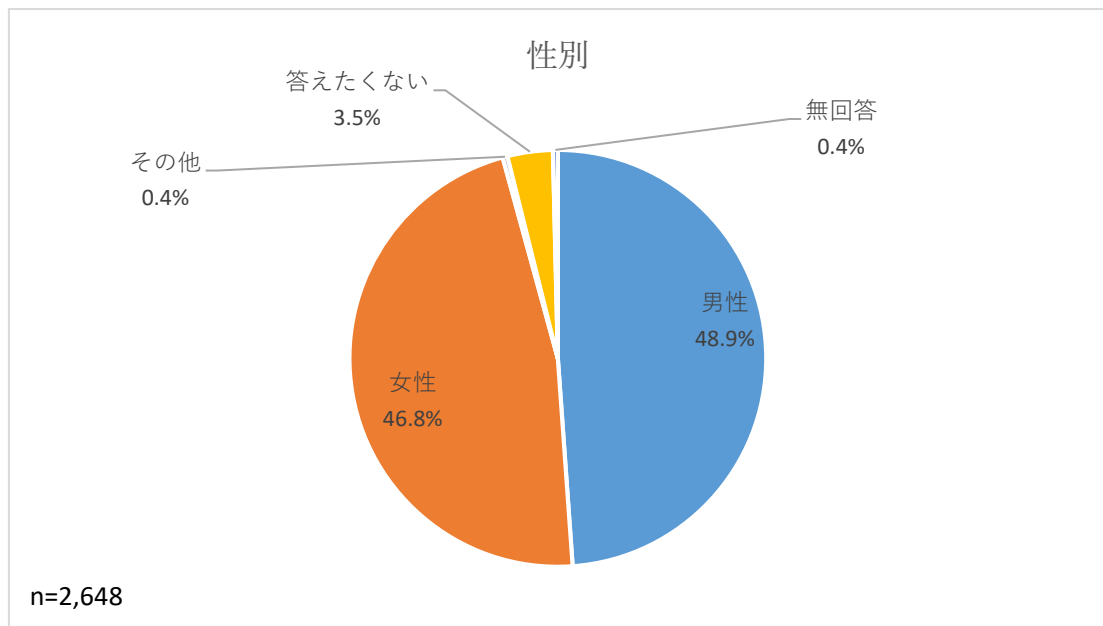
2 調査結果

※国のアンケート調査は、小学6年生のみを対象として実施

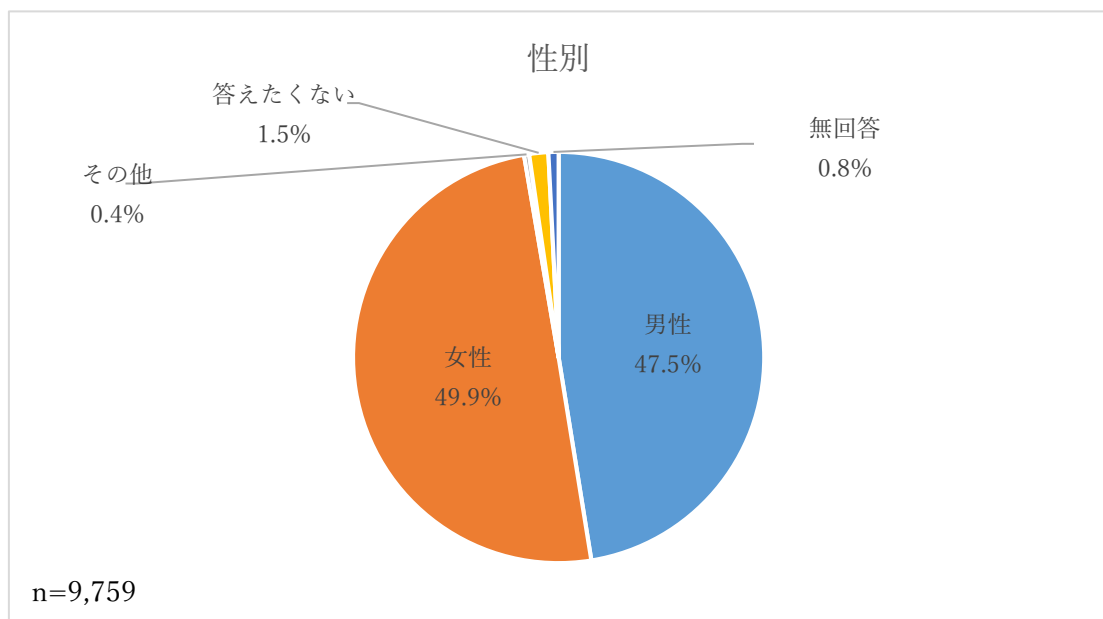
(1) 基本情報

①性別

回答者の性別は、以下の通り。

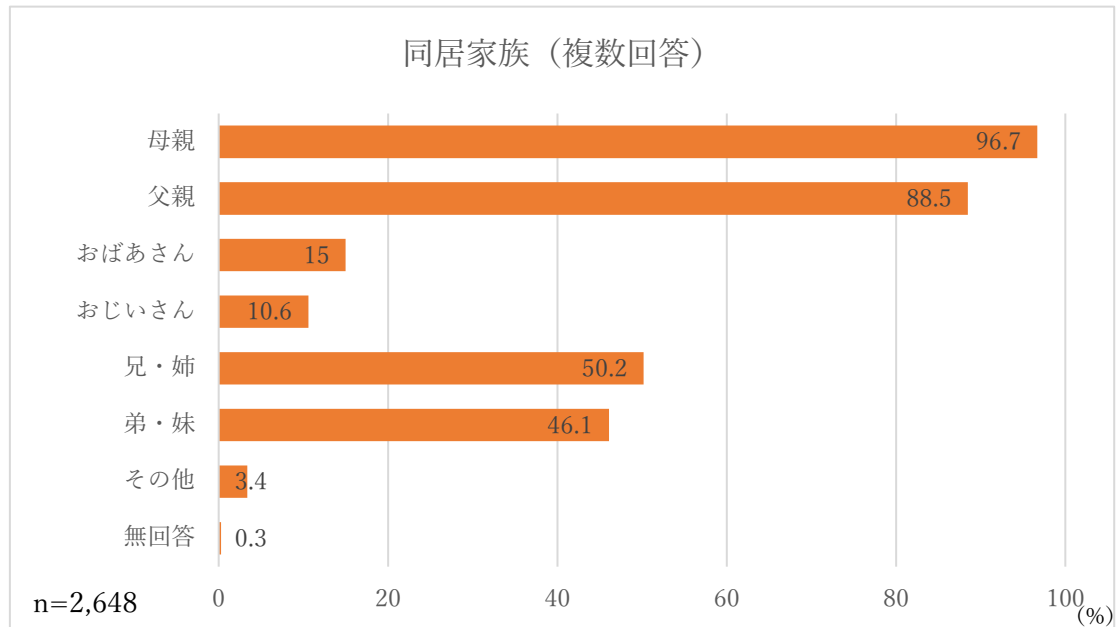


《国のアンケート調査結果》

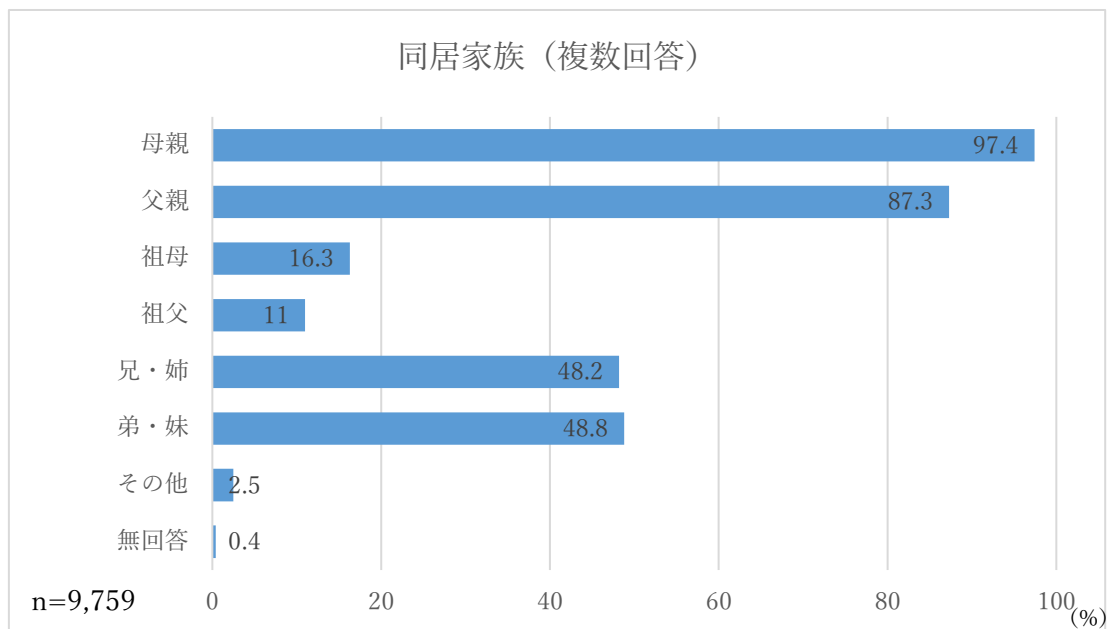


②同居家族

同居家族は、「母親」が最も高く、次いで「父親」、「兄・姉」となっている。

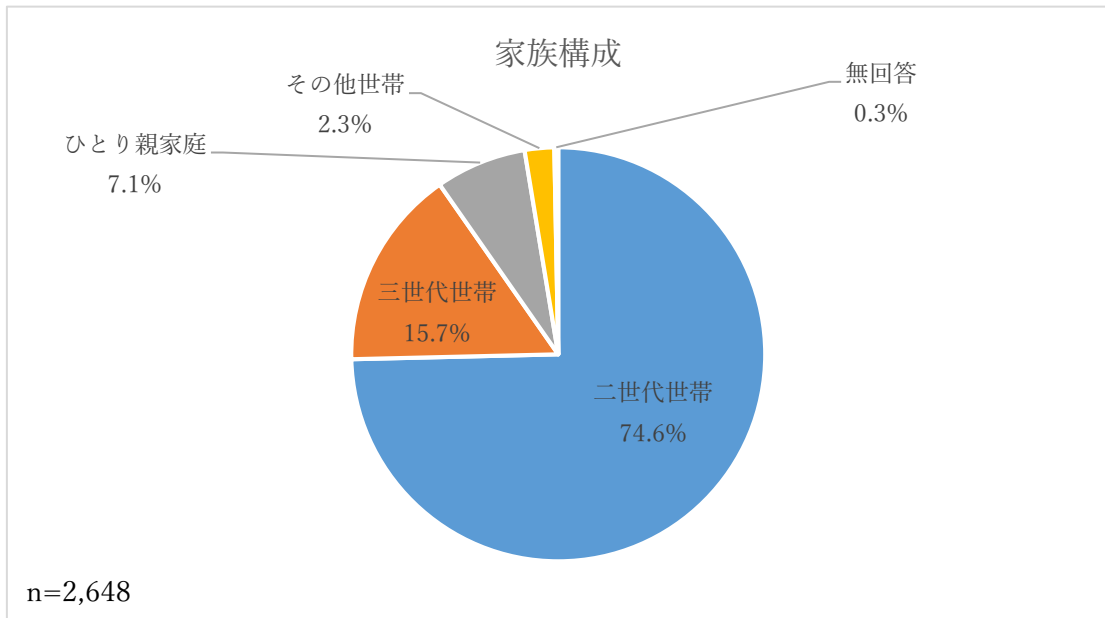


《国のアンケート調査結果》

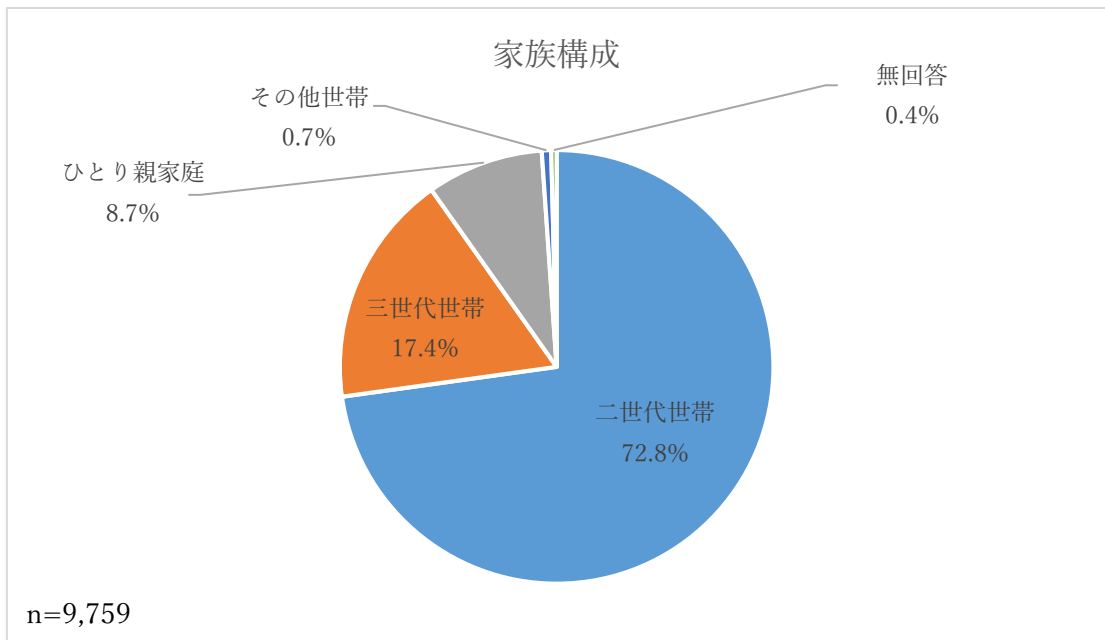


③家族構成

家族構成は、「二世代世帯」(ふたり親家庭)が最も高くなっている。

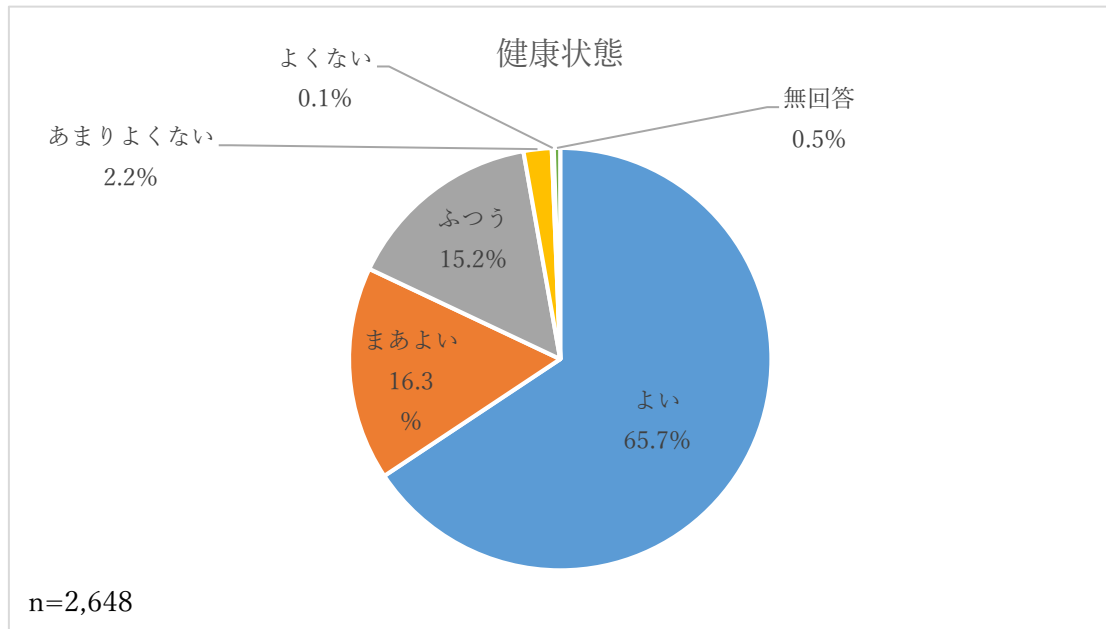


《国のアンケート調査結果》

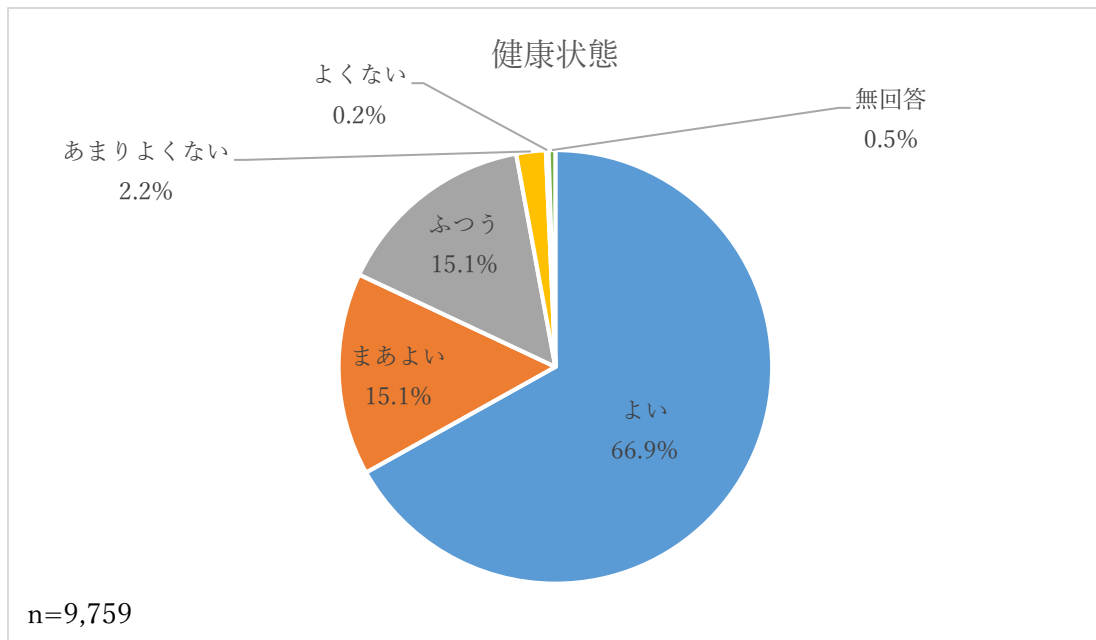


④健康状態

健康状態は、「よい」が最も高く、次いで「まあよい」、「ふつう」となっている。



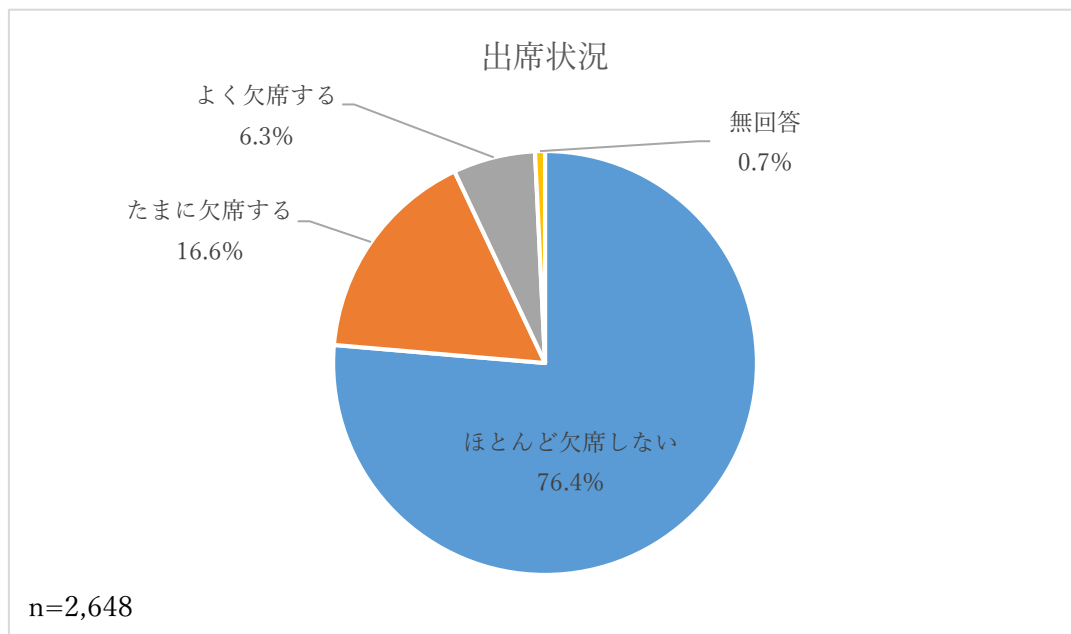
《国のアンケート調査結果》



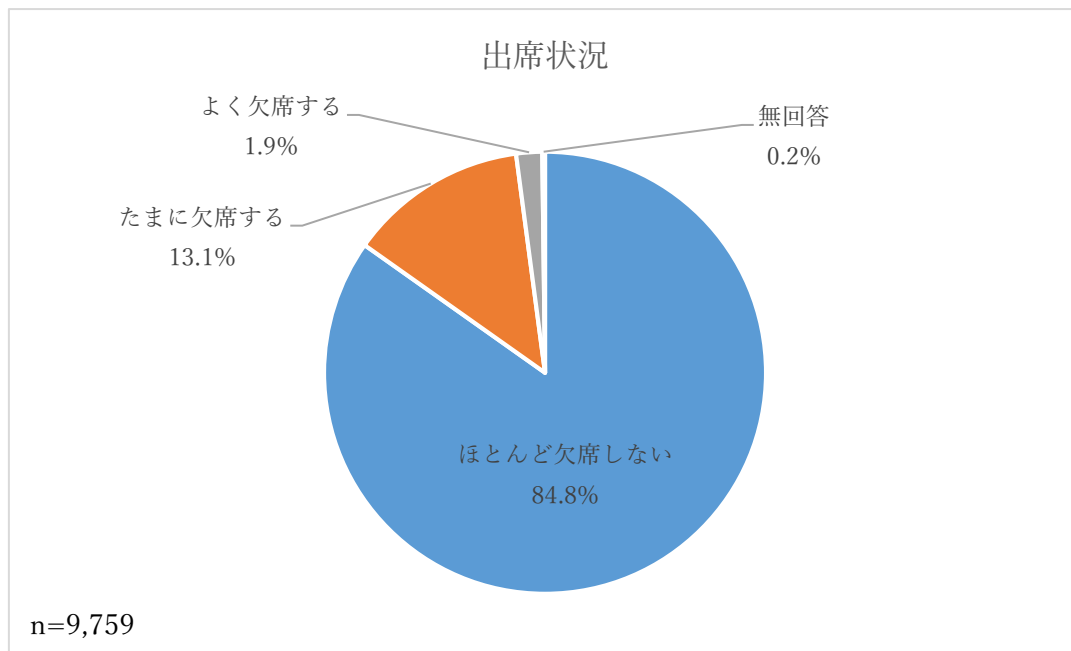
(2) 子どもの生活について

①学校への通学状況：出席状況

学校への出席状況は、「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。

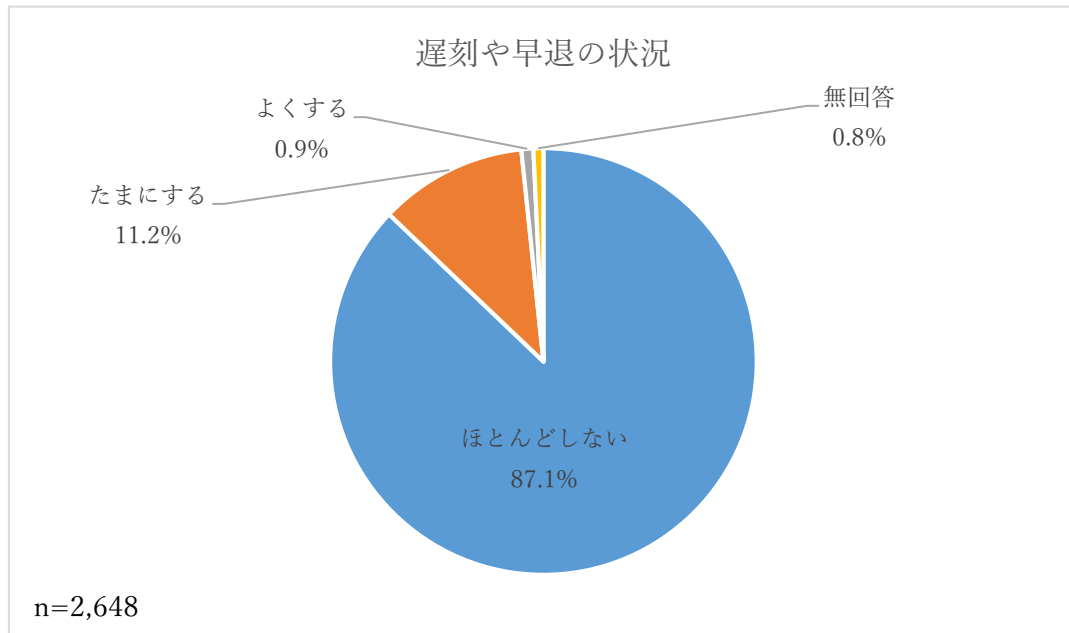


《国のアンケート調査結果》

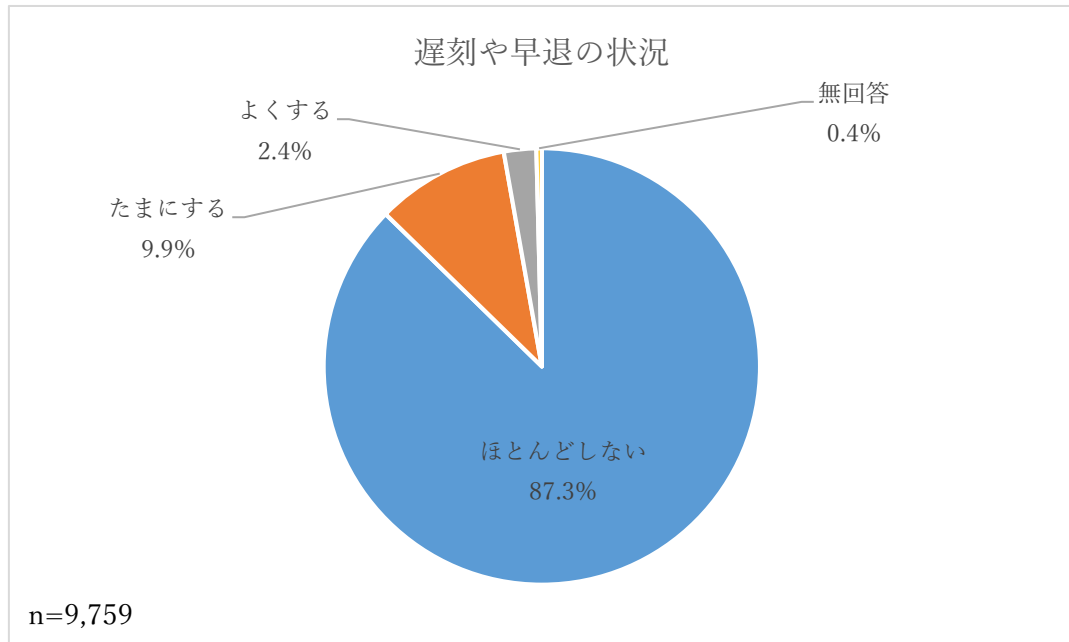


②学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が最も高くなっている。

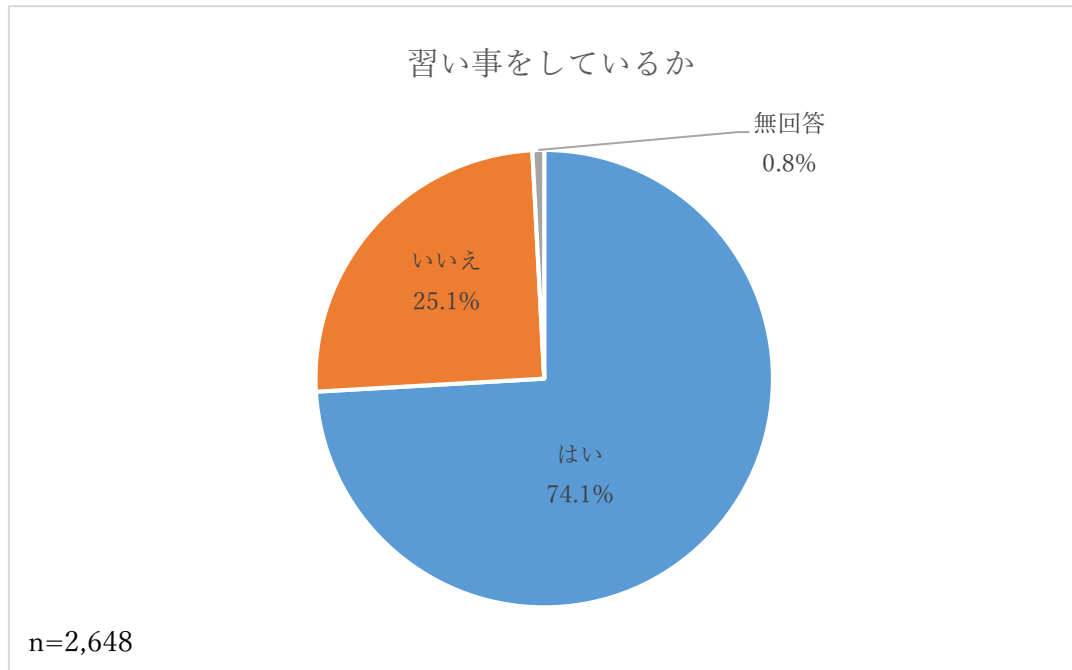


《国のアンケート調査結果》

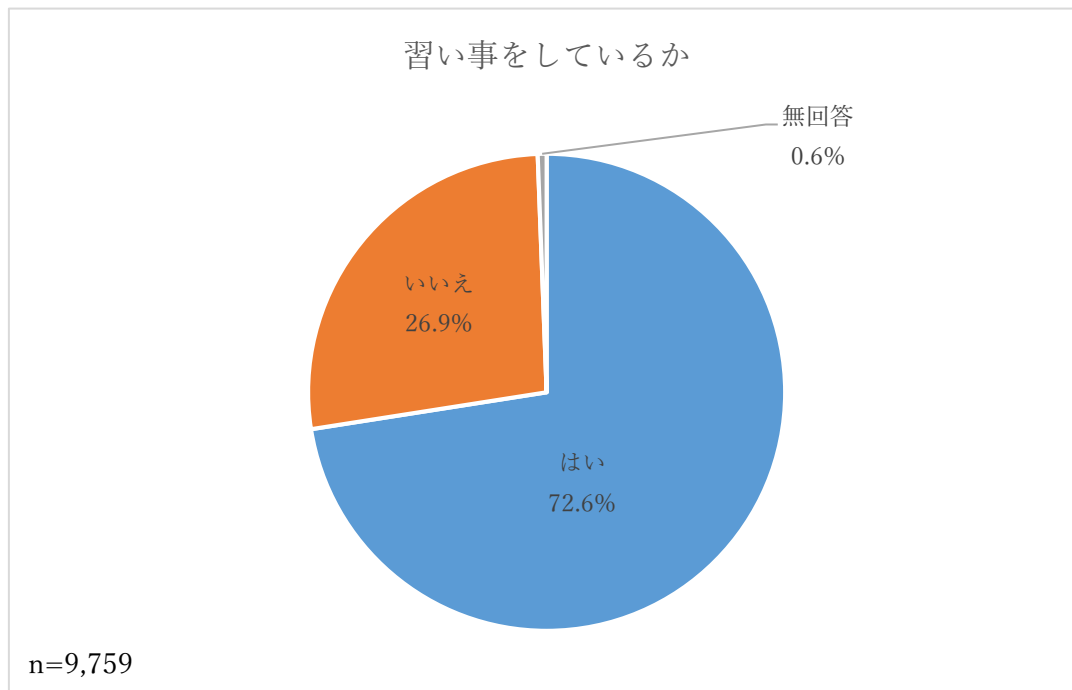


③放課後の習い事などへの参加状況

習い事の状況は、「はい（参加している）」が高くなっている。

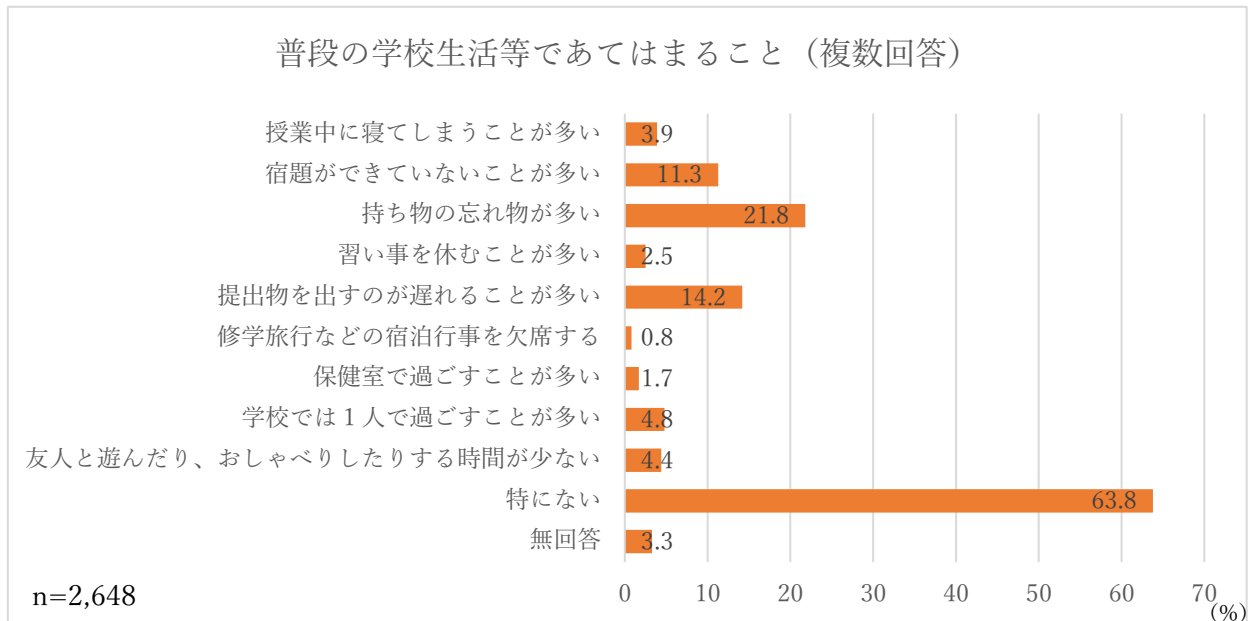


《国のアンケート調査結果》

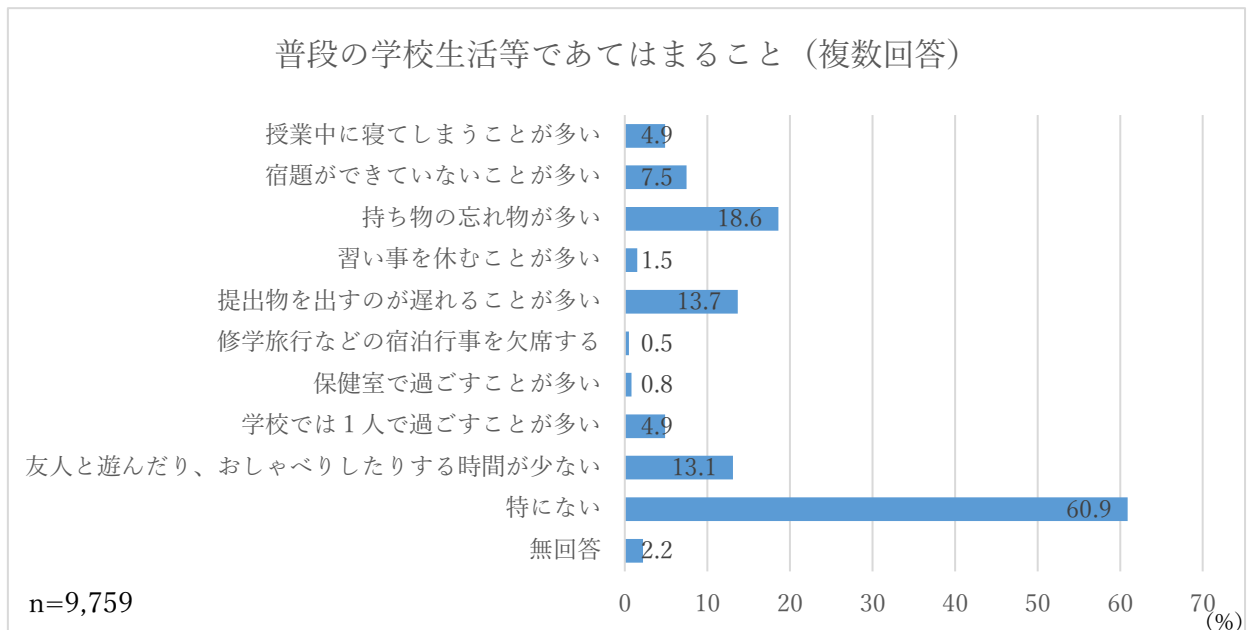


④ふだんの学校生活などであてはまること

ふだんの学校生活などであてはまることについては、「特にない」が最も高くなっているが、そのほかでは「持ち物の忘れ物が多い」、「提出物を出すのが遅れることが多い」、「宿題や課題ができないことが多い」がほかに比べてやや高くなっている。

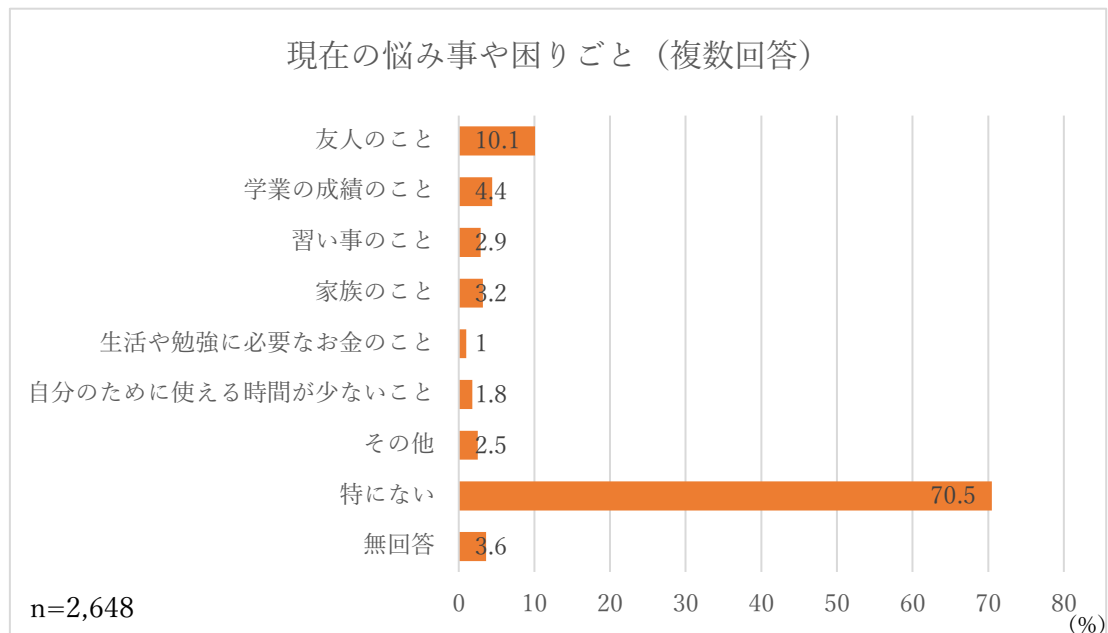


《国のアンケート調査結果》

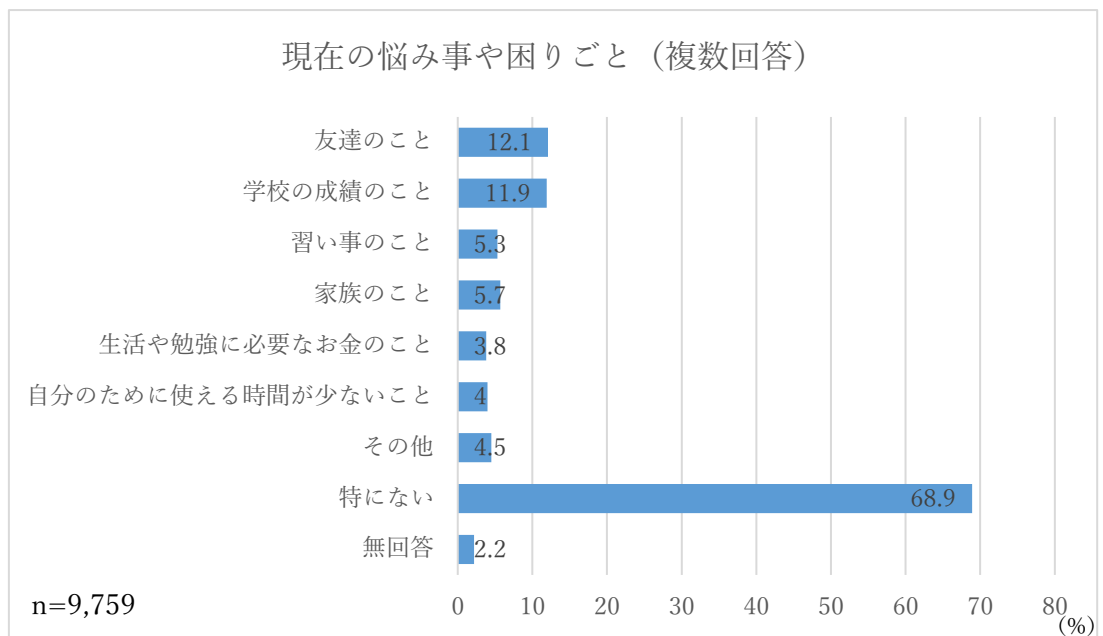


⑤現在の悩み事や困りごと

現在の悩みや困りごとについては、「特にない」が最も高く、そのほかでは、「友人のこと」がやや高くなっている。

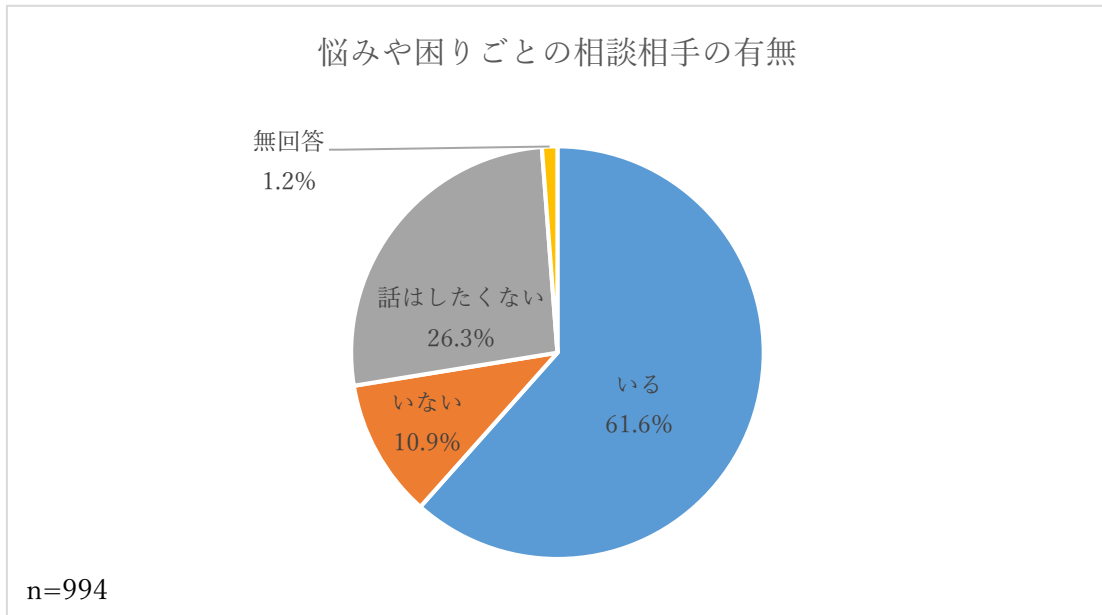


《国のアンケート調査結果》

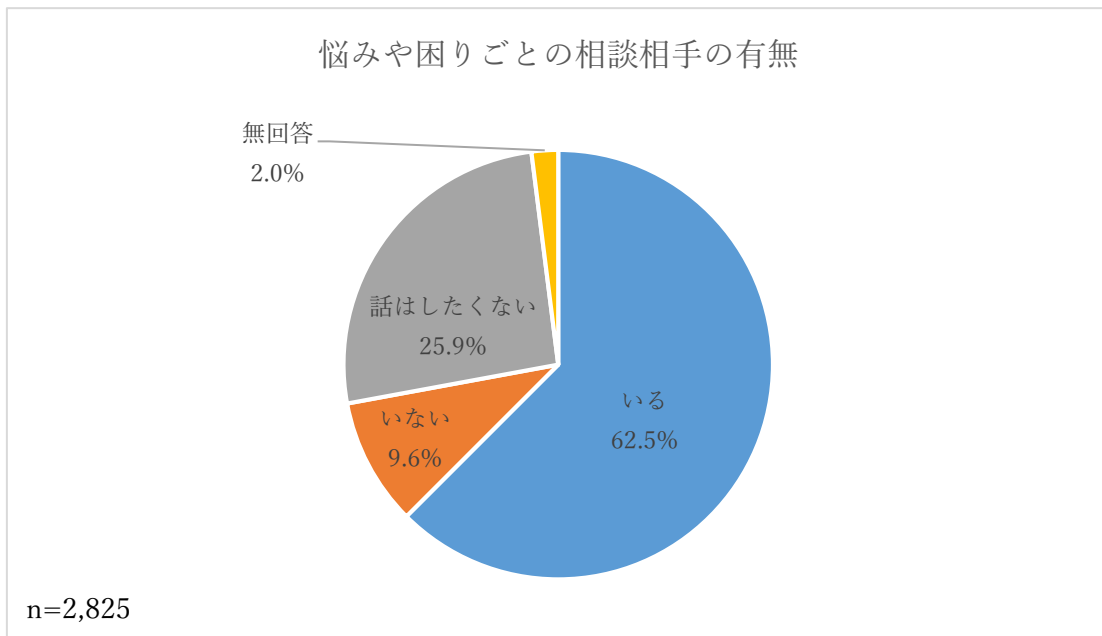


⑥悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、「いる」が過半数を超え最も高くなっている一方で、「話したくない」という回答の割合が高くなっている。



《国のアンケート調査結果》



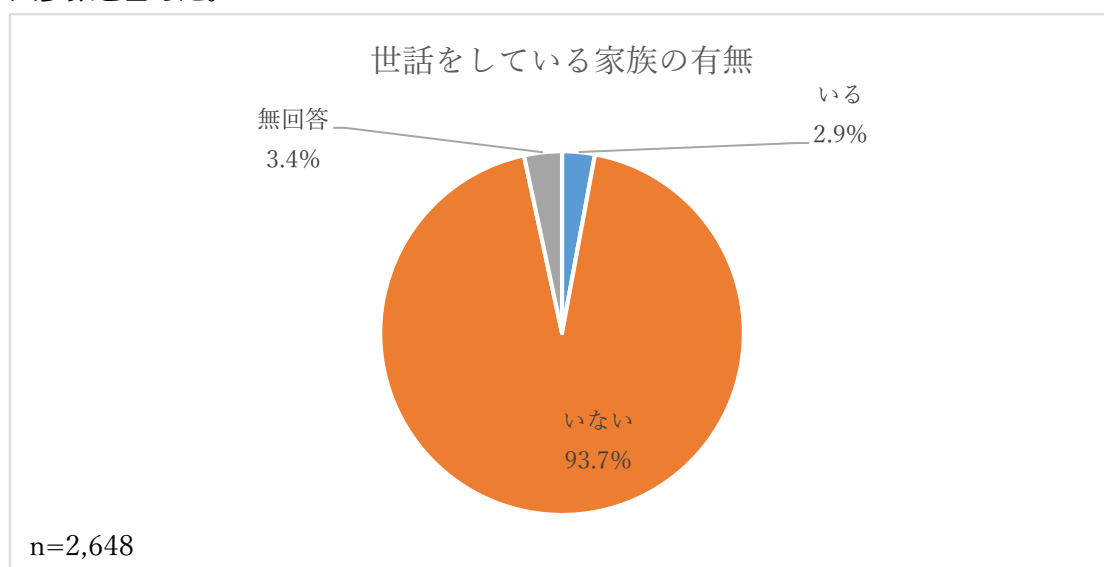
(3) 家庭や家族のことについて

①世話をしている家族の有無

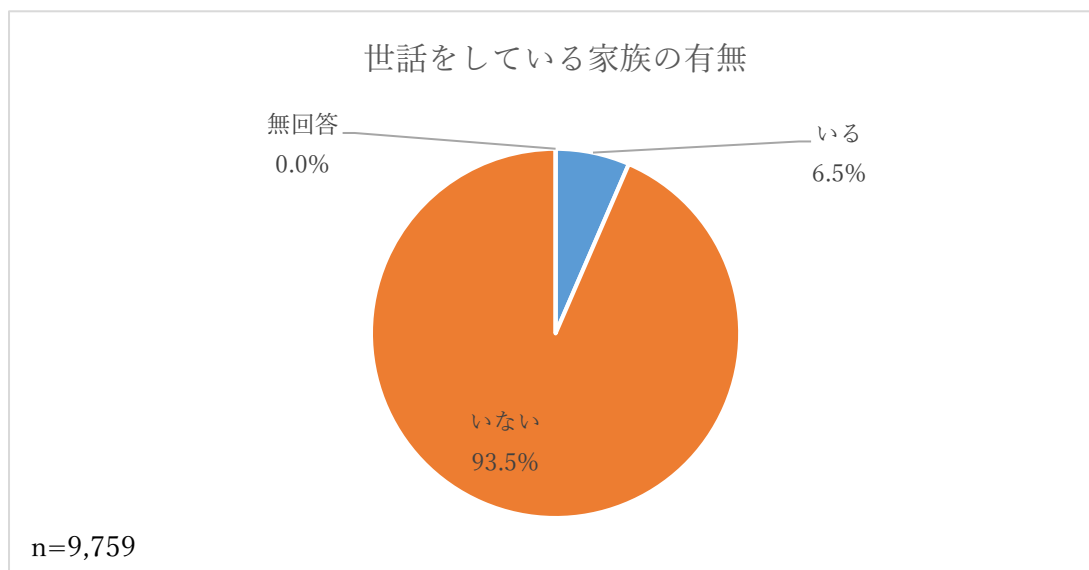
世話をしている家族の有無については、以下の通りである。

アンケート調査では、13.4%の児童が「いる」と回答しているが、その後の聞き取り調査で、児童から「手伝いのことだと思った」、「大人が担うようなお世話ではない」などの意見が確認できた。アンケート調査及び聞き取り調査の結果、世話をしている家族が「いる」と回答した児童は2.9%であった。

最初の回答では、説明付画像視聴後のアンケート調査としたが、国の調査では対象ではなかった4年生5年生の割合が多くなっており、全体的にお世話とお手伝いの区別が難しかったと予測される。聞き取りの中でも、「手伝いのことを答えた」という児童が大多数を占めた。



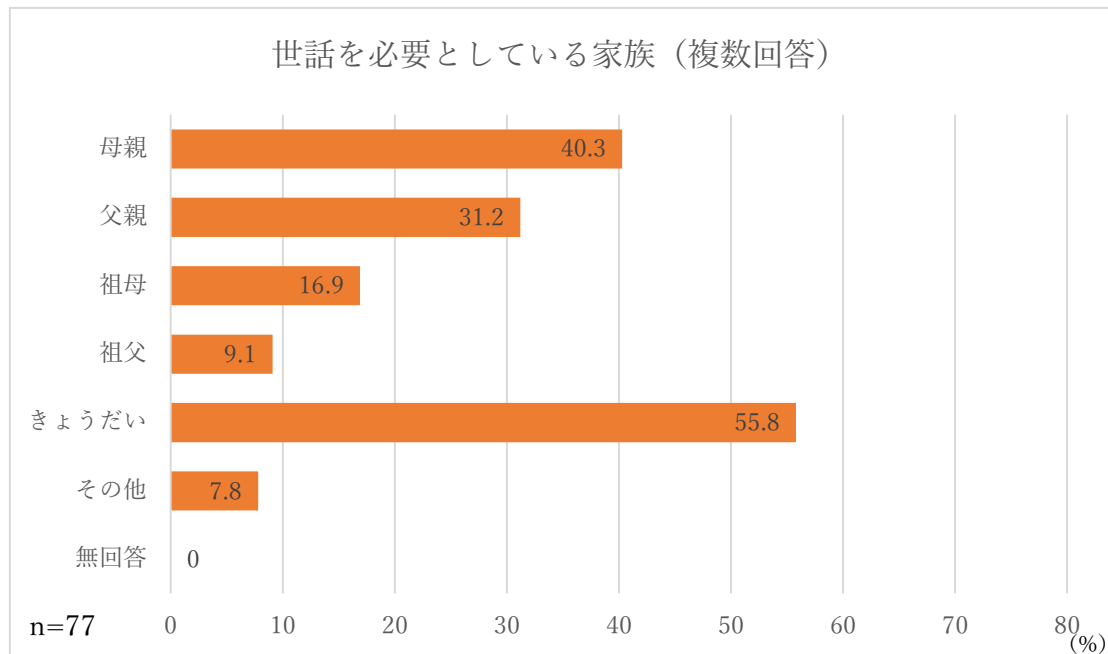
《国のアンケート調査結果》



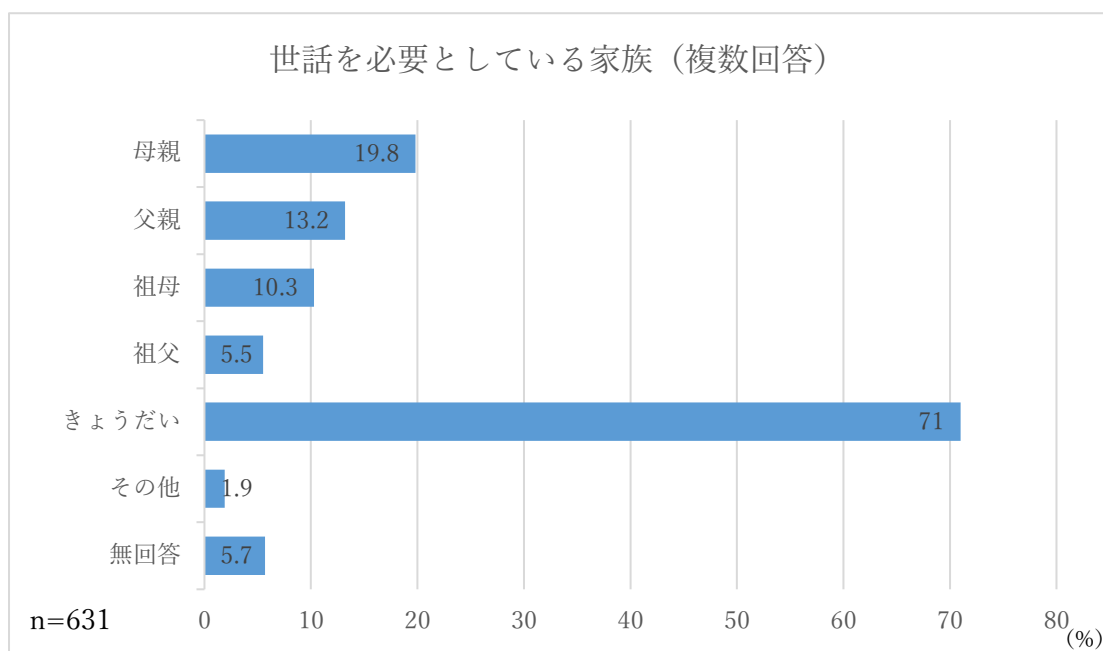
②世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が最も高く、次いで「母親」、「父親」となっている。

アンケート調査後に小学校で行ったヒアリング調査では、幼いきょうだいの世話、母親の手伝いという内容が多かった。



《国のアンケート調査結果》



3 国が実施したアンケート調査結果との比較

国が令和3年に実施したアンケート調査結果とほとんどの項目で大きな違いは見受けられなかった。

「世話をしている家族の有無」については、アンケート調査後の聞き取りで、記名児童について内容の確認を行った。その中で、「お手伝いのことだと思った」と答える児童が多く、説明付画像視聴後の調査であっても、区別して回答するのが難しかったようである。国の調査では対象ではなかった4年生5年生が多かったことも、低年齢であるほど「手伝い」と「世話」の区別が難しいことが浮き彫りとなった。

しかし、ヤングケアラーの自覚がない児童の存在や、教師側も「家庭でのことで判断しづらい」との意見も多かった。低年齢の段階からヤングケアラーについての周知を丁寧に行う必要があること、また教師側も“単なる手伝い”としてすべて済ませることなく、ヤングケアラーの可能性や今後ヤングケアラーになる可能性も考慮した対応が必要であることから、教職員への研修も引き続き行っていきたい。

Ⅲ 中学生編

1 調査の概要

(1) 対象者

市内公立中学校の生徒（3,270人）

(2) 調査時期

令和4年7月5日～7月20日

(3) 調査方法

- ・記名式による調査
- ・書面で協力依頼をし、回答はタブレット端末を利用

(4) 回答状況

各人数は調査日時点

種別	児童数	回答者数	回答率
市内公立中学校	3,270人	2,580人 (うち無記名318人)	78.90%

※国アンケート調査回答率：約5.56%

(5) その他

調査期間中に、学級閉鎖・学校閉鎖等があったこと、また学年末と重なったこともあり、アンケートが実施できなかった生徒もいた。

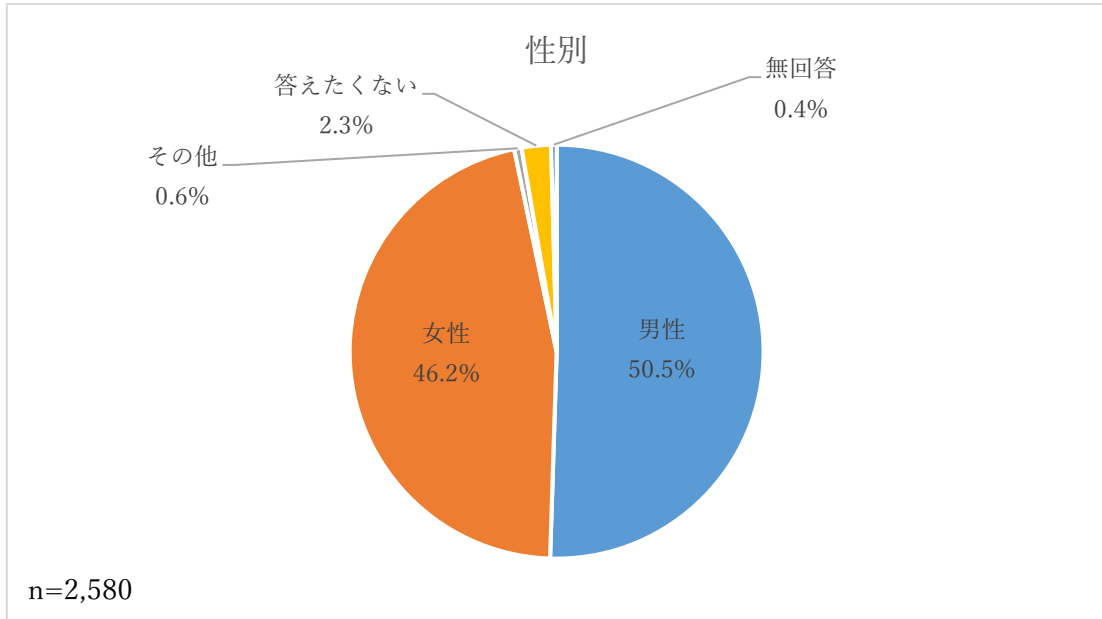
学校にはアンケート結果の情報提供をし、アンケートができなかった生徒も含め、すぐに支援が必要な生徒がないかどうか確認を求めた。

2 調査結果

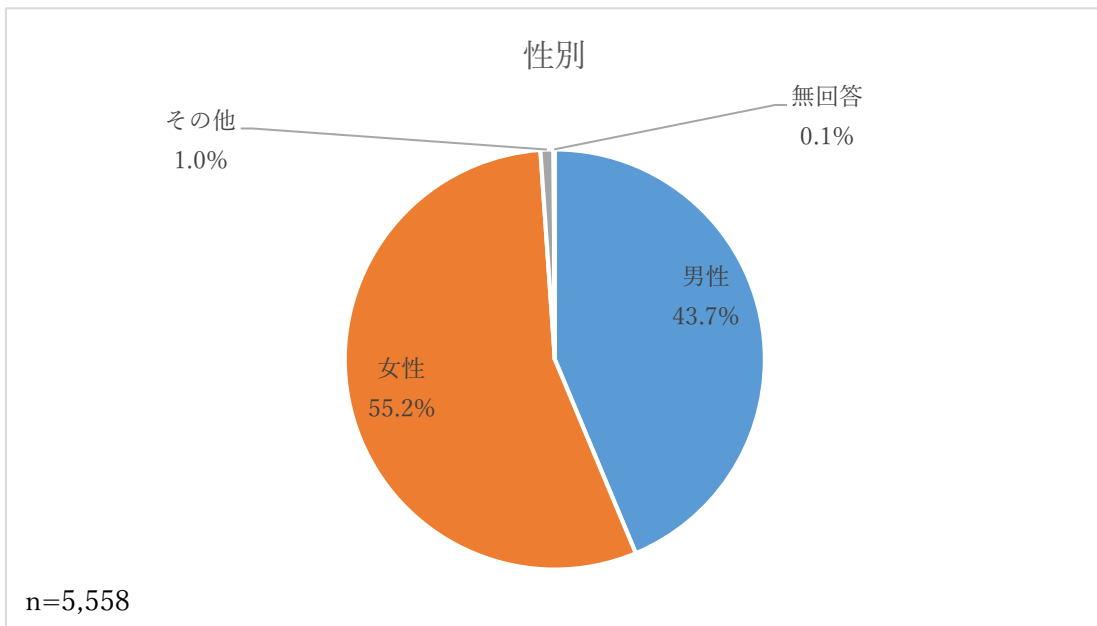
(1) 基本情報

①性別

回答者の性別は、以下の通り。

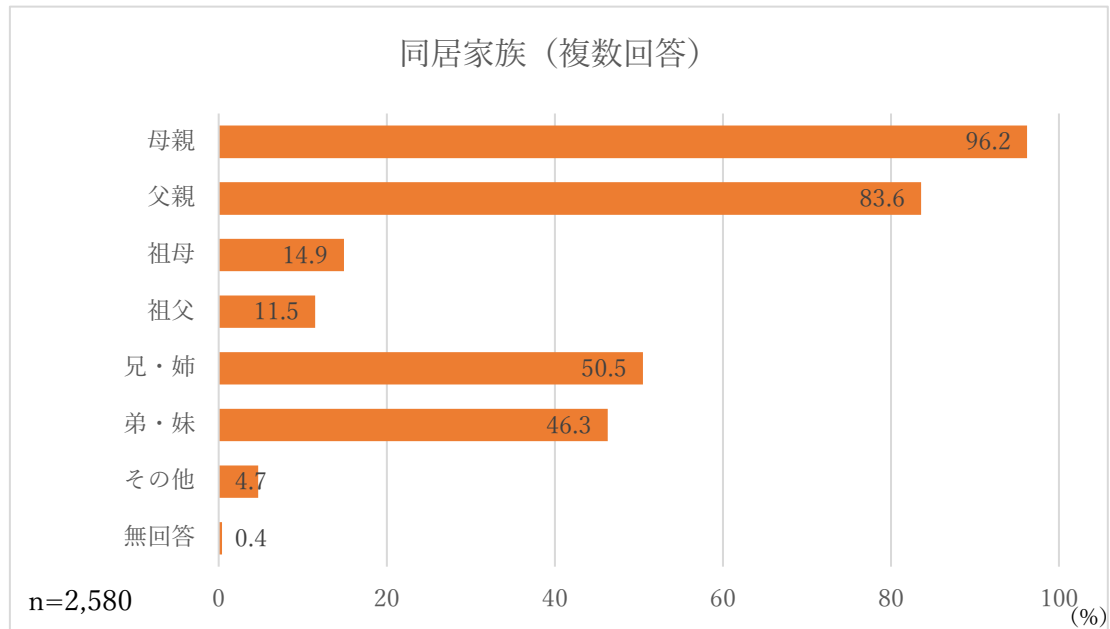


《国のアンケート調査結果》

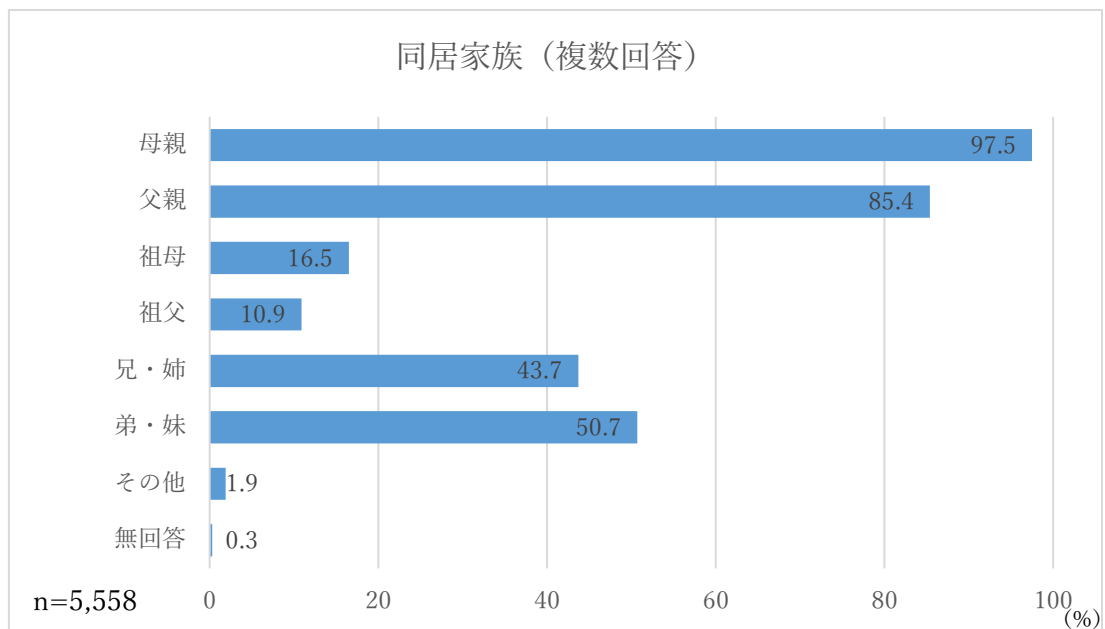


②同居家族

同居家族は、「母親」が最も高く、次いで「父親」、「兄・姉」となっている。

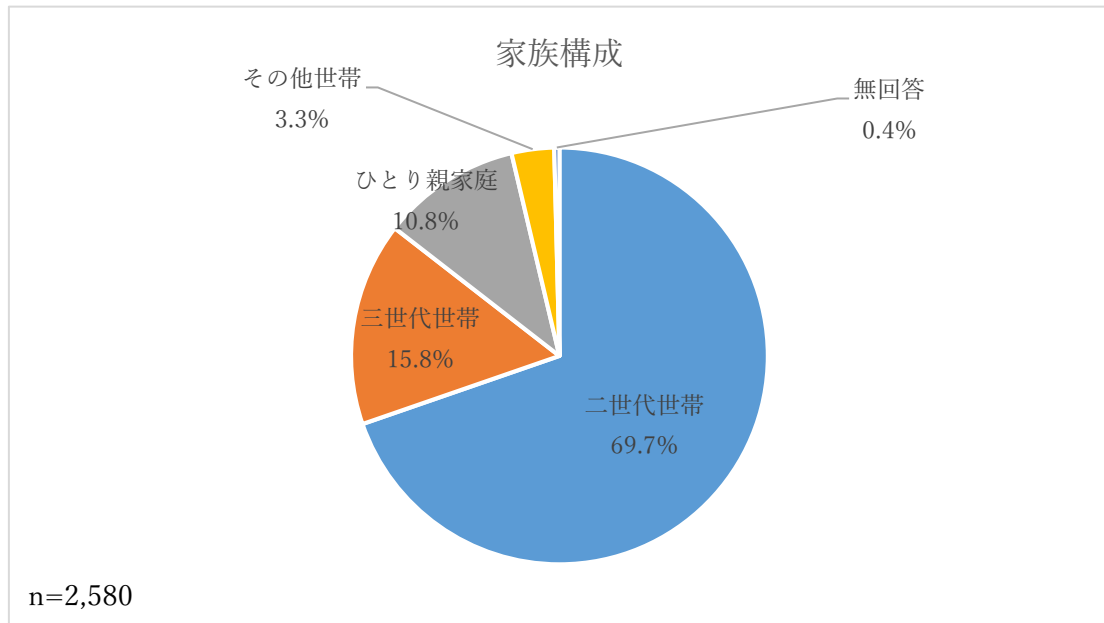


《国のアンケート調査結果》

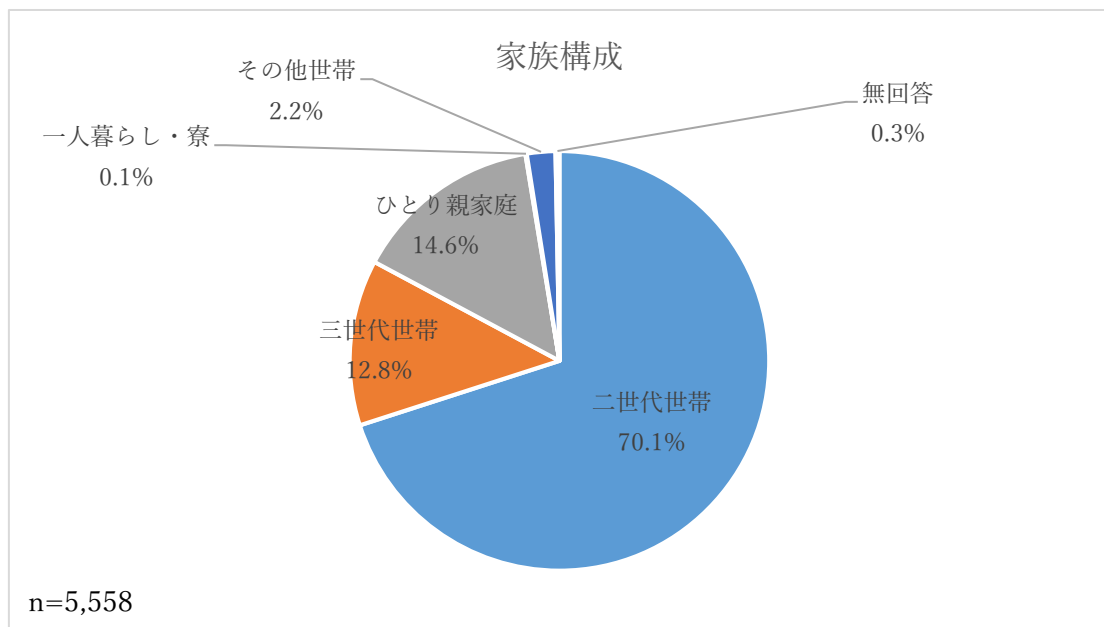


③家族構成

家族構成は、「二世帯世帯」(ふたり親家庭)が最も高くなっている。

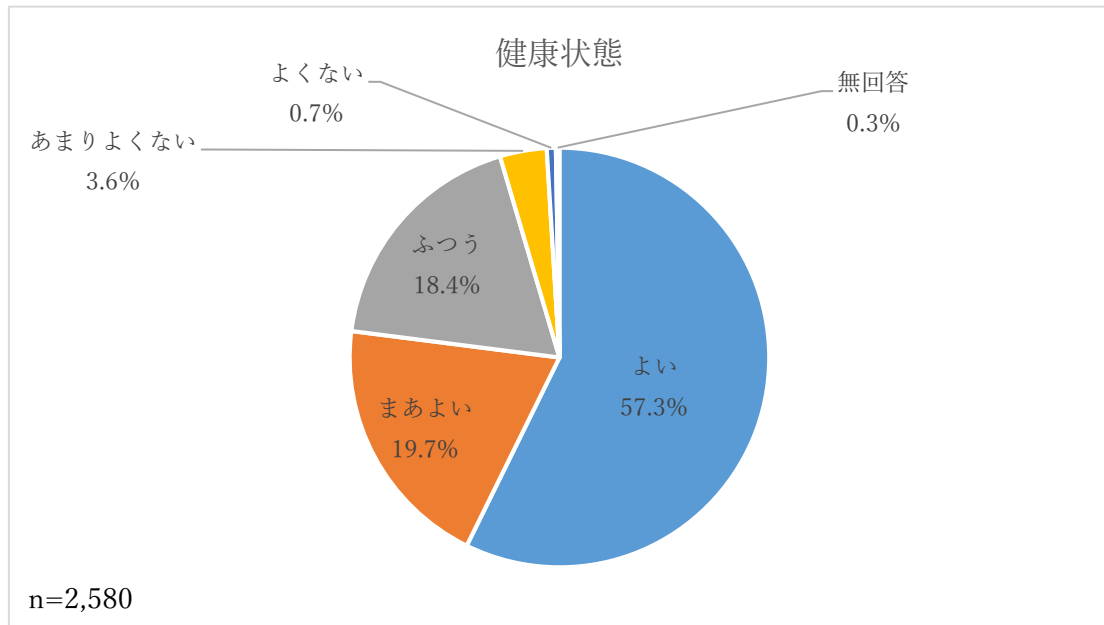


《国のアンケート調査結果》

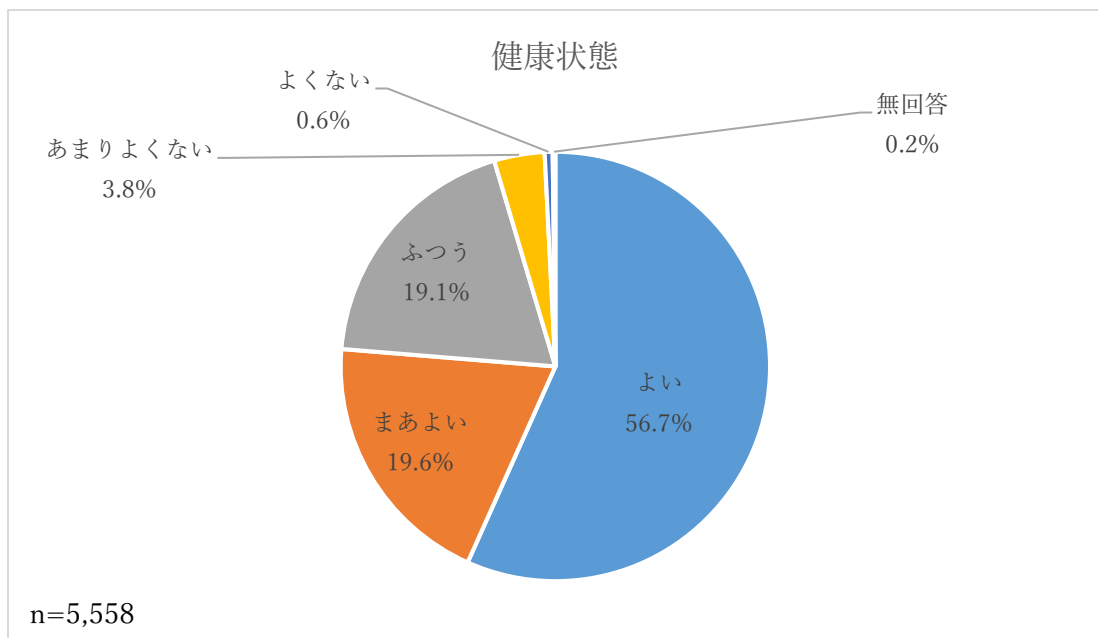


④健康状態

健康状態は、「よい」が最も高く、次いで「まあよい」、「ふつう」となっている。



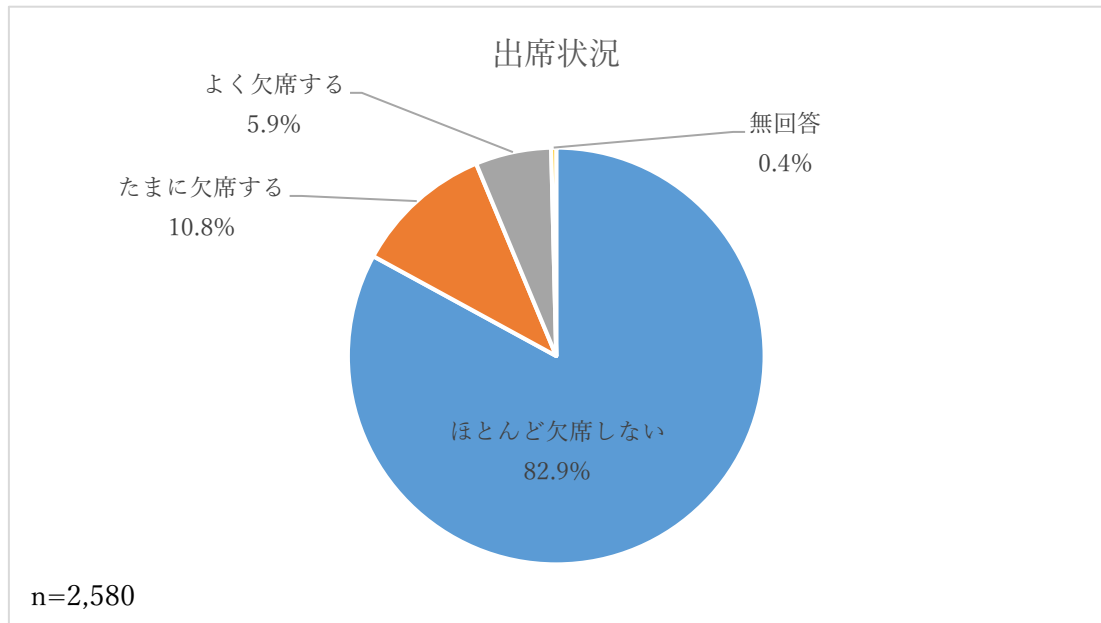
《国のアンケート調査結果》



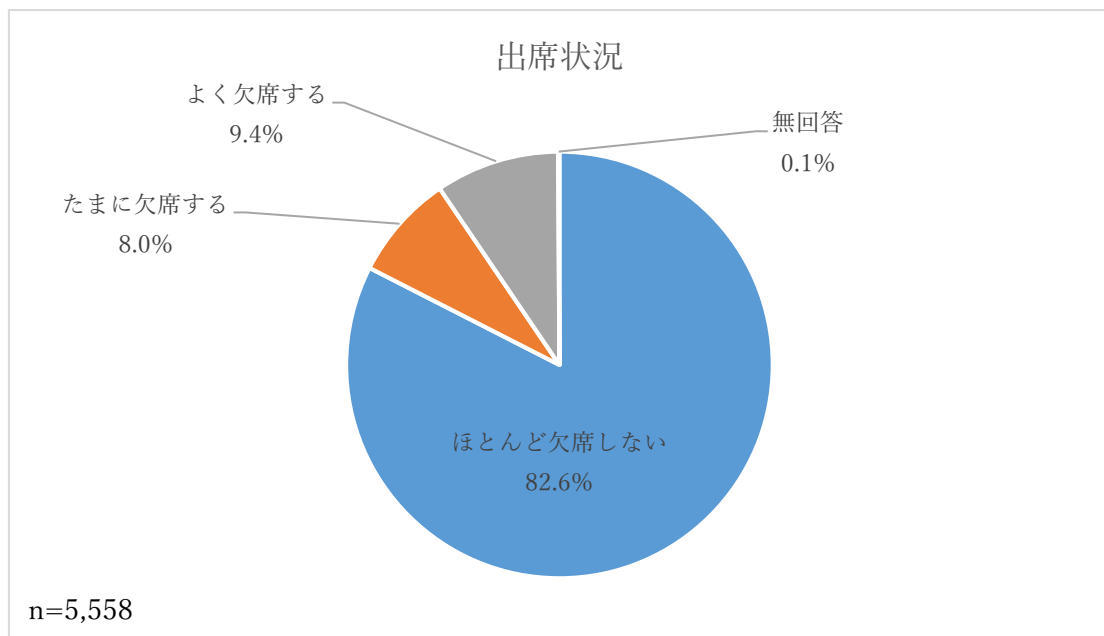
(2) 子どもの生活について

①学校への通学状況：出席状況

学校への出席状況は、「ほとんど欠席しない」が最も高くなっている。

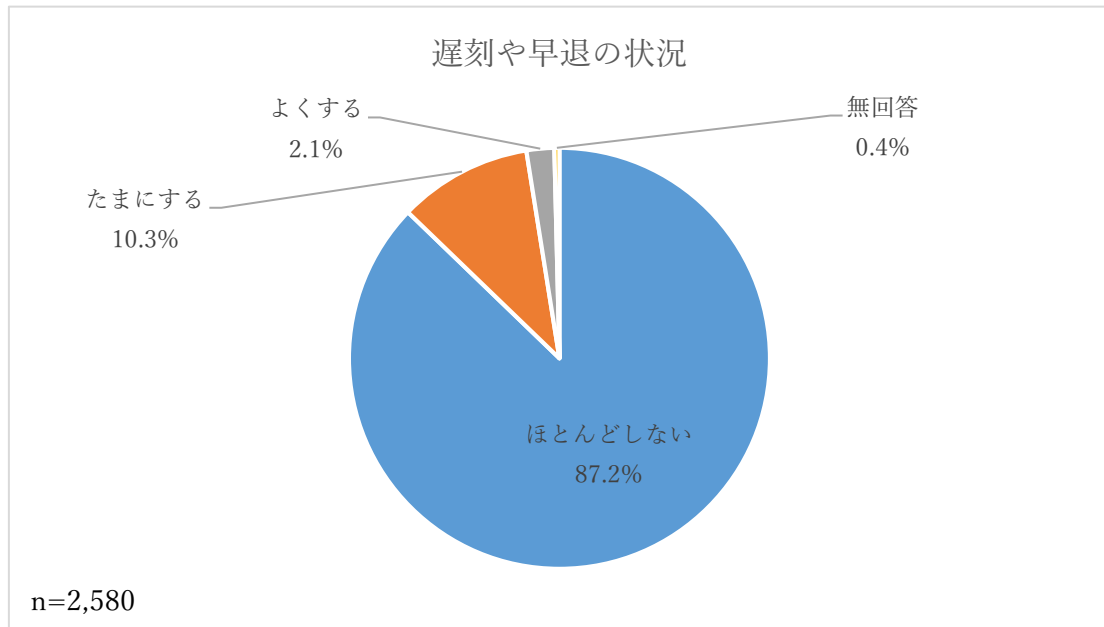


《国のアンケート調査結果》

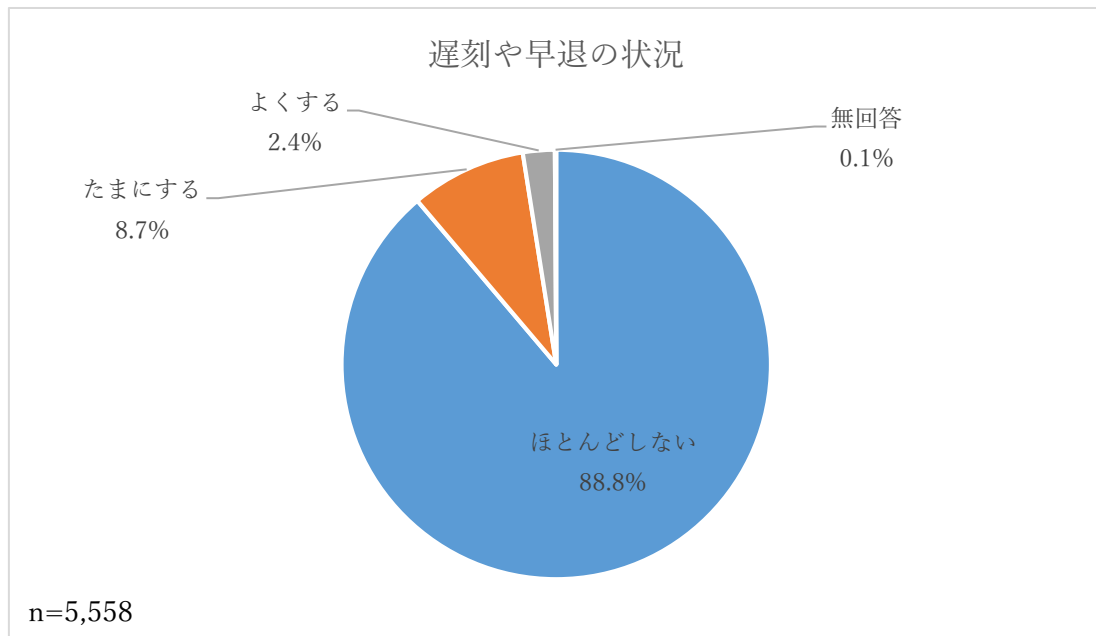


②学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が最も高くなっている。

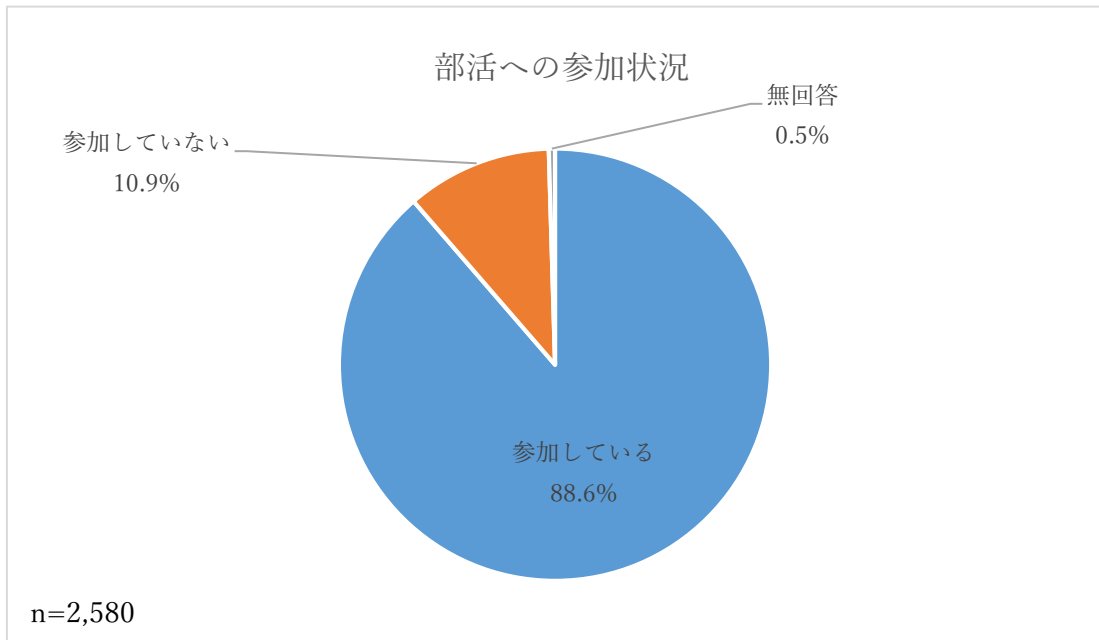


《国のアンケート調査結果》

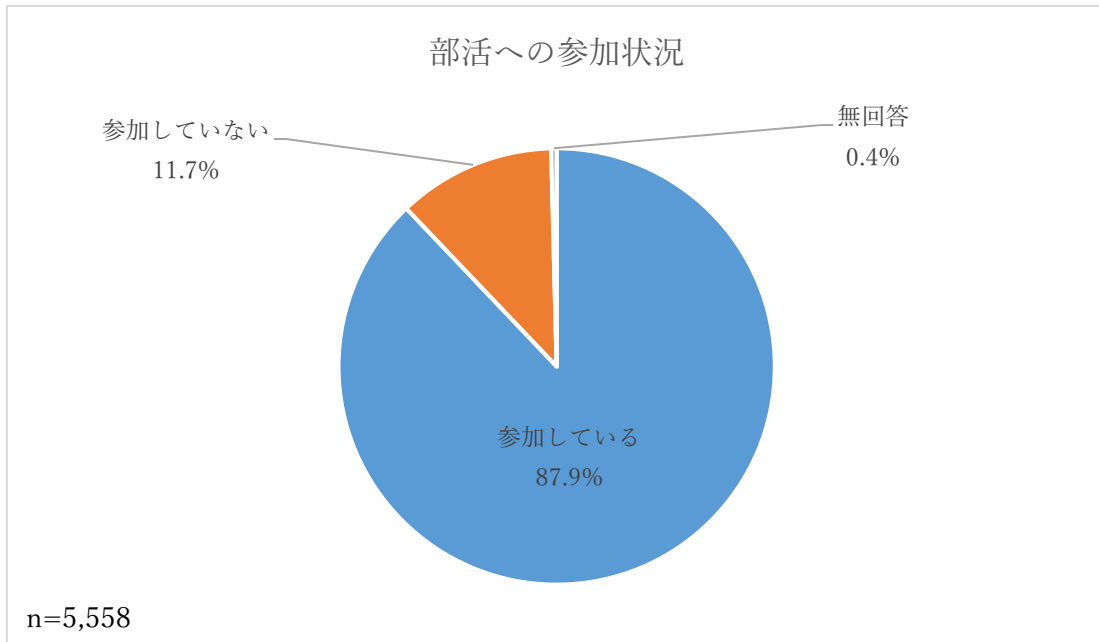


③部活への参加状況

部活への参加状況は、「参加している」が高くなっている。

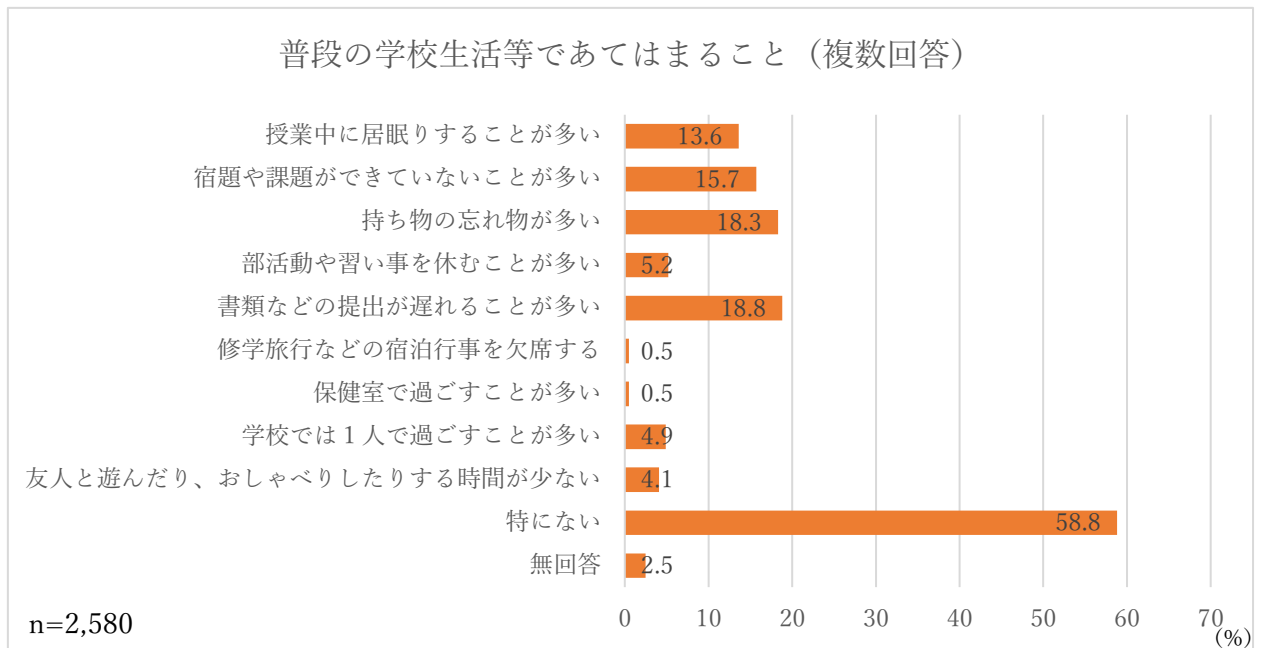


《国のアンケート調査結果》

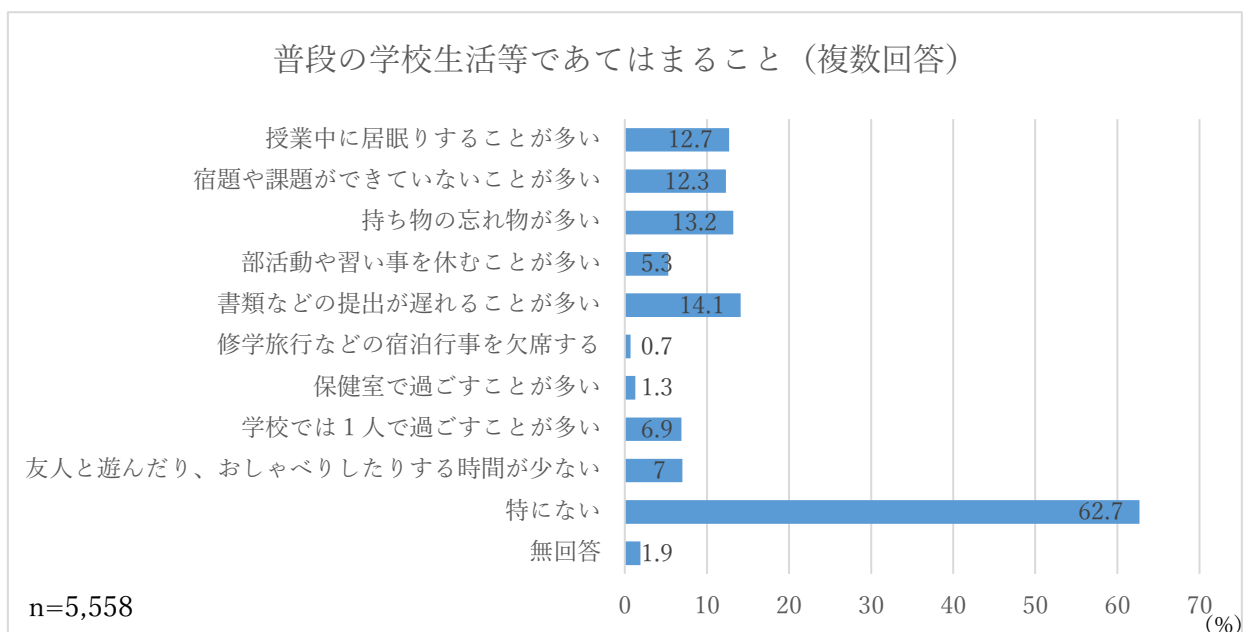


④ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、「特にない」が最も高くなっているが、そのほかでは「書類などの提出が遅れることが多い」、「持ち物の忘れ物が多い」、「宿題や課題ができないことが多い」、「授業中に居眠りすることが多い」がほかに比べやや高くなっている。

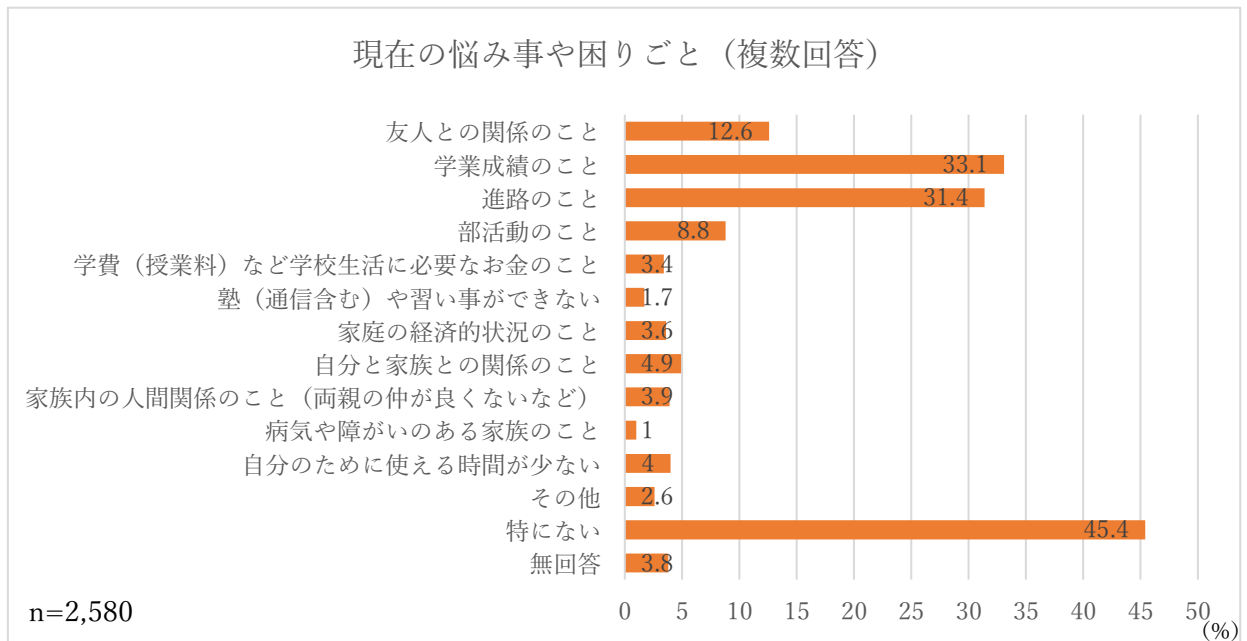


《国のアンケート調査結果》

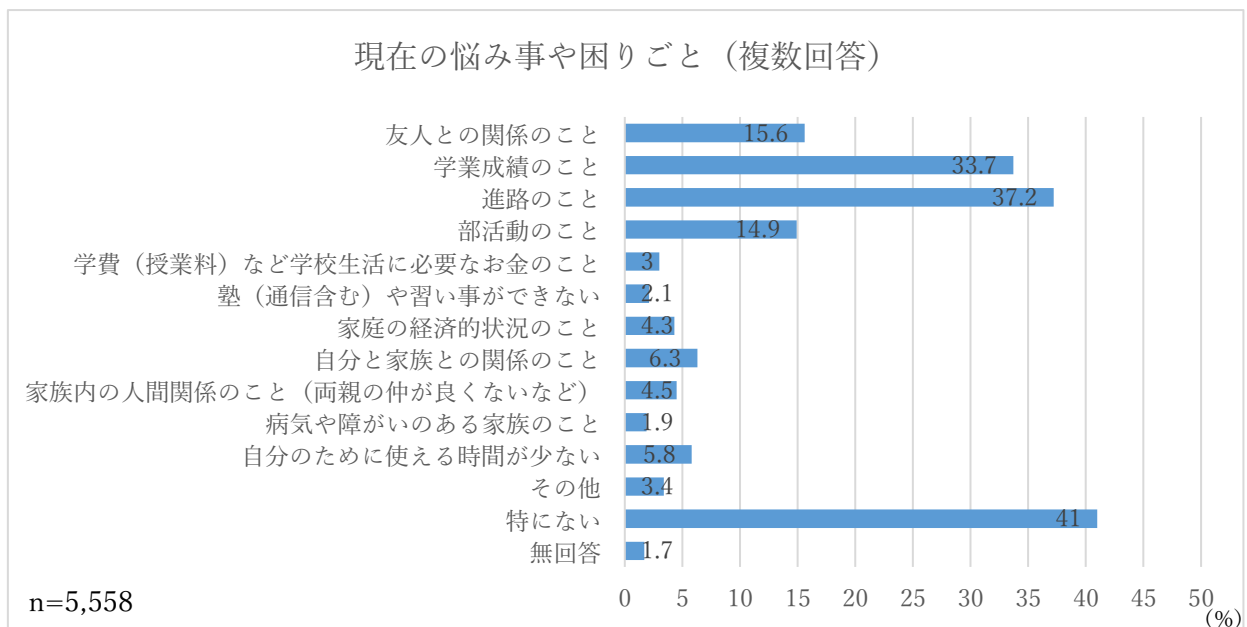


⑤現在の悩み事や困りごと

現在の悩みや困りごとについては、「特にない」が最も高く、「学業成績のこと」、「進路のこと」の順にやや高くなっている。

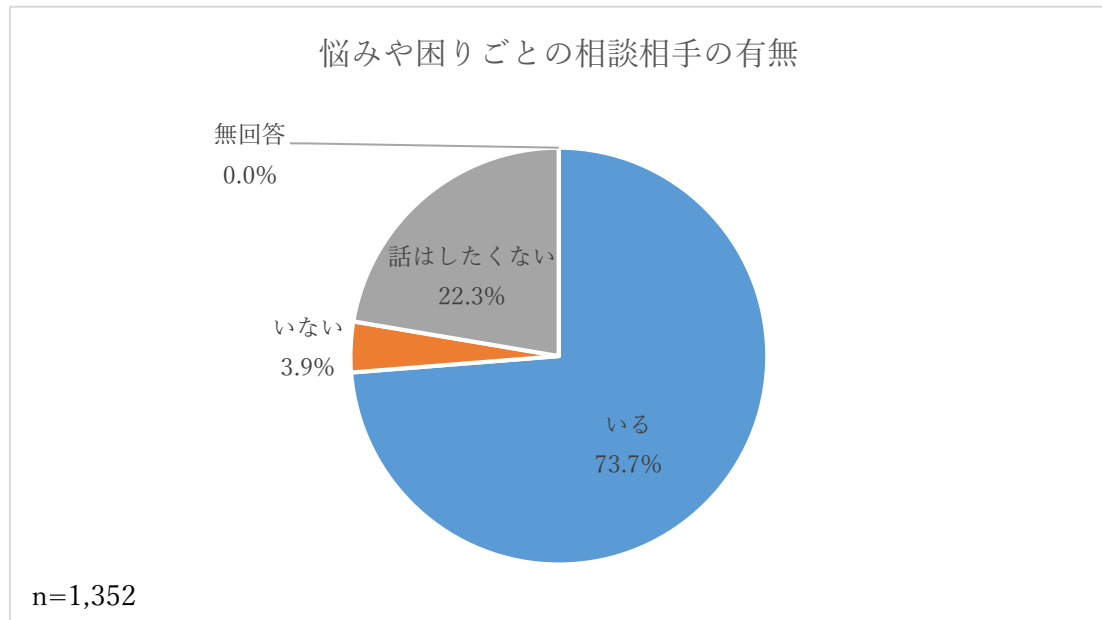


《国のアンケート調査結果》

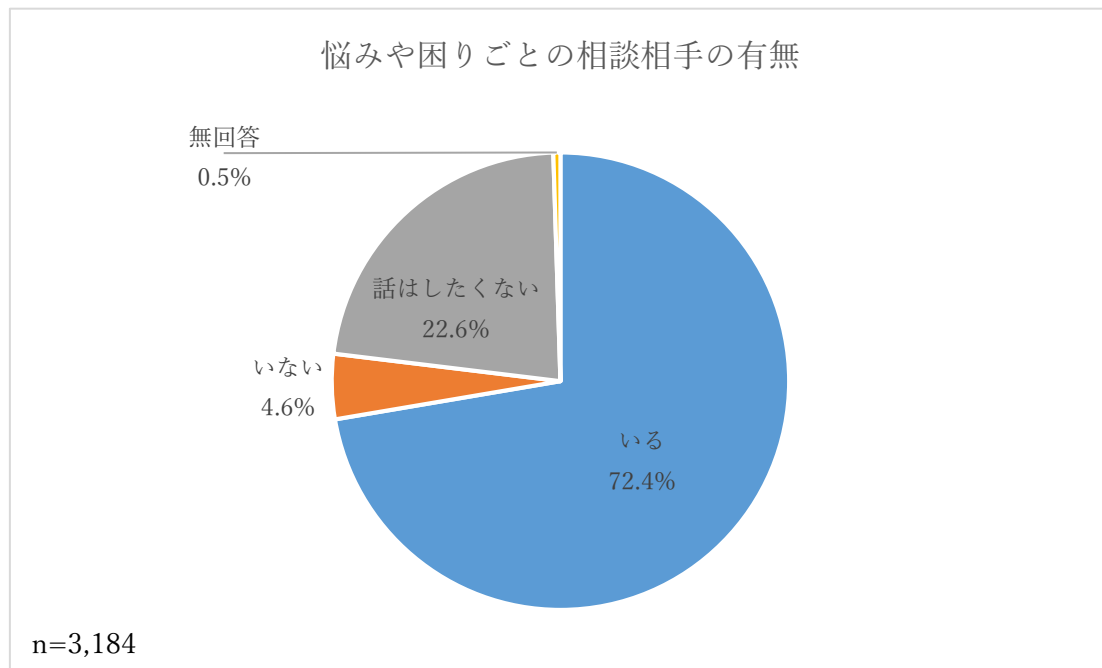


⑥悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、「いる」が過半数を超え最も高くなっている一方で、「話したくない」という回答の割合が高くなっている。



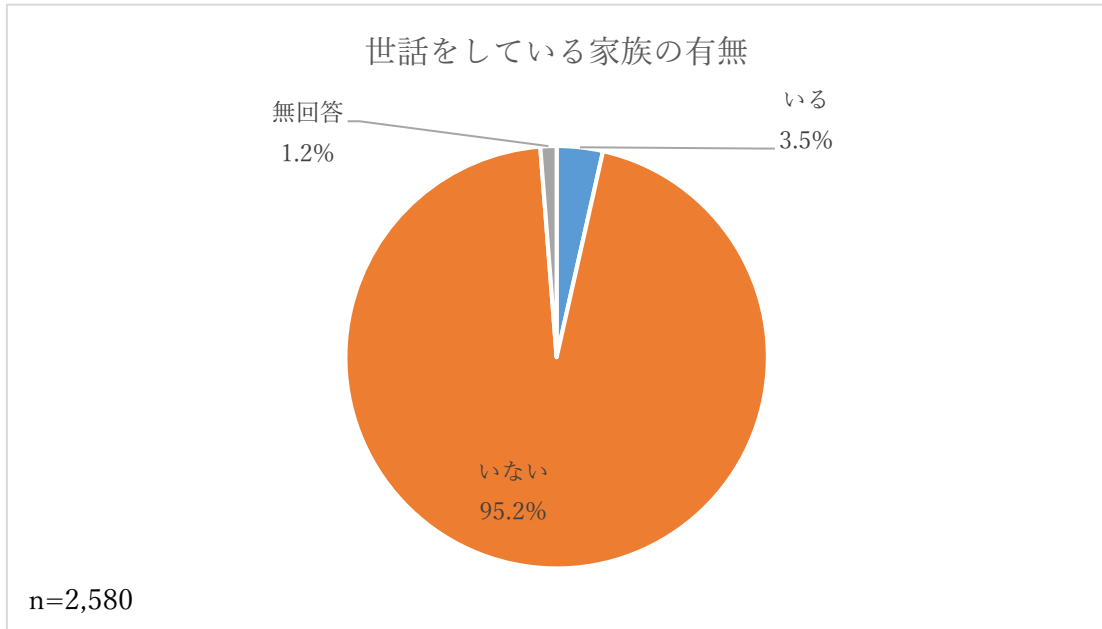
《国のアンケート調査結果》



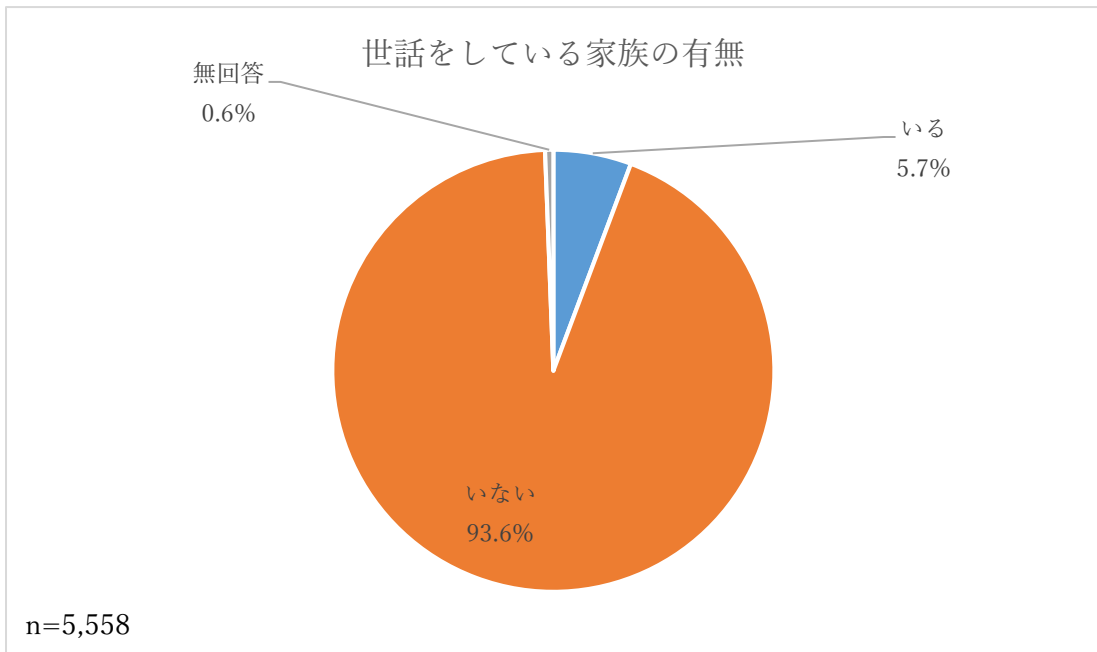
(3) 家庭や家族のことについて

①世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、以下の通りである。

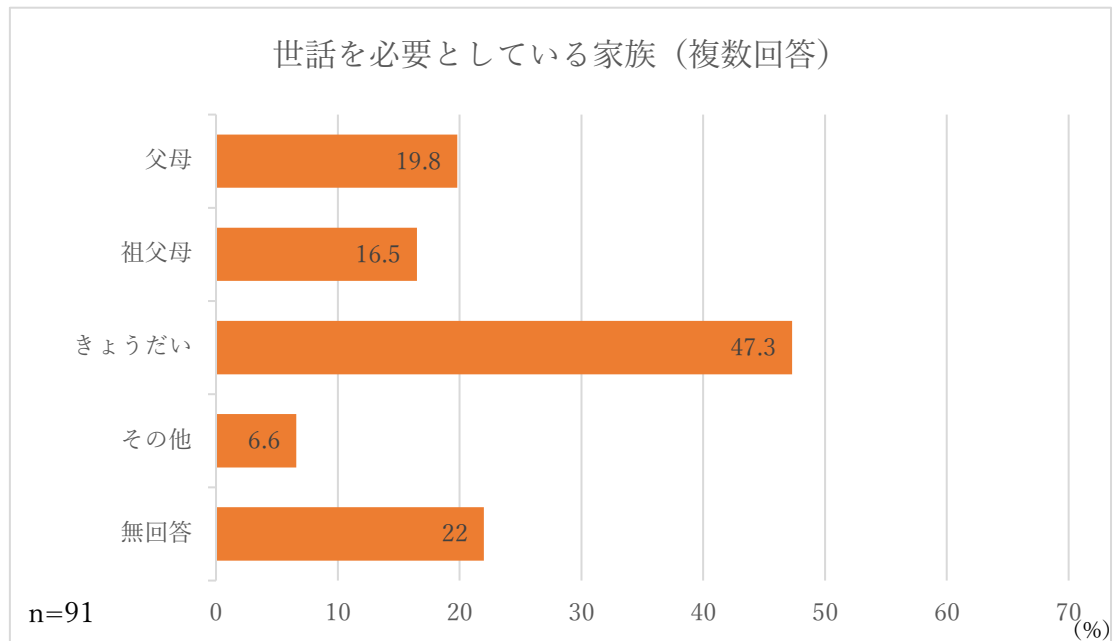


《国のアンケート調査結果》

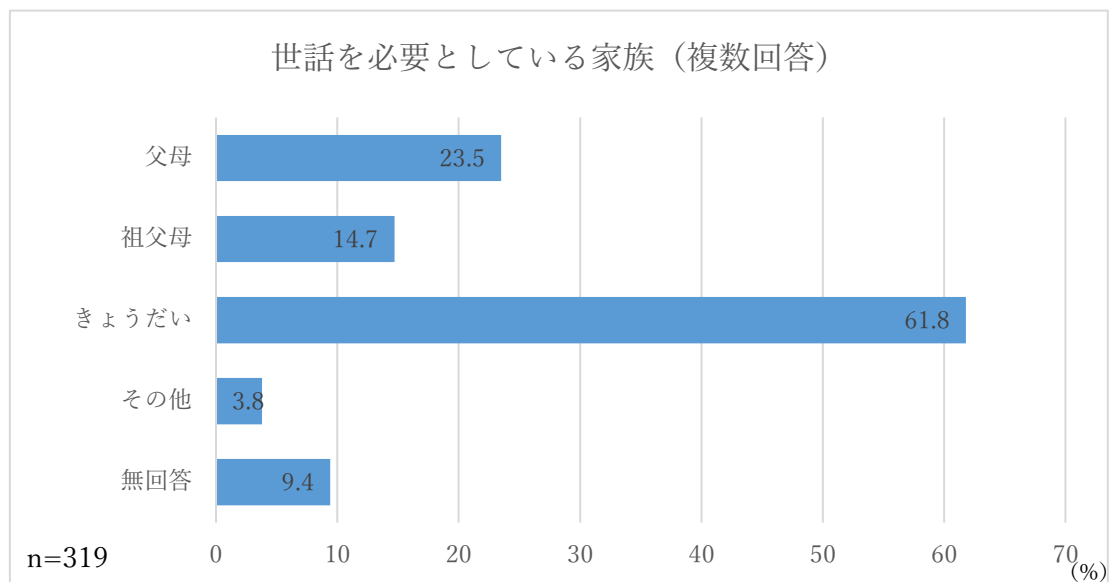


②世話を必要としている家族

世話を必要としている家族については、「きょうだい」が最も高く、次いで「父母」となっている。

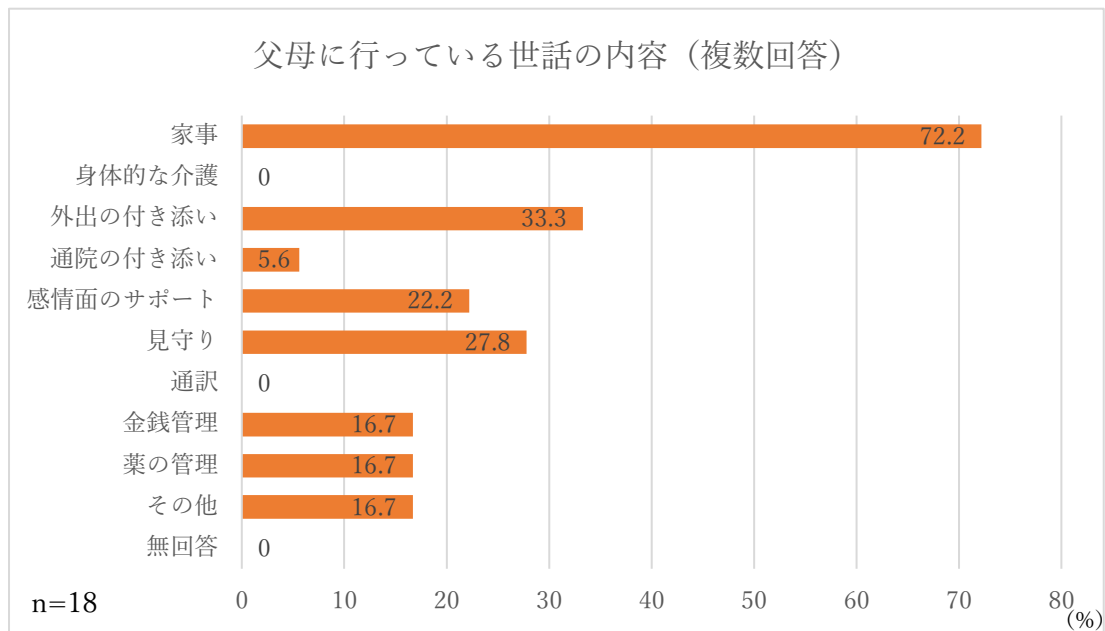


《国のアンケート調査結果》

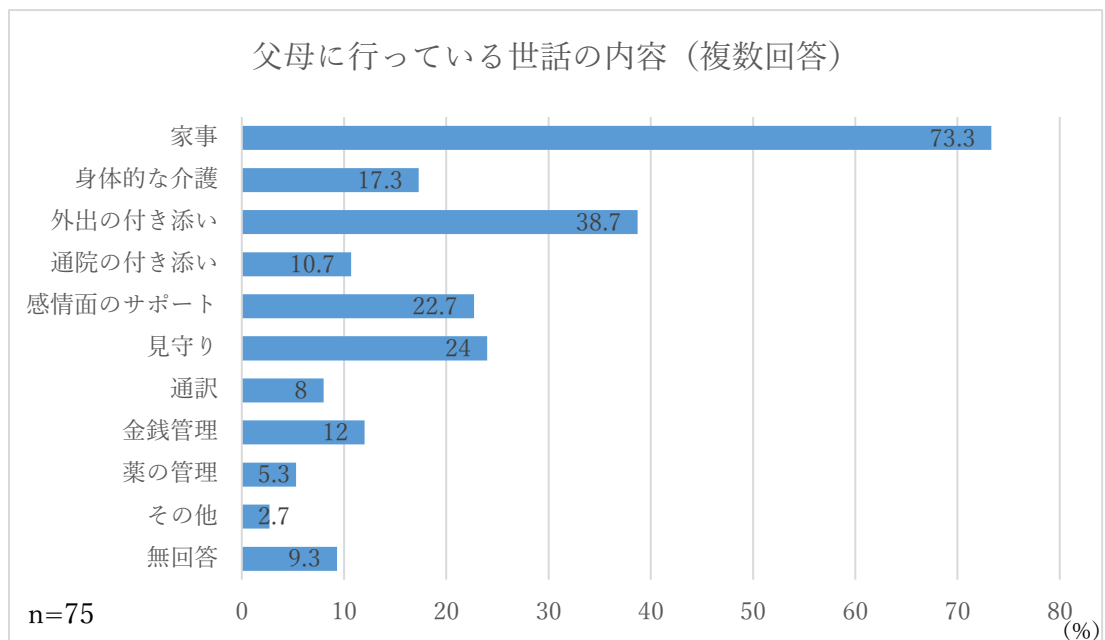


③父母に行っている世話の内容

世話を必要としている家族について、「父母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」が最も高く、次いで「外出の付き添い」となっている。

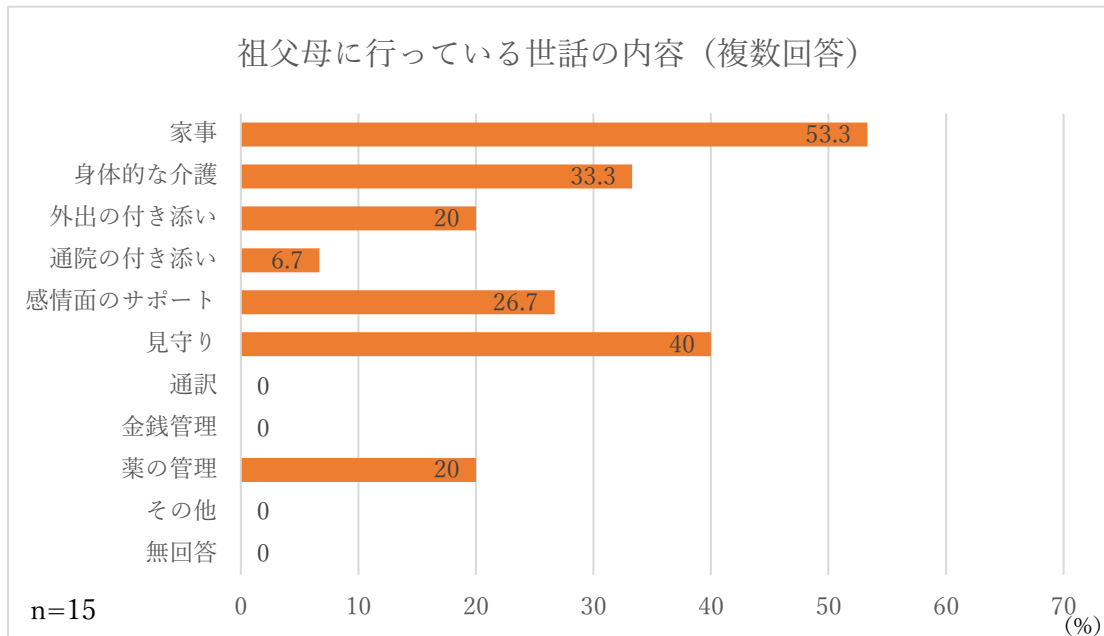


《国のアンケート調査結果》

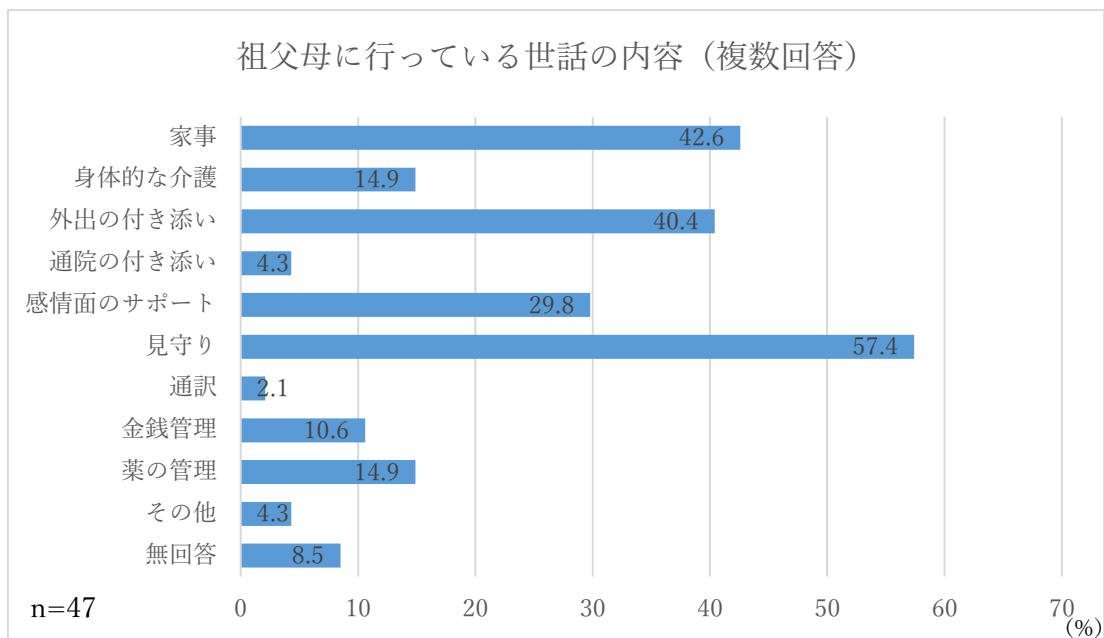


④祖父母に行っている世話

世話を必要としている家族について、「祖父母」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「家事」が最も高く、次いで「見守り」となっている。

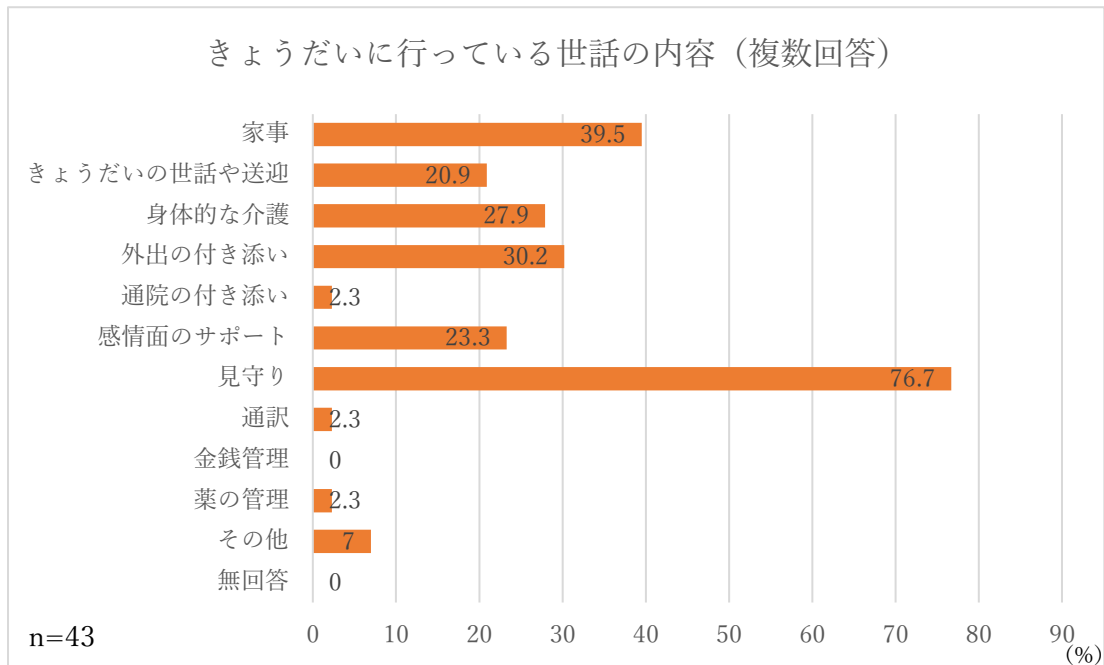


《国のアンケート調査結果》

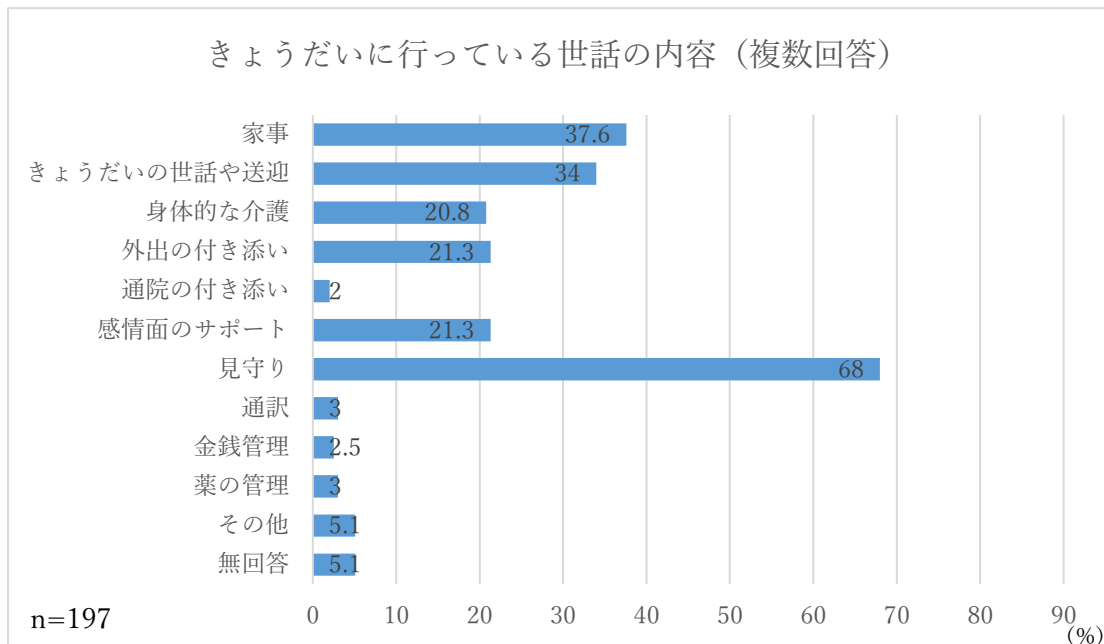


⑤きょうだいに行っている世話

世話を必要としている家族について、「きょうだい」と回答した人に、世話の内容を聞いたところ、「みまもり」が最も高く、次いで「家事」となっている。

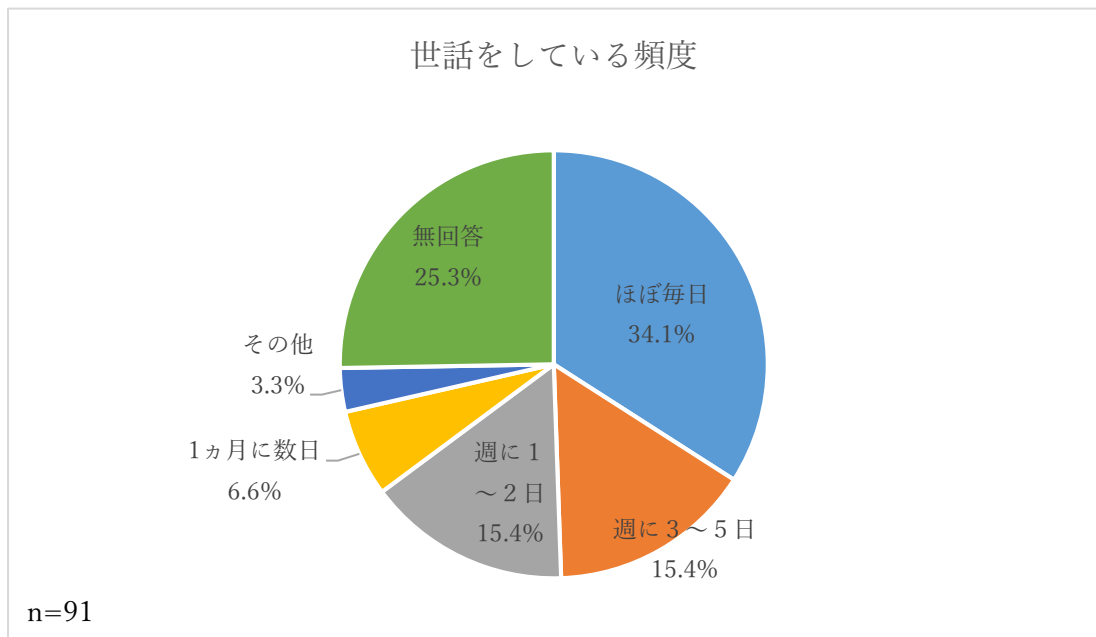


《国のアンケート調査結果》

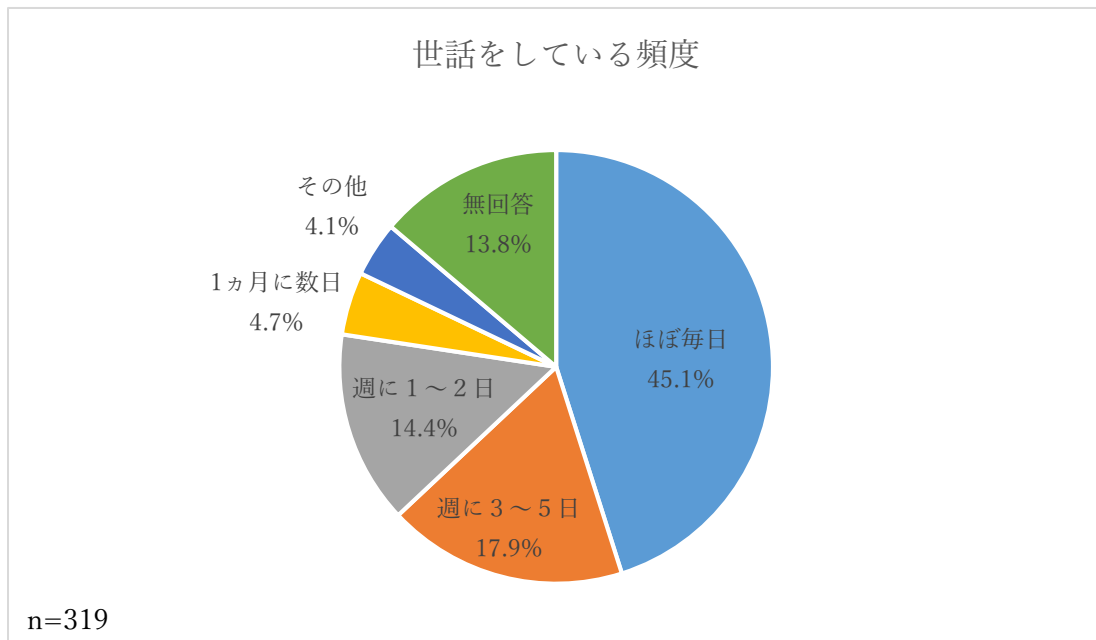


⑥世話をしている頻度

世話をしている頻度については、「ほぼ毎日」が最も高くなっている。

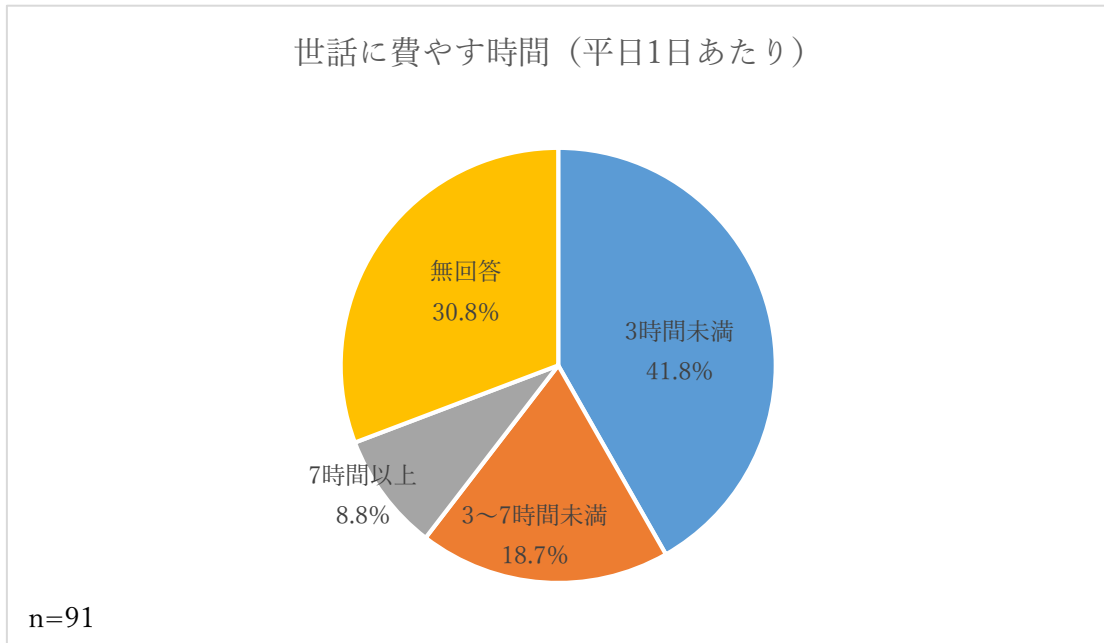


《国のアンケート調査結果》

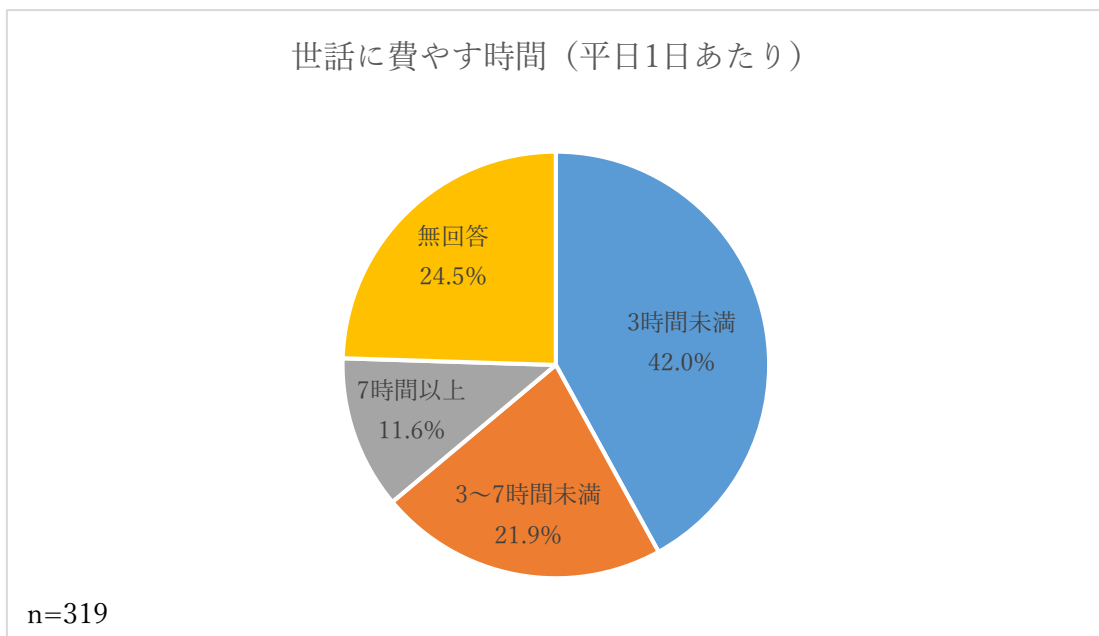


⑦平日 1日あたりに世事に費やす時間

平日 1日あたりに世事に費やす時間については、平均 3.3 時間となっている。(国調査の平均は 4.0 時間)

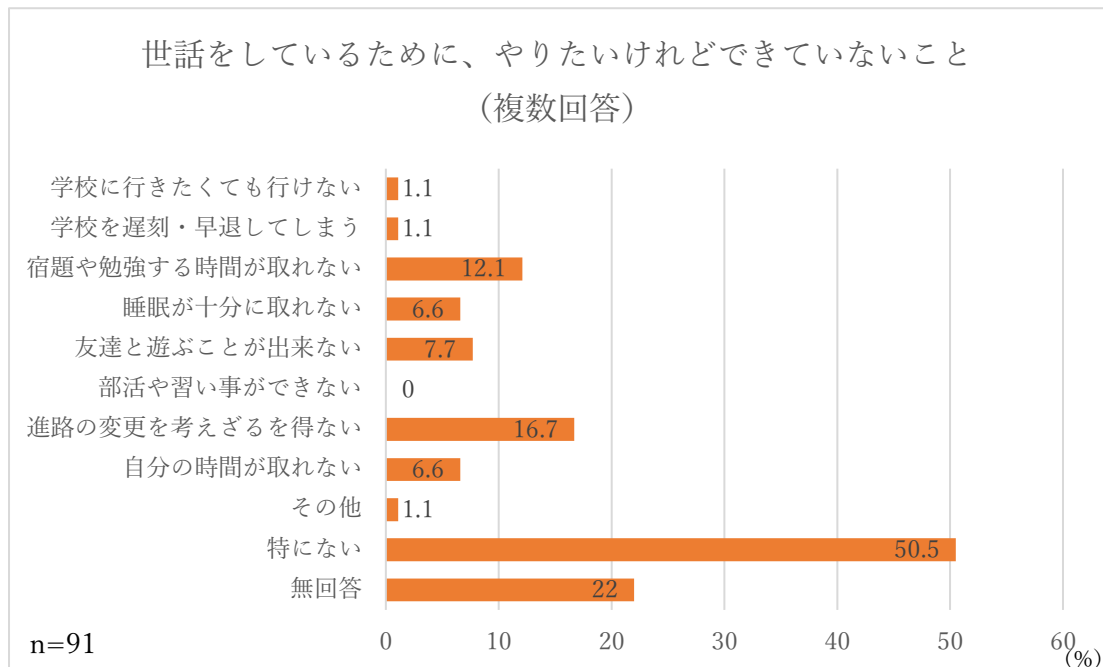


《国のアンケート調査結果》

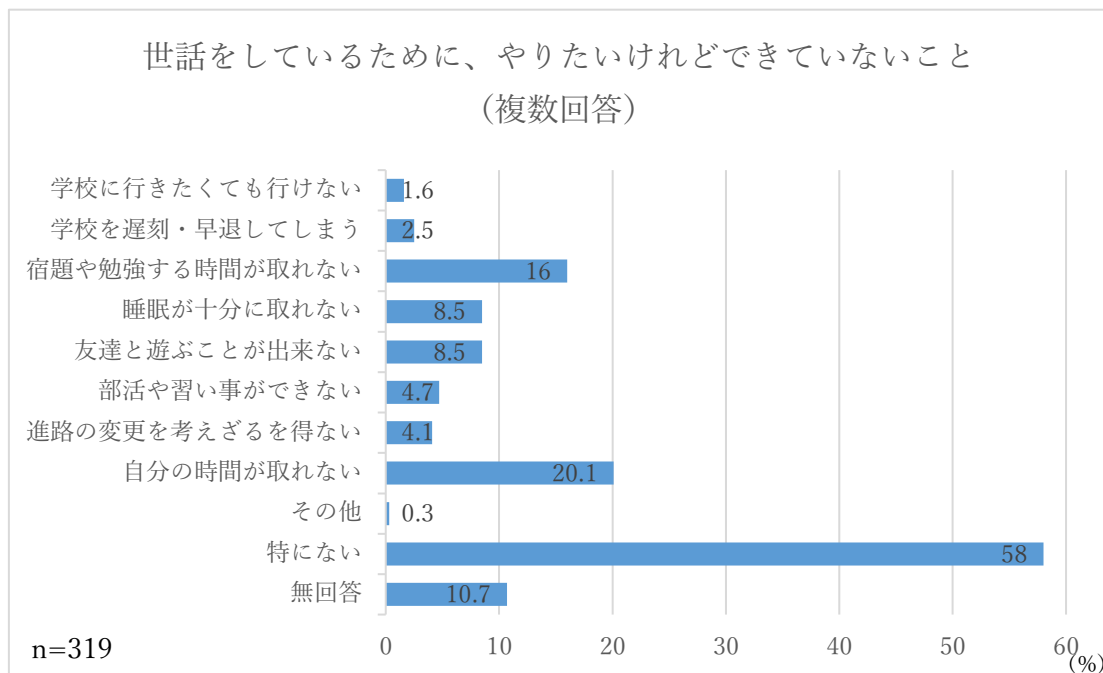


⑧世話をしているために、やりたいけどできないこと

世話をしているために、やりたいけどできないことについては「進路の変更を考えざるを得ない、もしくは進路を変更した」が最も高くなっている。

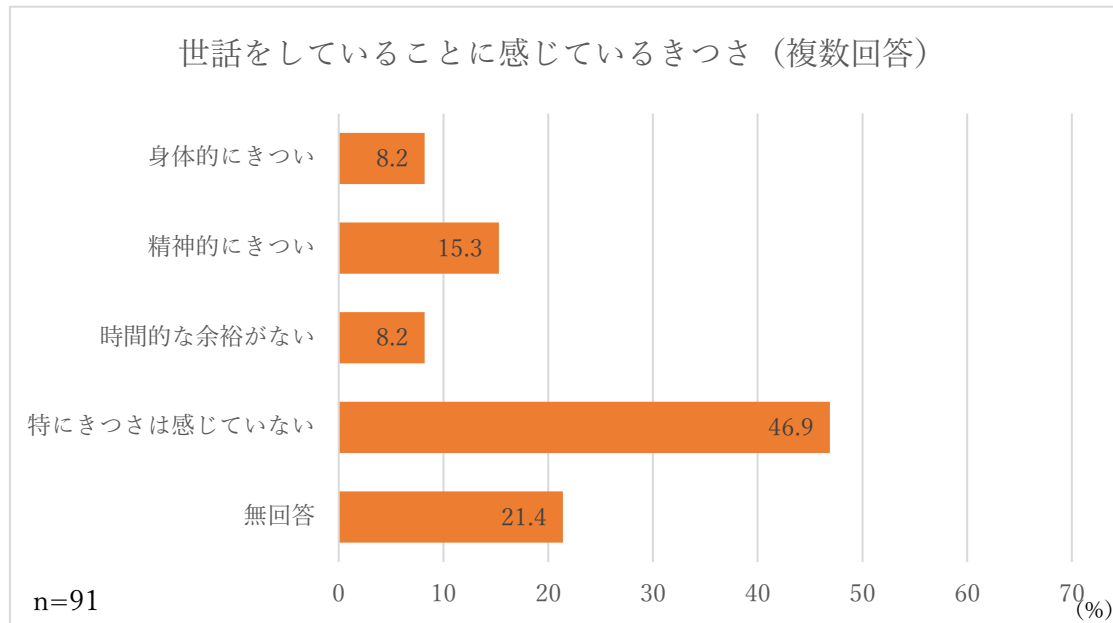


《国のアンケート調査結果》

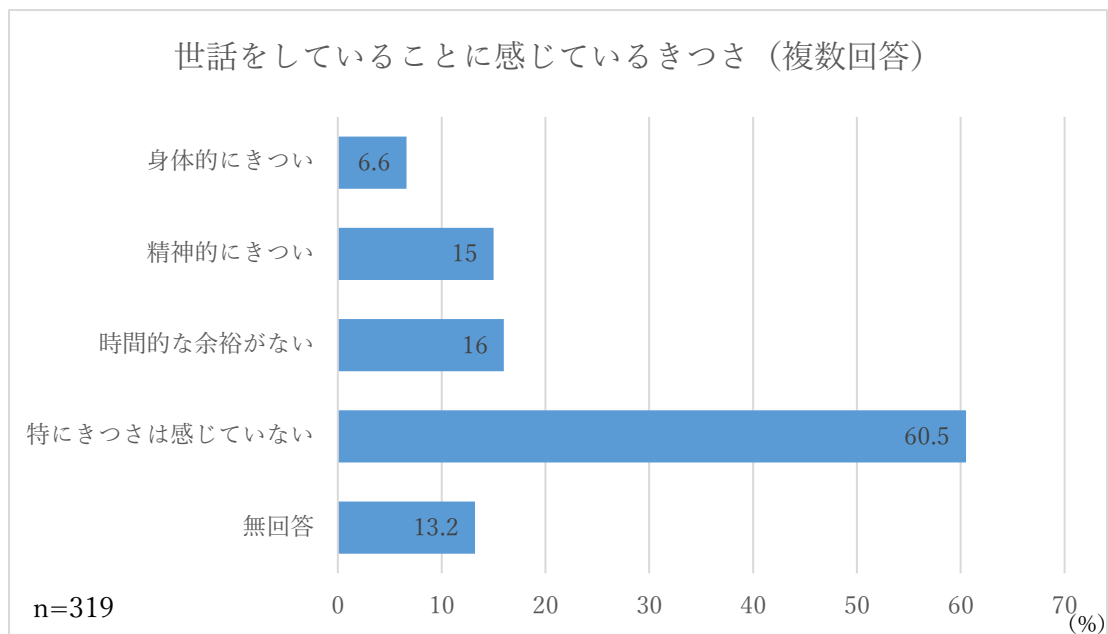


◎世話のきつさ

世話をしていることに感じているきつさについては、「特にきつさは感じていない」が最も高くなっている。

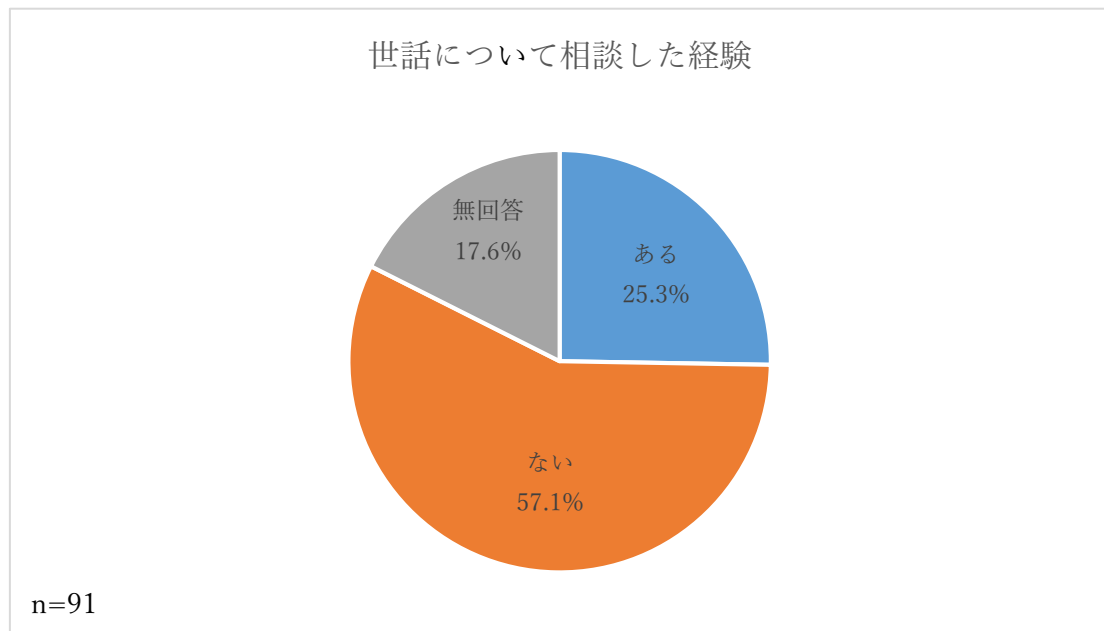


《国のアンケート調査結果》

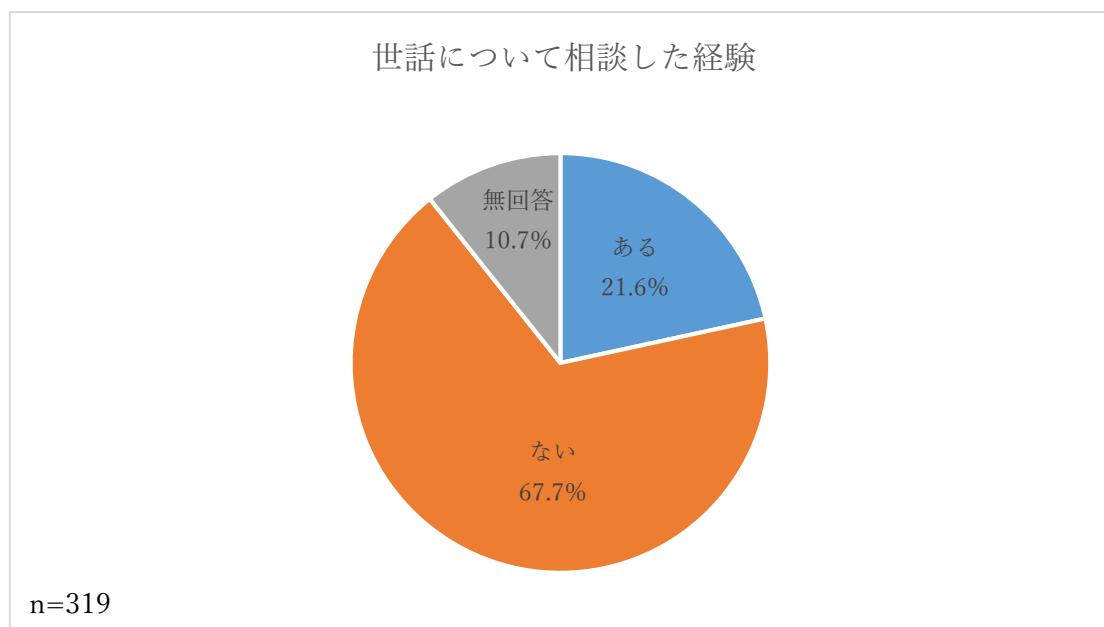


⑩世話についての相談

世話を必要としている家族のことや、世話の悩みを誰かに相談したことがあるかについては「ない」が最も高くなっている。

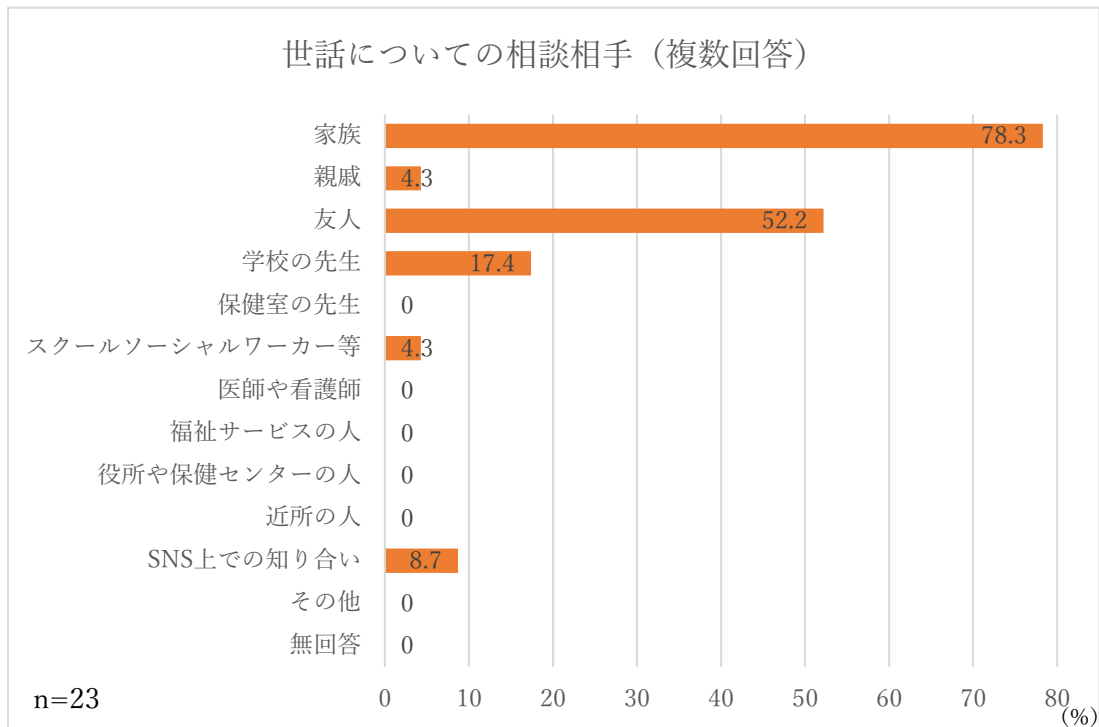


《国のアンケート調査結果》

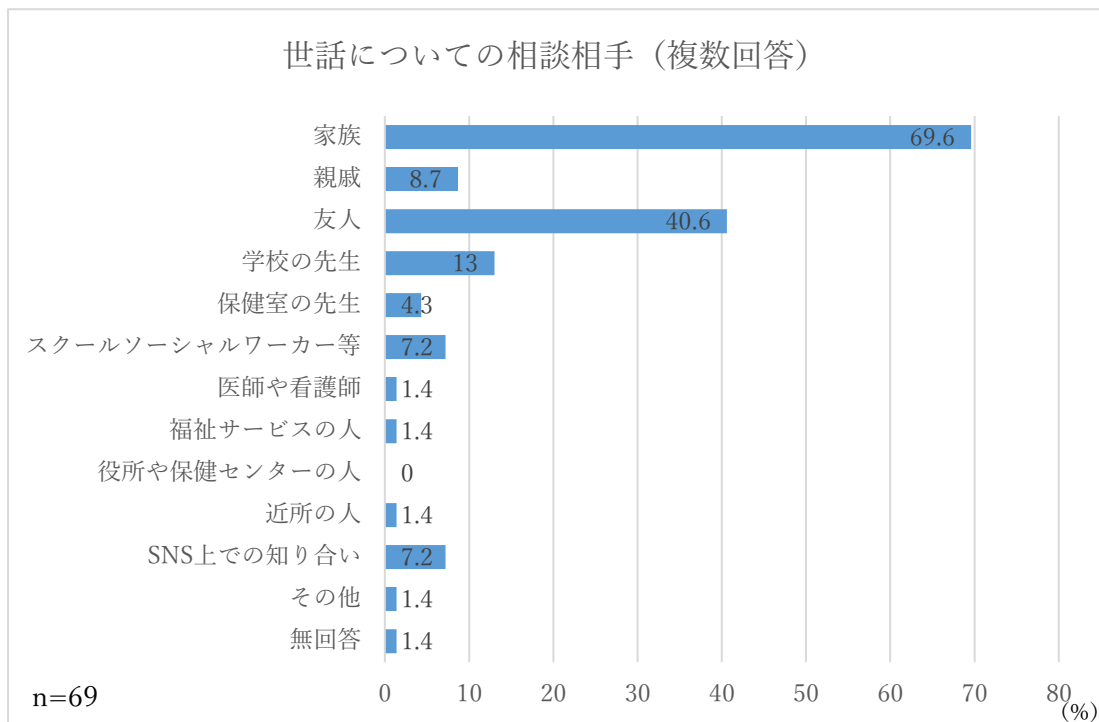


⑪世話についての相談相手

世話についての相談相手は「家族」が最も高く、次いで「友人」となっている。

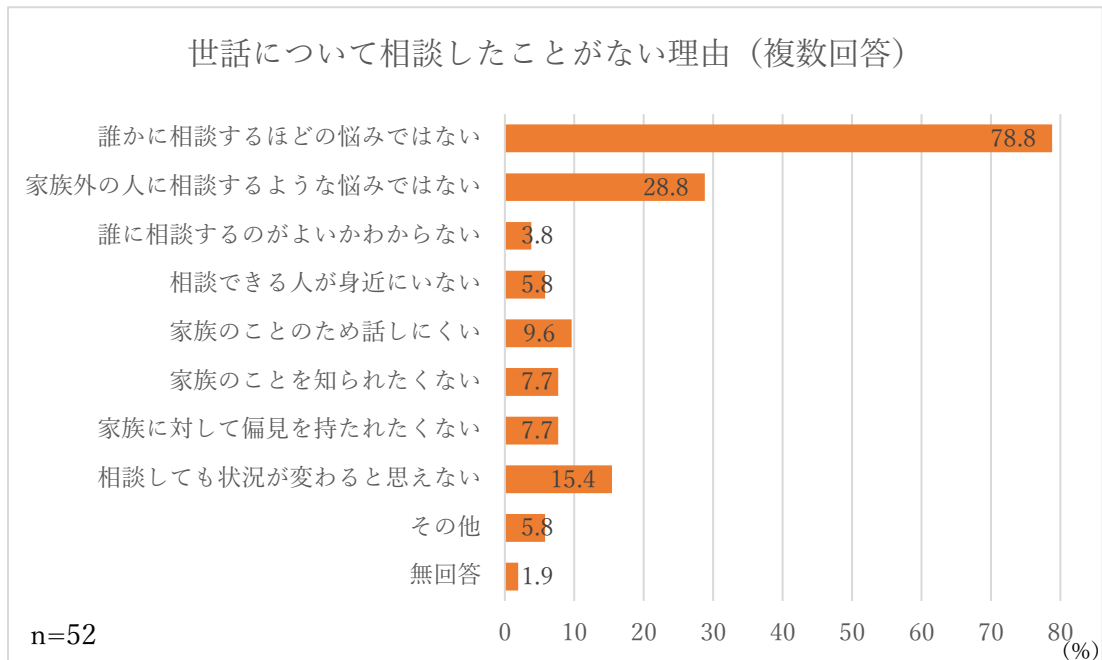


《国のアンケート調査結果》

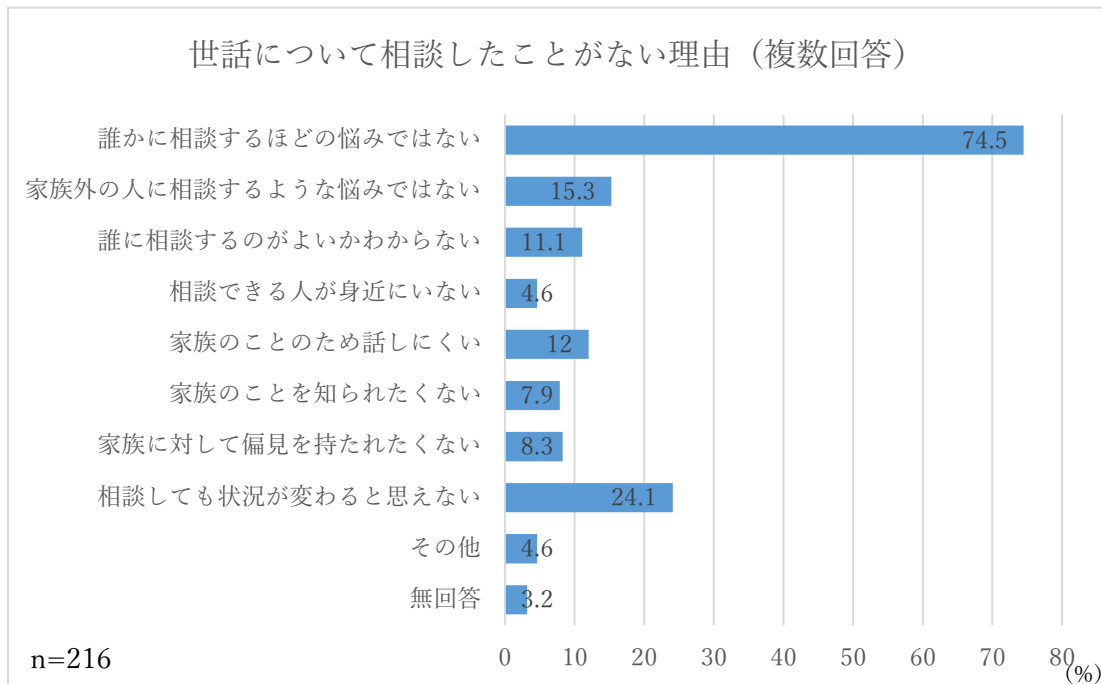


⑫世話について相談したことがない理由

世話についての相談した経験が「ない」と回答した人に、その理由について聞いたところ、「誰かに相談するほどの悩みではない」が最も高くなっている。

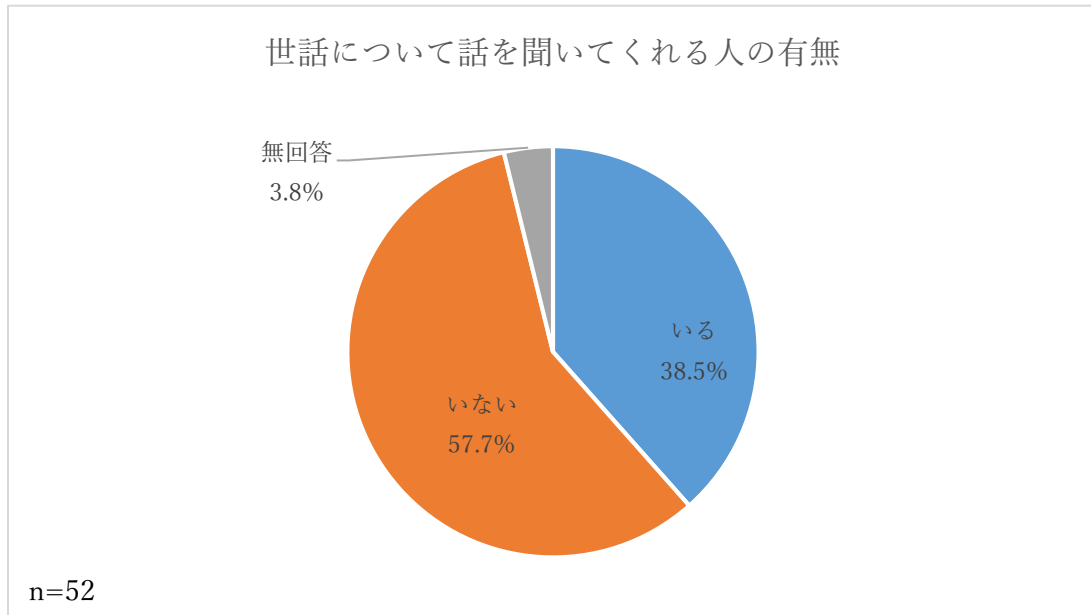


《国のアンケート調査結果》

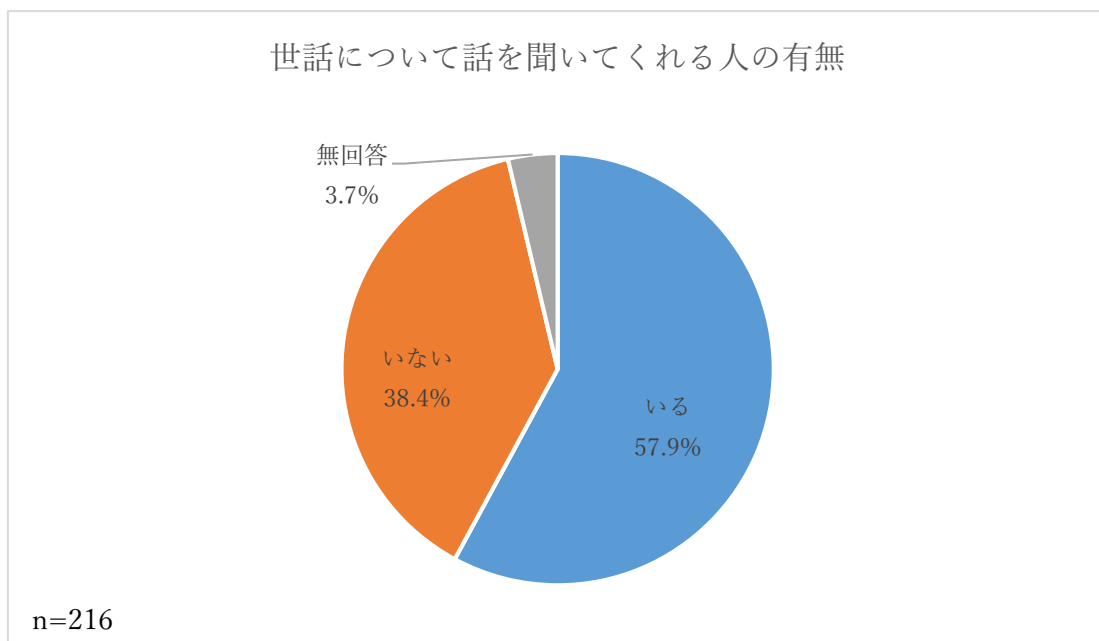


⑬世話について話を聞いてくれる人の有無

世話についての相談した経験が「ない」と回答した人に、世話について話を聞いてくれる人の有無を確認したところ、約4割が「いる」と回答している。

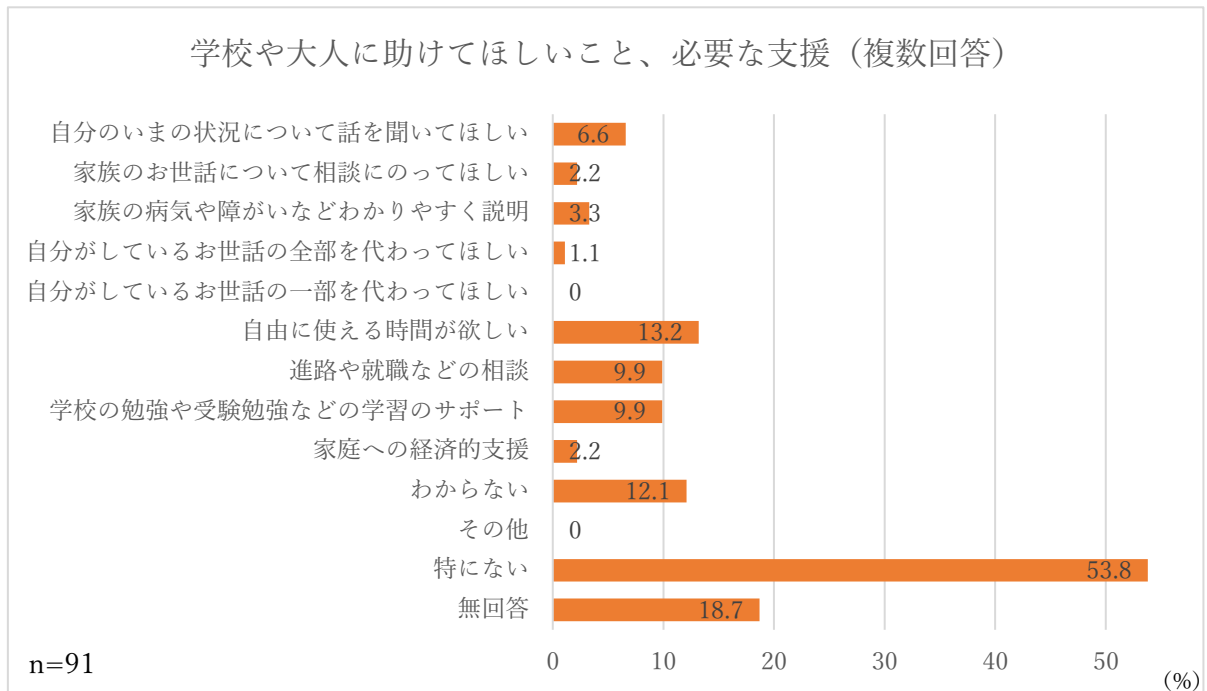


《国のアンケート調査結果》

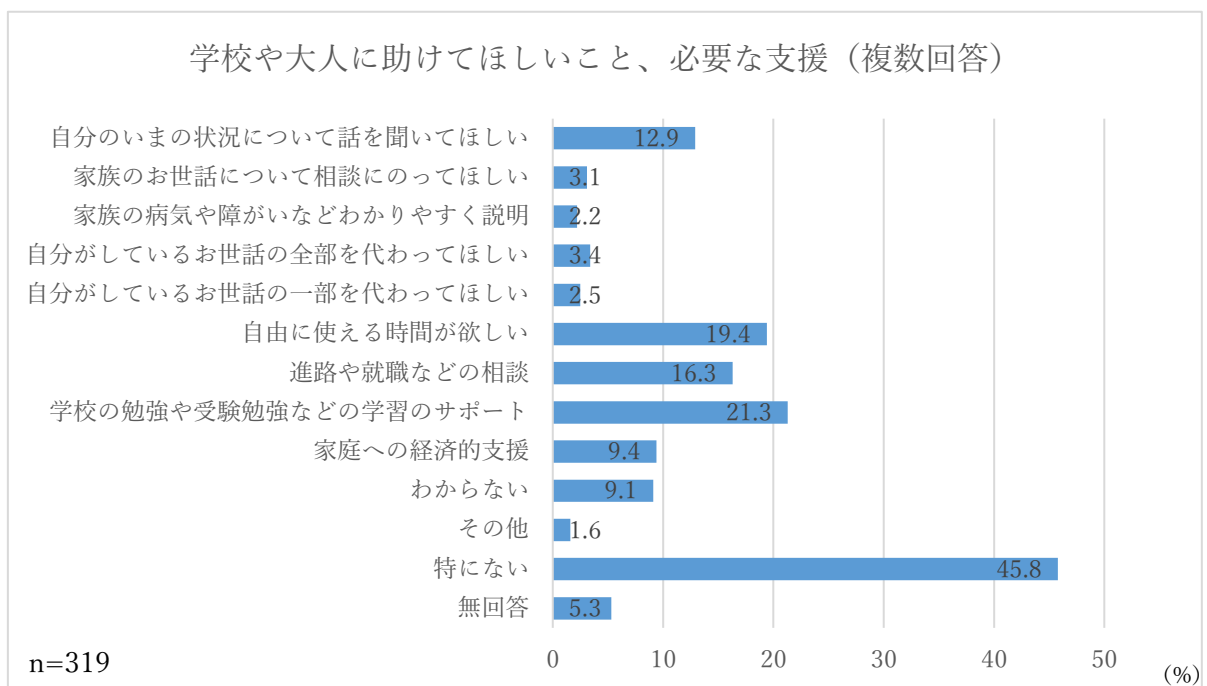


⑭学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援

学校や大人に助けてほしいこと、必要な支援については、「特にない」が5割を超えており、次いで「自由に使える時間が欲しい」、「進路や就職などの将来の相談にのってほしい」、「学校の勉強や受験勉強のサポート」となっている。



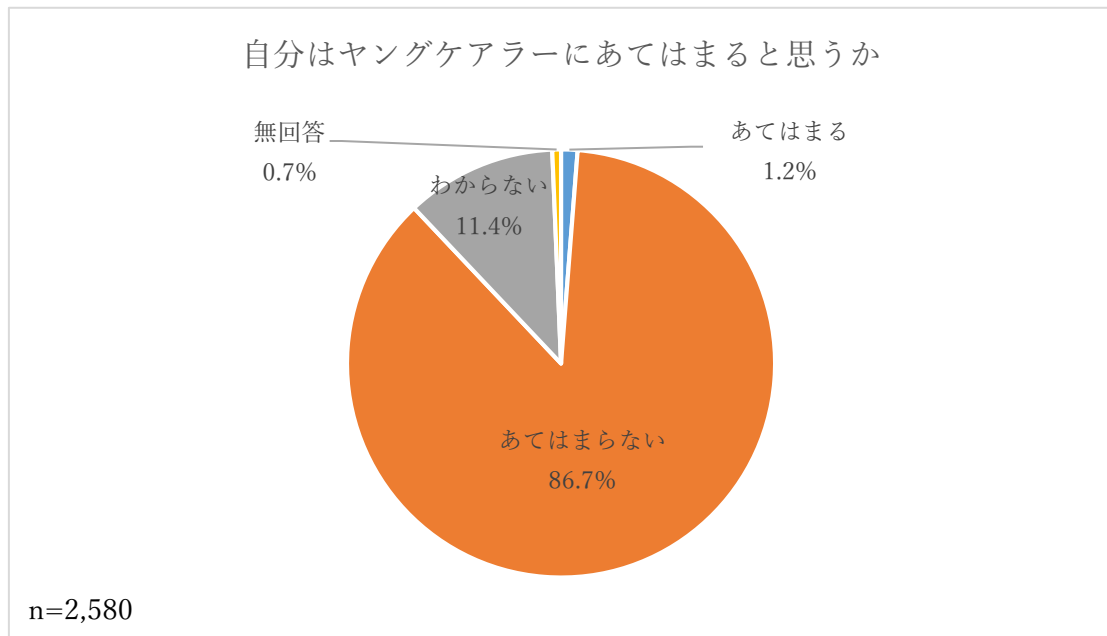
《国のアンケート調査結果》



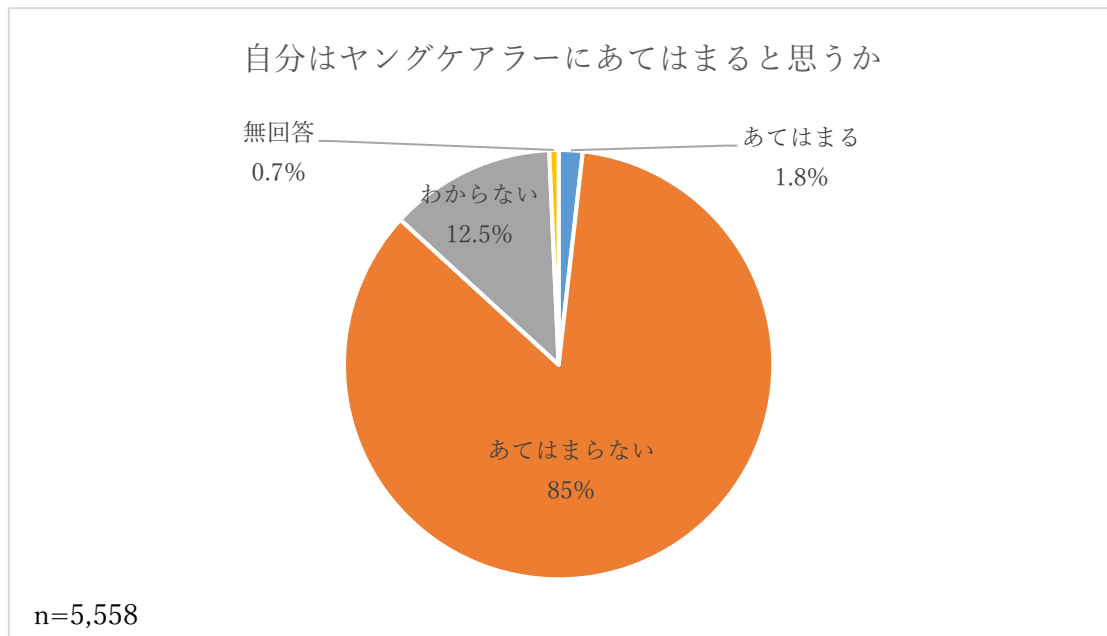
(4) ヤングケアラーについて

①ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、「あてはまる」が1.2%となっている。

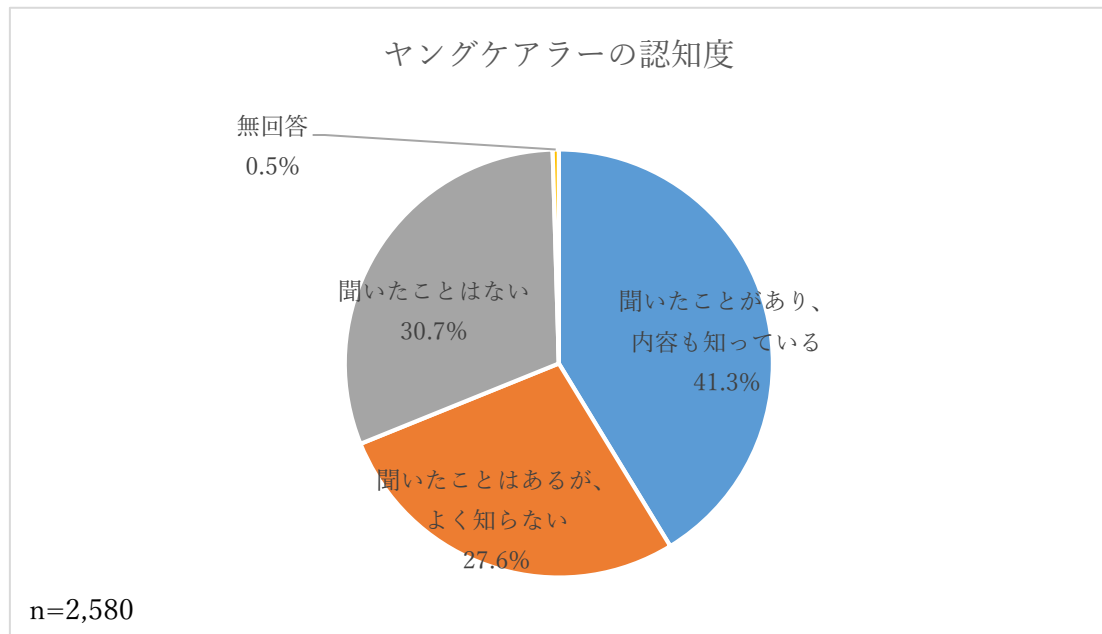


《国のアンケート調査結果》

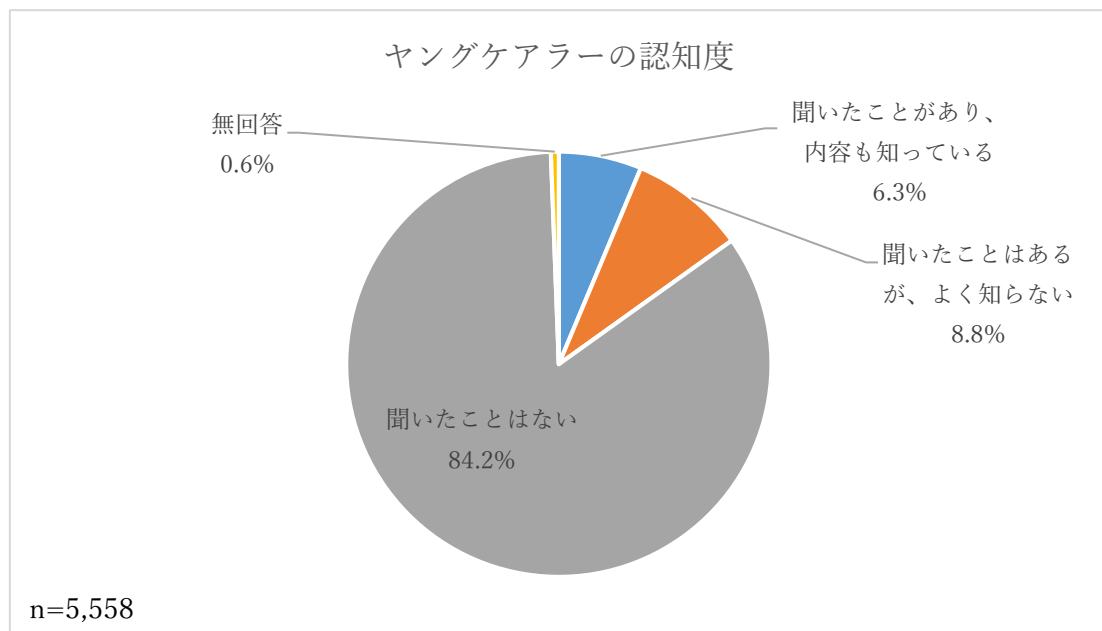


②ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがあり、内容も知っている」が最も高く、次いで「聞いたことはない」、「聞いたことはあるが、よく知らない」となっている。

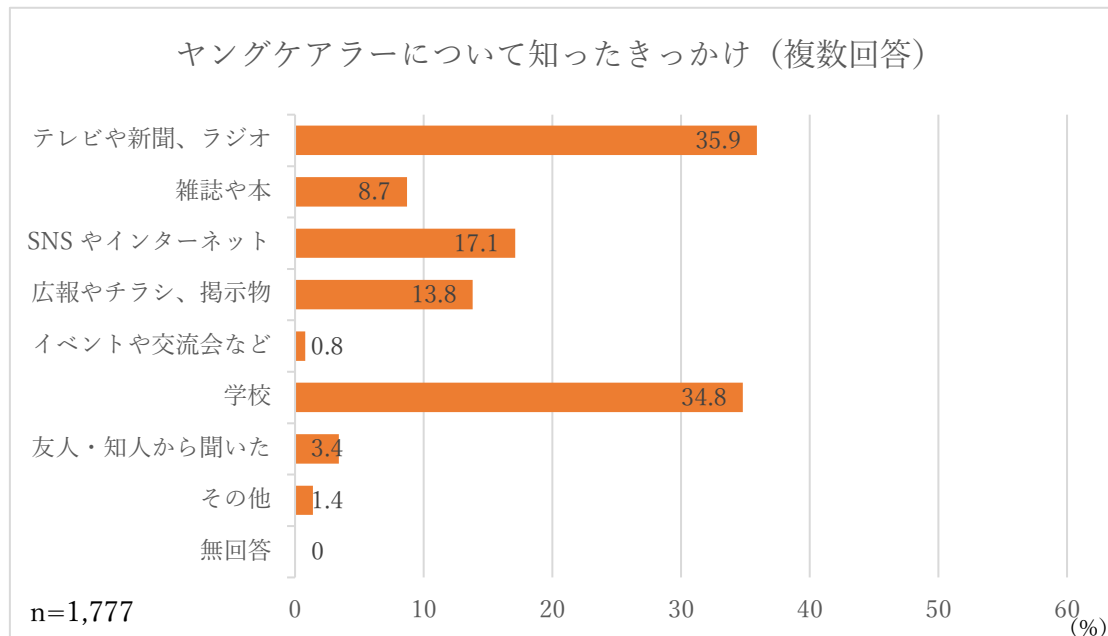


《国のアンケート調査結果》

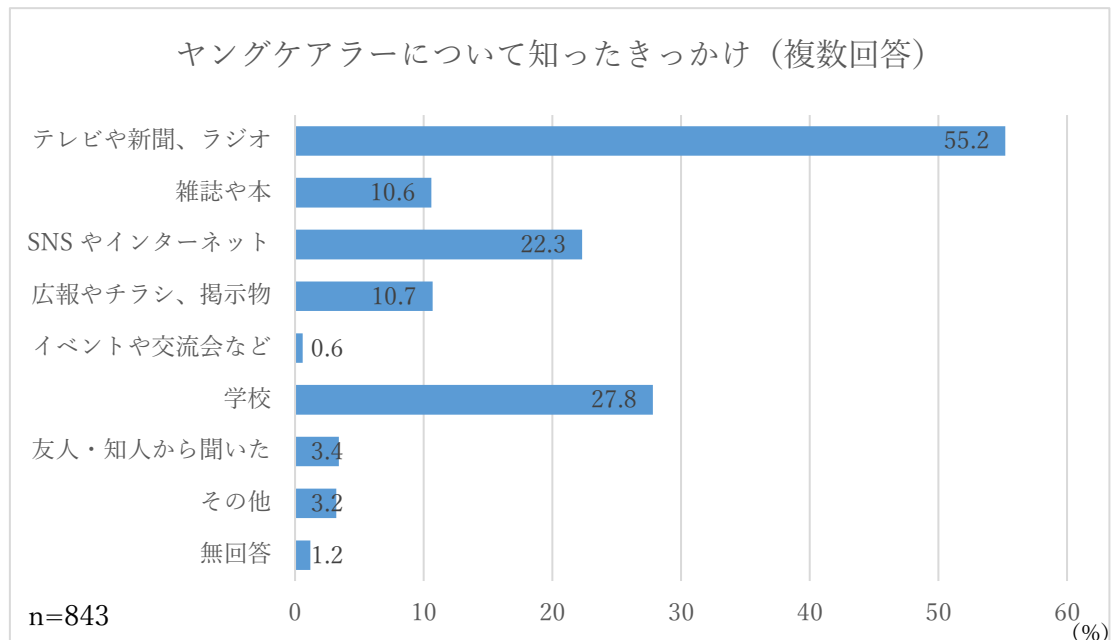


③ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に、知ったきっかけを聞いたところ、「テレビや新聞、ラジオ」が最も高く、次いで「学校」となっている。



《国のアンケート調査結果》



(4) 自由意見

アンケート調査で寄せられた様々な意見を内容ごとに分類して紹介する。

①ヤングケアラーに必要なと思う支援

相談体制の充実、相談しやすい・話しやすい環境づくり

- ・ 周りの人に相談しやすい環境を作る。
- ・ ヤングケアラーについて自分たちがもっと寄り添う。
- ・ このアンケートのような、他人に絶対に見られず、信頼感のあるアンケートをもっと実施する。
- ・ 困っていそうな友達がいたら積極的に声をかけたりする。
- ・ 相談窓口をつくる。
- ・ 気軽に相談できる電話窓口をつくる。
- ・ SNS を利用する。
- ・ ヤングケアラーの人が集まる場所をつくり、相談できる環境を作る。

学校におけるサポートや配慮

- ・ 学校で相談に乗る専門の人などに来てもらう。
- ・ 相談しやすい雰囲気を学校が作っていく。
- ・ 授業時間を短縮して、自分の時間を増やして、ストレスが溜まらないようにする。
- ・ 定期的にアンケートを行う。
- ・ 学校側が、ヤングケアラーがいるかいないかを確認する。
- ・ 自分がヤングケアラーだと知らない可能性が高いため、学校などがヤングケアラーについて指導していくことが大事。

周囲の大人の理解や寄り添い

- ・ 親戚など世話をできる大人がなるべく世話をした方がよい。
- ・ 地域のつながりをつくる。
- ・ 1人だけでも頼れる大人がいること。
- ・ 地区で協力したらいいと思う。
- ・ もう少し地域の掲示板などにお便りを貼ったりしたほうがいいと思う。

具体的なサポート等

- ・ ヤングケアラーに報酬を与える。
- ・ 訪問介護等の充実。
- ・ お手伝いさん、家事代行サービスの無償派遣。
- ・ お世話になっている人を専用の施設に入れる。
- ・ 代わりに介護する施設をふやす。
- ・ 子供の負担を減らすための支援や施設、サービスを増やす。

- ・ 実態調査をもとにした生活必需品の支援、支援金の配布。
- ・ 国からの支援が必要。
- ・ 疲れやストレスが多いと思うから、ゆっくり休める場所や落ち着ける場所などを設ける。
- ・ 毎年、家を訪問して検査したりする。
- ・ ヤングケアラーの人達の心身のケア。

②ヤングケアラーの普及啓発に向けて必要なこと

- ・ 自分たちがヤングケアラーについて理解を深める。
- ・ 学校でもヤングケアラーについて話をする。
- ・ 学校でヤングケアラーについての講演会を開催してほしい。
- ・ 小学校から教育する。
- ・ ヤングケアラーの本を国語の授業の読解文として取り上げる。
- ・ ヤングケアラーの事を知らない人たちに教える活動をした方が良いと思います。
- ・ ポスターやCM、SNS、テレビ、インターネットなどでもっと広く知らせる。
- ・ ヤングケアラーのサイトをたくさん立ち上げる。
- ・ 募金をお願いする箱をたくさん置く。
- ・ ヤングケアラーについて学ぶ機会をもつ。
- ・ ヘリコプターで宣伝ポスターをばらまく。
- ・ イベントを開く。
- ・ ポスターをつくる。

③その他

- ・ ヤングケアラーの手伝いといったボランティア活動をする。
- ・ ヤングケアラーを知るだけで終わらせてはいけない。
- ・ ヤングケアラーの人がもっと助けを求めるべき。
- ・ 他人事だと思わずに、ボランティアなどで一緒に協力していき、1人だけに負担をかけないようにしていくことと、高齢者、障害者のために自分から積極的に手伝いなどをしていく。
- ・ 介護ロボットの的なものがあればよい。
- ・ 子どもが気軽に意見を発せる世の中にする。
- ・ 1人1人が誰かのために尽くしてあげようと思う気持ちが必要だと思います。
- ・ 介護福祉士を増やす。
- ・ ヤングケアラーであるマークを付けてもらう。

- ヤングケアラーの周りの子供たちが、触れてはいけないものとして実態を知ることがないようにする。
- ヤングケアラーの本人は自分の生活が当たり前だと思っているので、本人にも自覚してもらおうと自分から助けを求めることができると思う。なので、自分の状況を発信する場があると本人も自覚できるのかもしれないと思う。
- 立派だと思うので、これからも頑張ってもらいたい。
- 誰もが信用できるボランティアみたいなのが必要。
- 友達の中で少しでもヤングケアラーっぽい人がいれば大人に言うように呼びかける。
- ヤングケアラーなどの悩みや他の悩みを持っている人は、大丈夫？と聞かれると大丈夫！と答えてしまいます（自分自身も）。なかなか自分の本音は言えません。
- ヤングケアラー専用の学校をつくる。
- ヤングケアラーの人が学校に行ってる間に代替りのボランティアの方が世話したり、夜 10 時以降から朝 7 時までボランティアの方が代わりに介護するのもよいと思う。
- 家族の世話をしている人、家族のために働いている人などをサポートするバイト等を募集すればいいと思う。
- 厚生労働省などの家庭調査。
- 自治会や市がヤングケアラーについての説明会や訴えの場を開き国民に重要性を伝えた方がいい。

3 国が実施したアンケート調査結果との比較

国が令和3年に実施したアンケート調査結果と大きな違いは見受けられなかったが、ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがある」と回答した生徒の割合が、国の調査結果を大きく上回った。知ったきっかけは「広報やチラシ、掲示物」「学校」が国の調査結果よりも多くなっていた。

また、世話についての相談経験が「ない」と回答した生徒への、世話について話を聞いてくれる人の有無を問う質問で、「いない」との回答が国の調査より多かったが、「いない」と回答した生徒のうち「誰かに相談するほどの悩みではない」と回答している生徒が多く、具体的に相談者の必要性を感じていなかった結果と考えられる。

「世話をしている家族の有無」や「ヤングケアラーにあてはまるか」との問いに対しては、「いる」「あてはまる」が国の調査の数値を若干下回った。

IV 高校生編

国のアンケート調査は、全日制高校では全国の公立高等学校の約1割にあたる350校の高校2年生約6万8千人を対象とし、定時制高校については公立の定時制高校を各都道府県により1校ずつ無作為抽出し、在籍する2年生相当の生徒を対象に調査が行われた。

本市のアンケート調査は、市内4つの県立高校を対象とし、うち3校を全日制、1校を定時制として集計した。

1 調査の概要

(1) 対象者

市内の県立高校に所属する市内在住の生徒（614人）

(2) 調査時期

令和4年7月6日～7月22日

(3) 調査方法

- ・記名式による調査
- ・書面で協力を依頼し、回答は各自のスマートフォン端末を利用

(4) 回答状況

各人数は調査日時点

種別	全校生徒数	調査対象者	市内在住者の割合	回答者数	回答率
全日制	1,789人	467人	26.10%	36人 (うち無記名11人)	7.71%
定時制	492人	147人	29.88%	41人 (うち無記名5人)	27.89%
合計	2,281人	614人	26.92%	77人	12.54%

※国アンケート調査回答率（全日制）：約10.89%

(5) その他

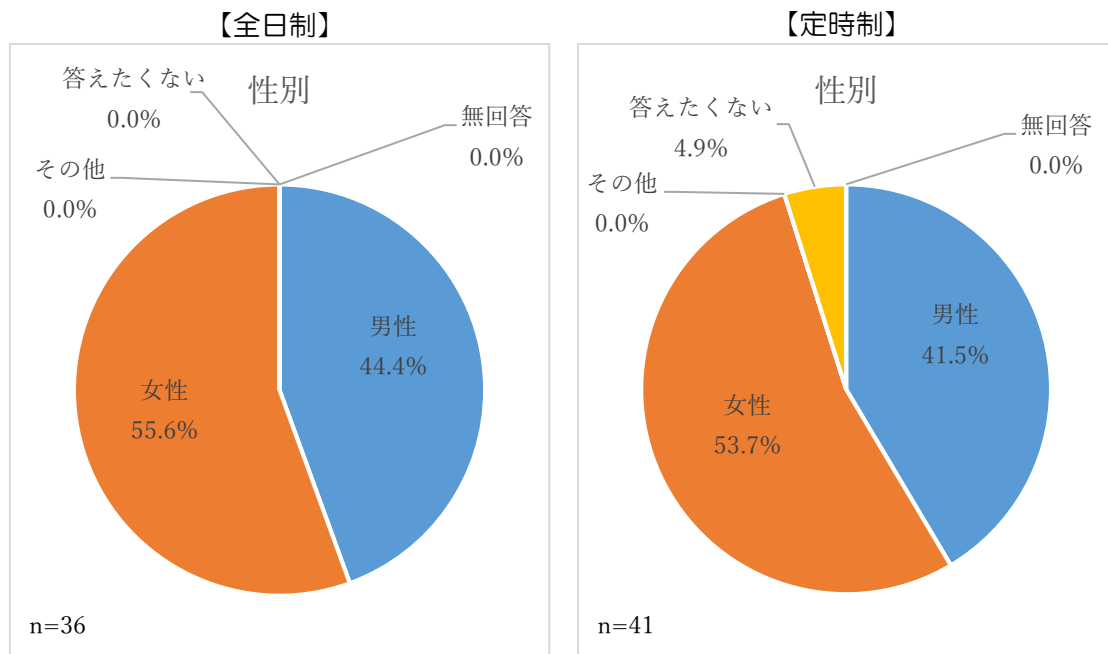
高校生向けに実施した本調査については、対象者を限定したことや記名式の調査であること、ヤングケアラーが認知されていないことなどから低い回答率となったと思われる。アンケート調査結果の解釈にあたっては留意が必要。

2 調査結果

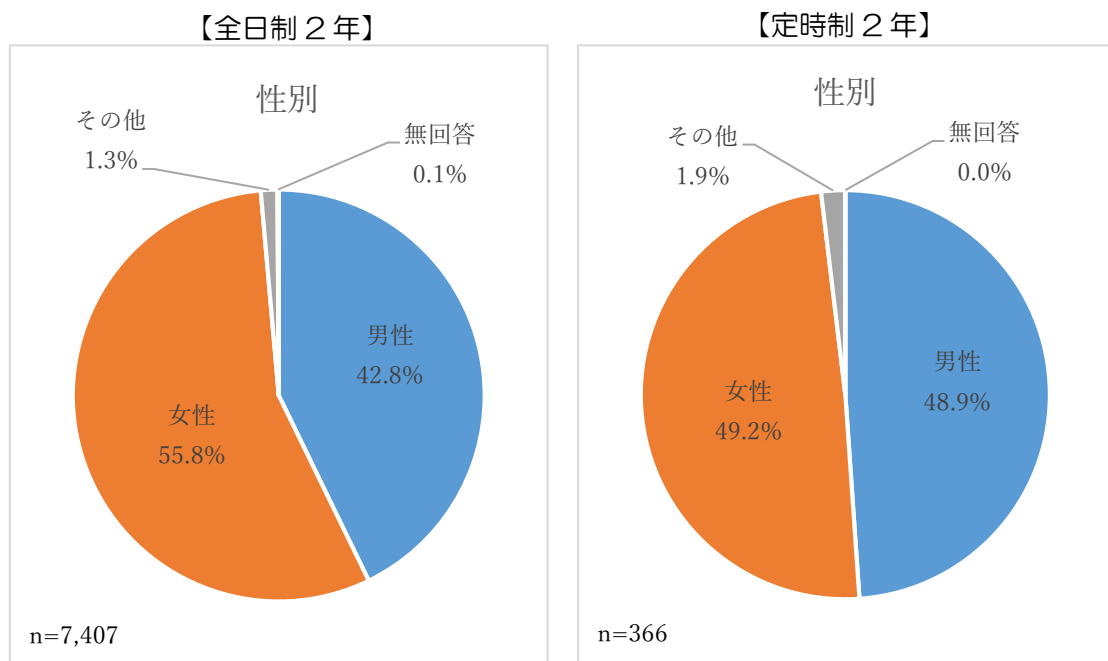
(1) 基本情報

①性別

回答者の性別は、以下の通り。



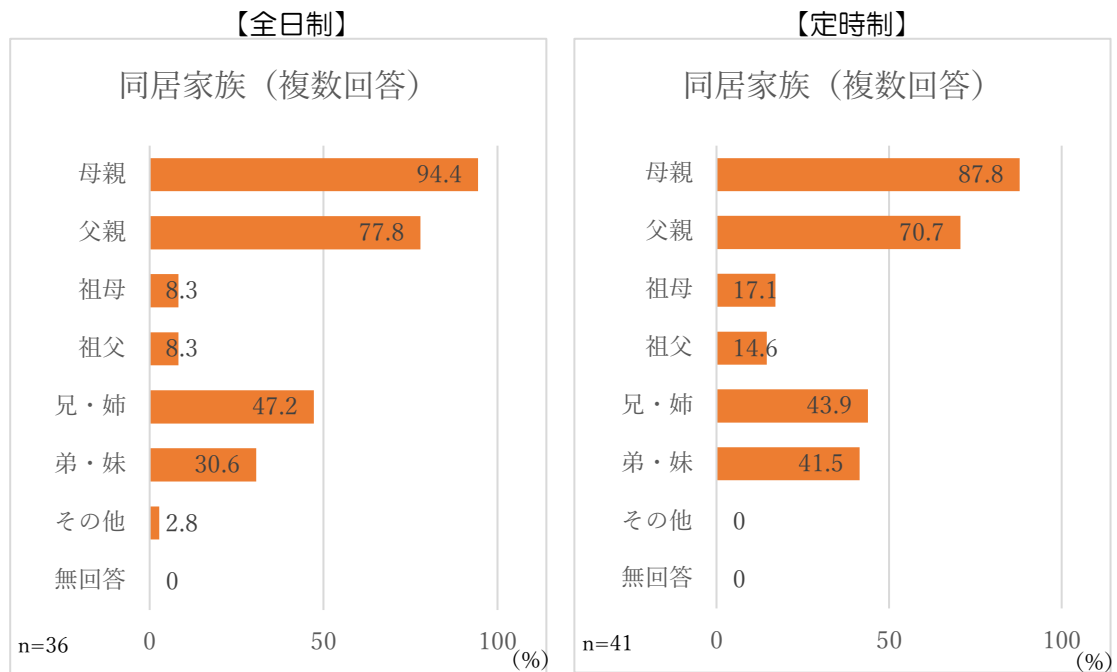
《国のアンケート調査結果》



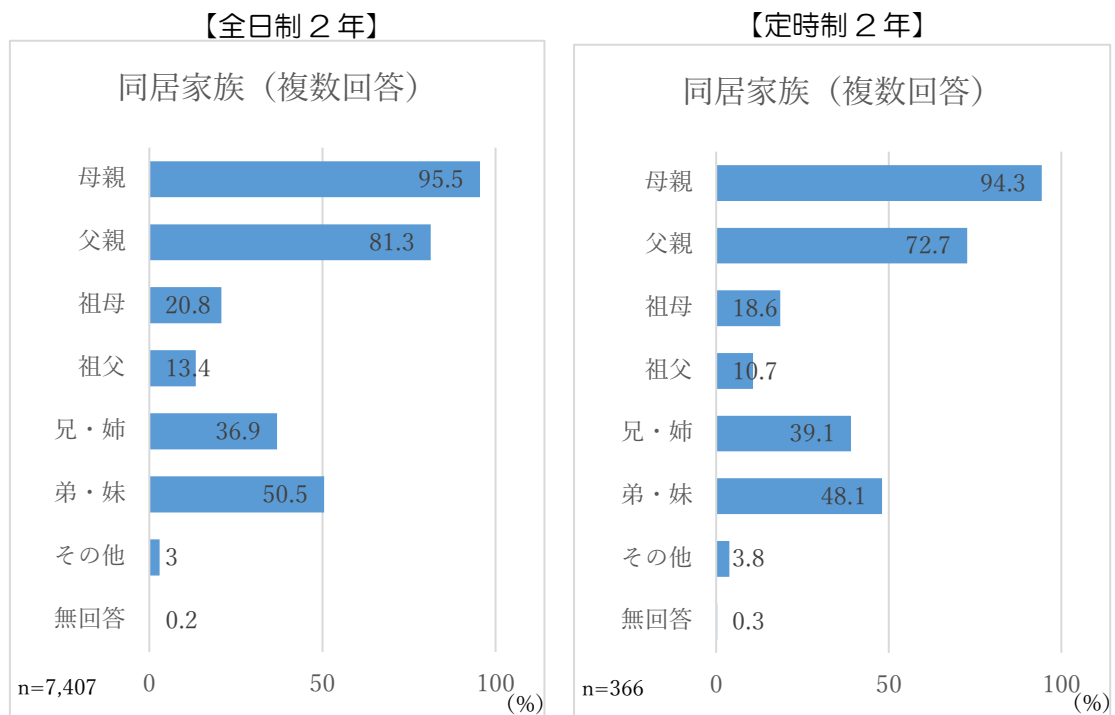
②同居家族

同居家族は、いずれの学校種でも「母親」が最も高く、次いで「父親」、「兄・姉」となっている。

定時制では、「祖母」、「祖母」がやや高くなっている。

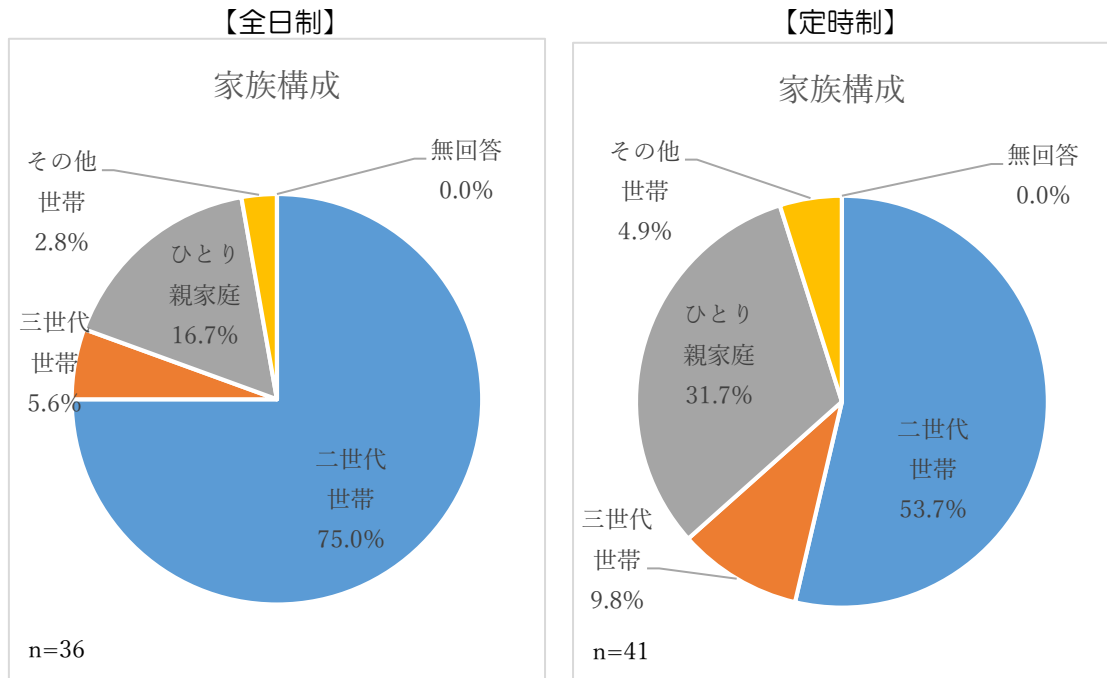


《国のアンケート調査結果》

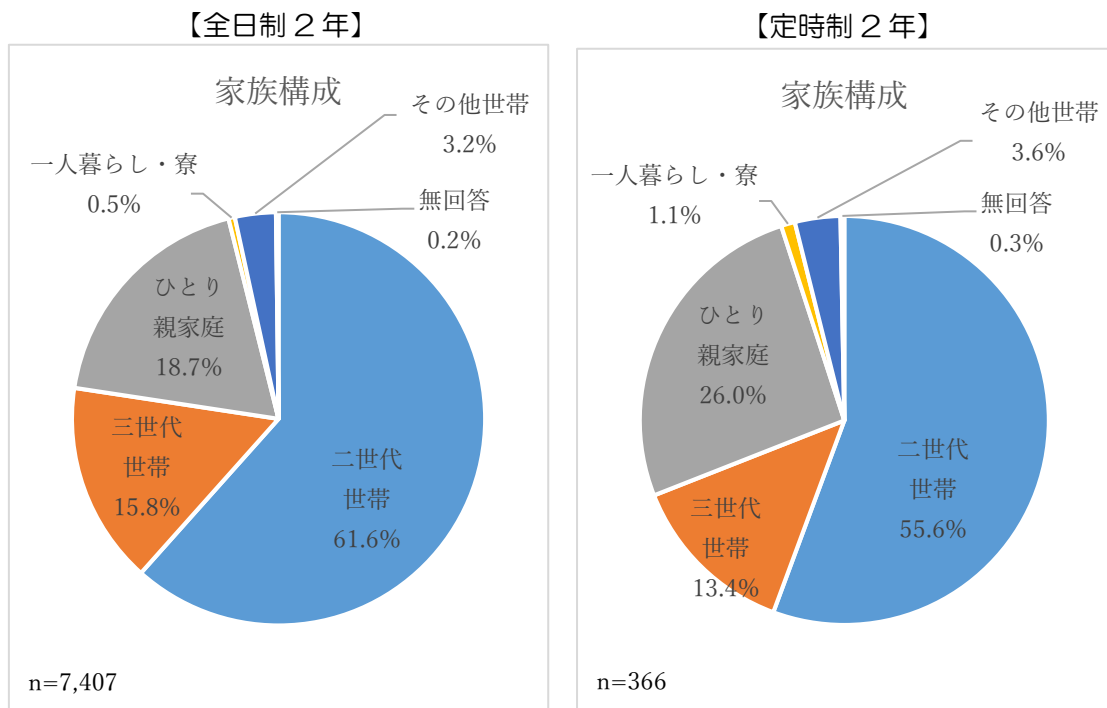


③家族構成

家族構成は、いずれの学校種でも「二世世代世帯」(ふたり親家庭)が最も高くなっているが、全日制より定時制では、「二世世代世帯」(ふたり親家庭)が低くなり「ひとり親家庭」、「三世世代世帯」が高くなっている。

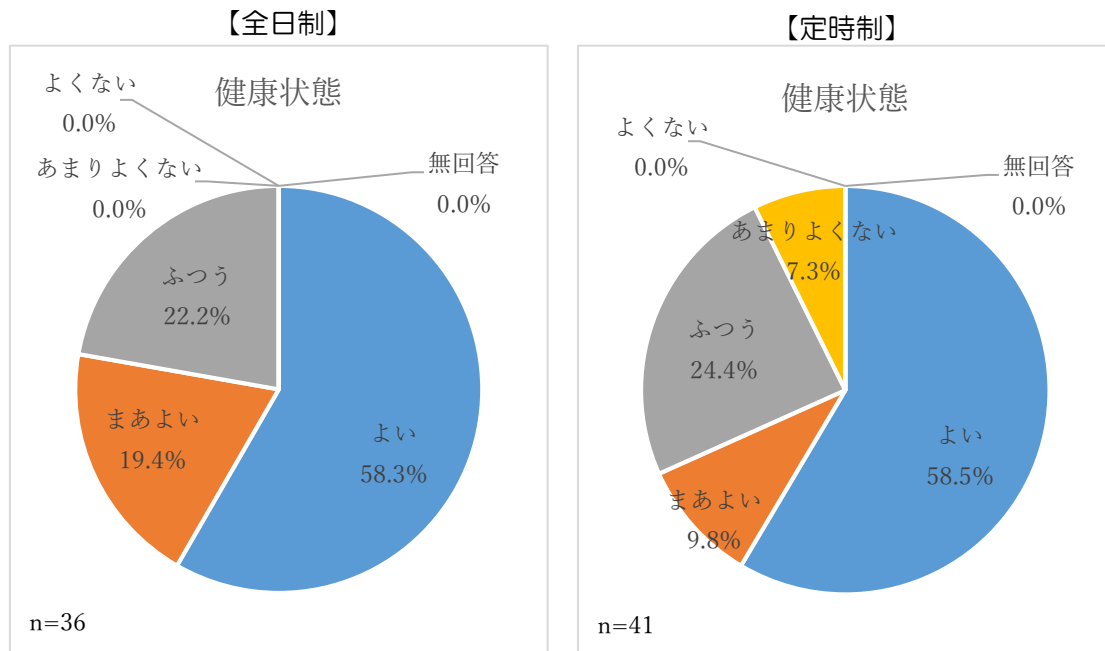


《国のアンケート調査結果》

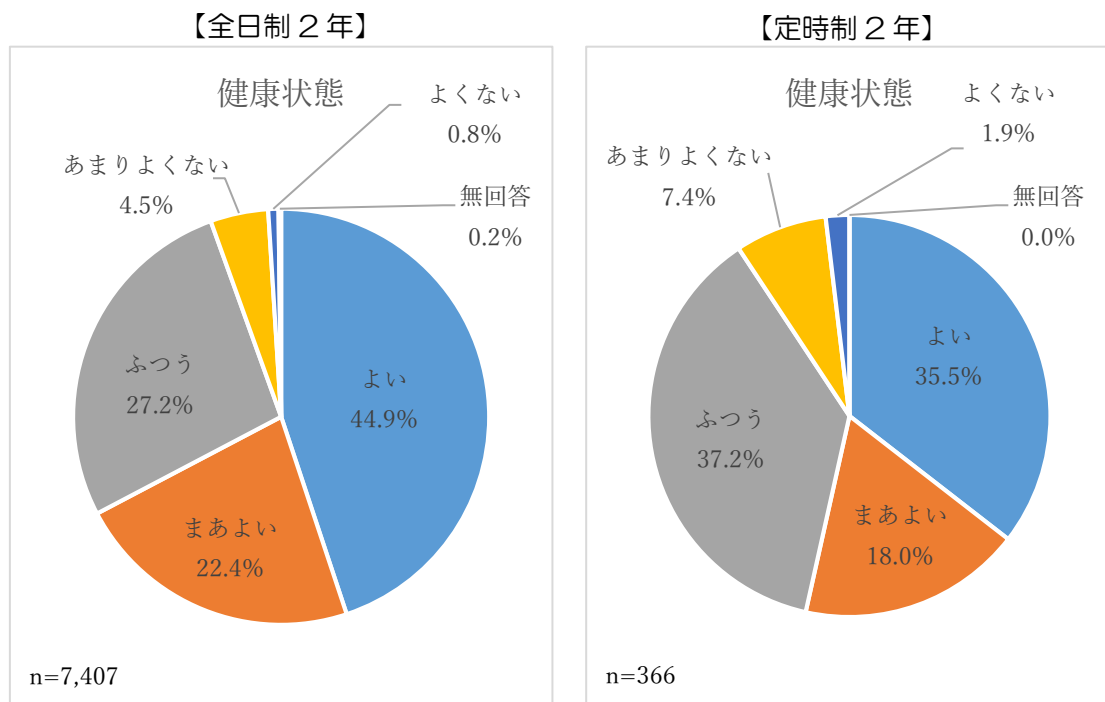


④健康状態

健康状態は、いずれの学校種でも「よい」が最も高くなっている。
 全日制では、「あまりよくない」が0%だが、定時制では7.3%となっている。



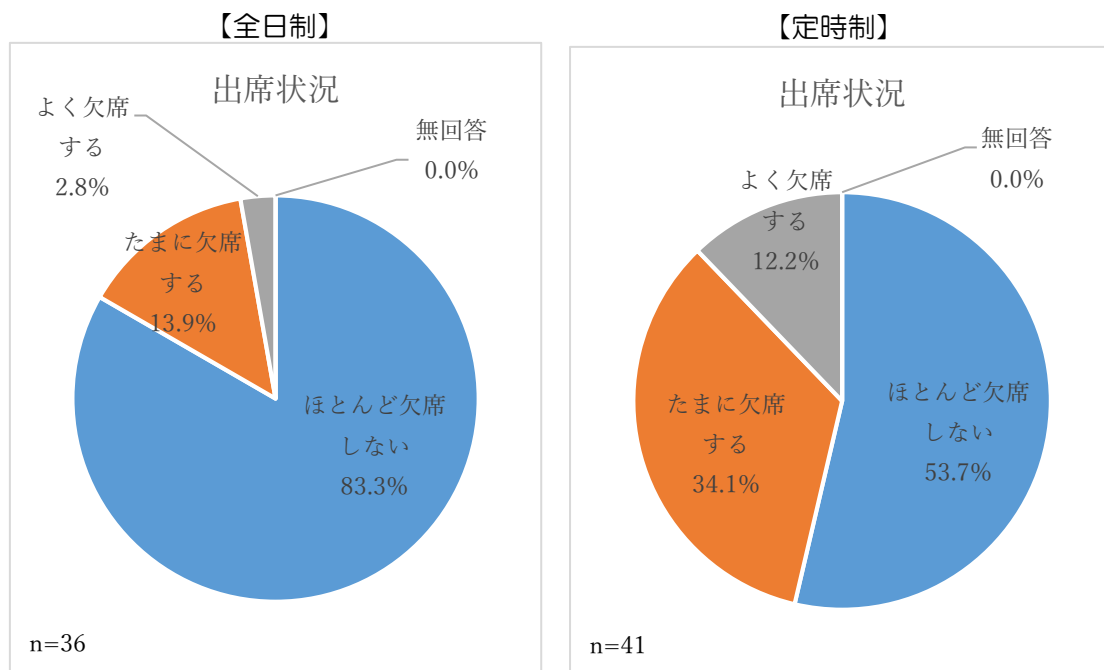
《国のアンケート調査結果》



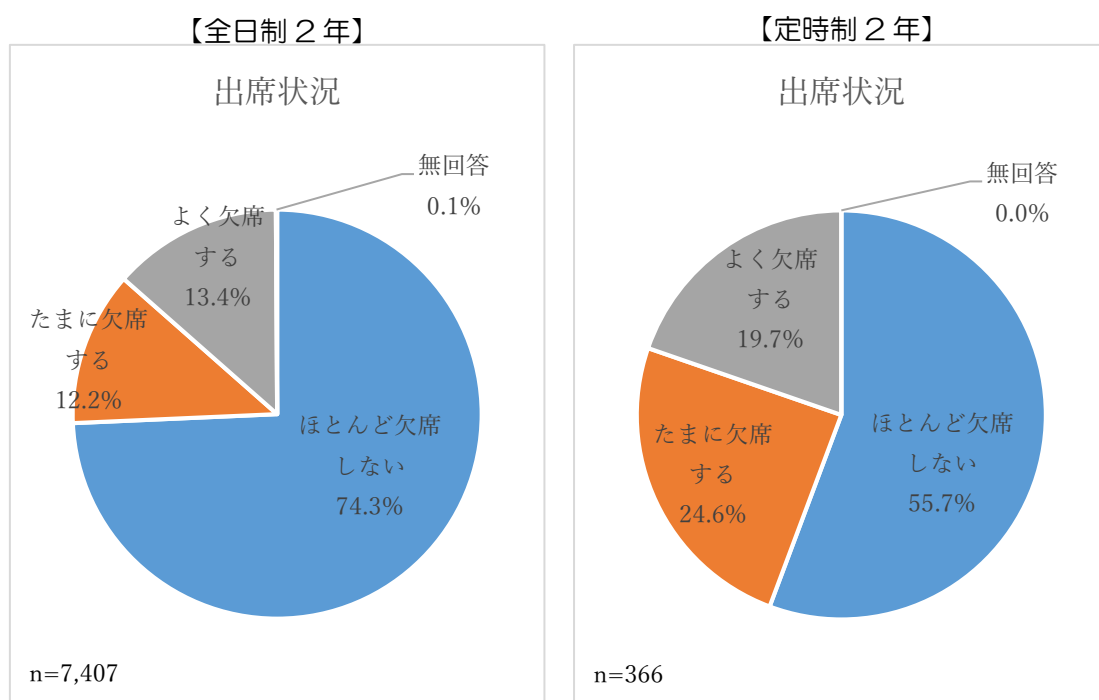
(2) ふだんの生活について

①学校への通学状況：出席状況

学校への通学状況は、いずれの学校種でも「ほとんど欠席しない」が最も高くなっているが、全日制より定時制では、「ほとんど欠席しない」が低くなり、「よく欠席をする」、「たまに欠席をする」が高くなっている。

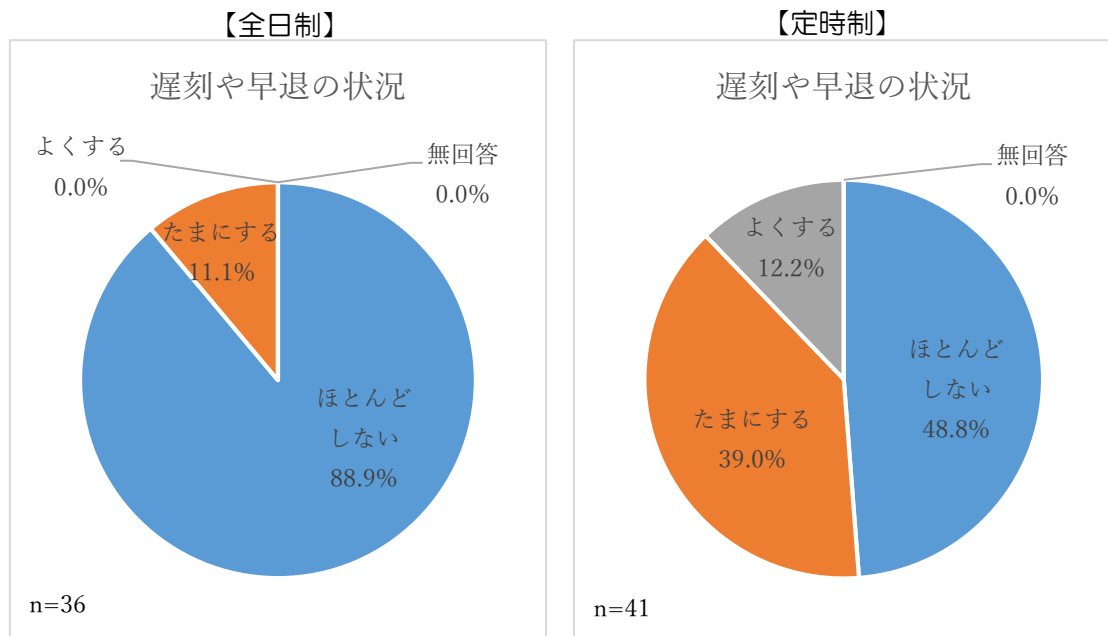


《国のアンケート調査結果》

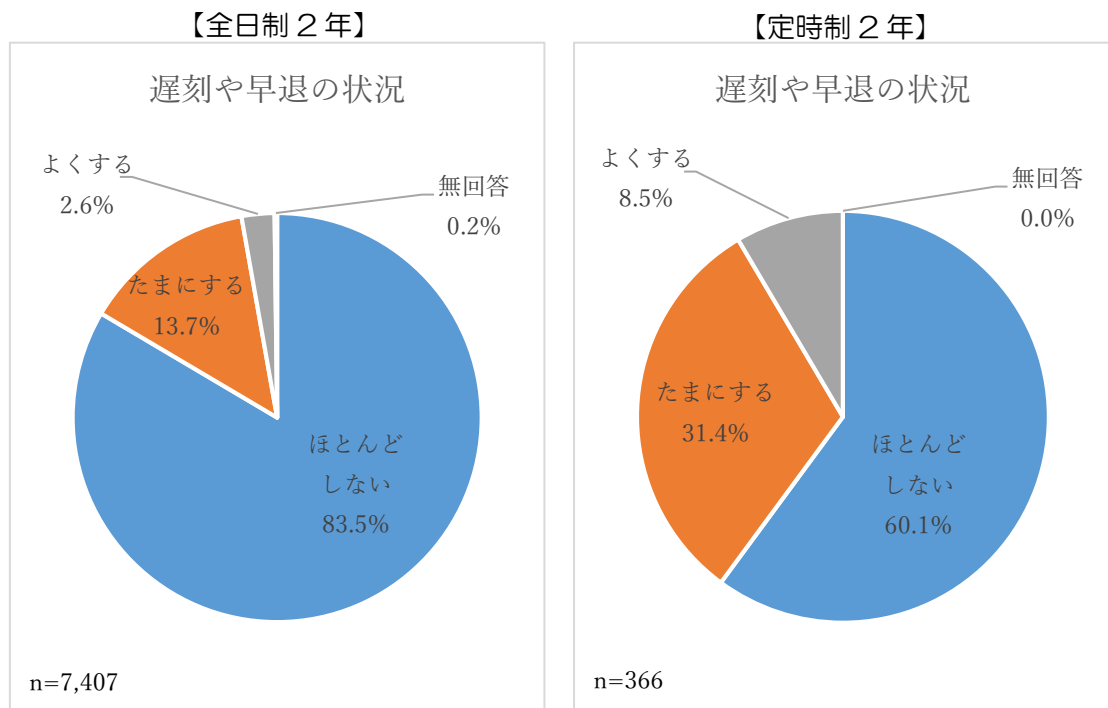


②学校への通学状況：遅刻や早退の状況

学校の遅刻や早退の状況は、「ほとんどしない」が全日制で88.9%、定時制では48.8%と最も高く、次いで「たまにする」が全日制で11.1%、定時制では39.0%、「よくする」は全日制で0%、定時制では12.2%となっている。

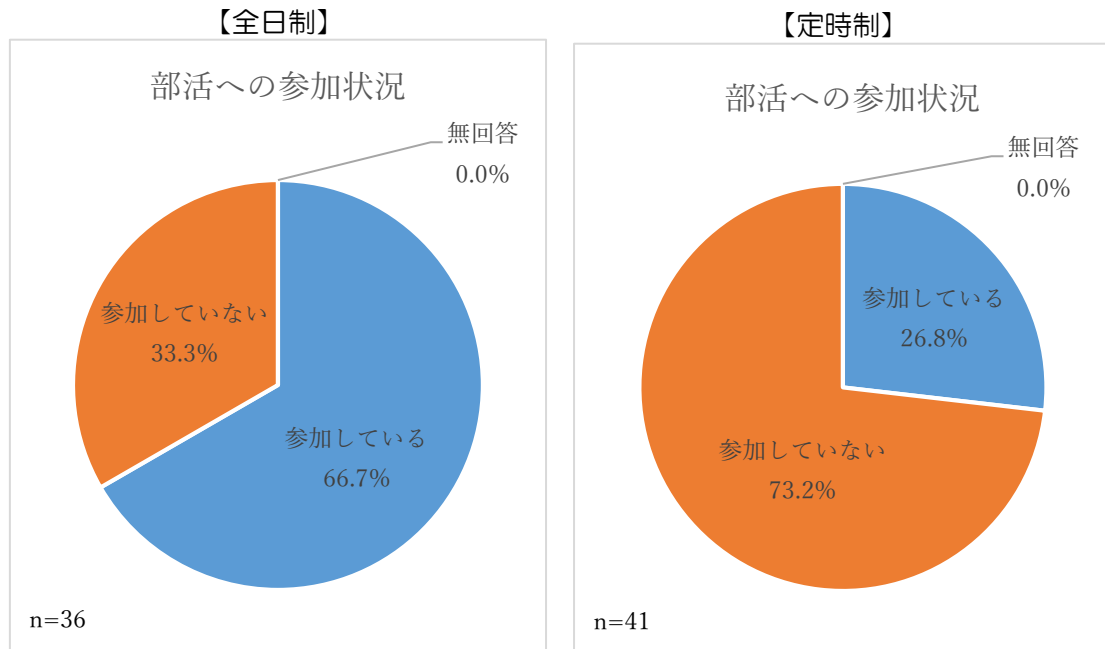


《国のアンケート調査結果》

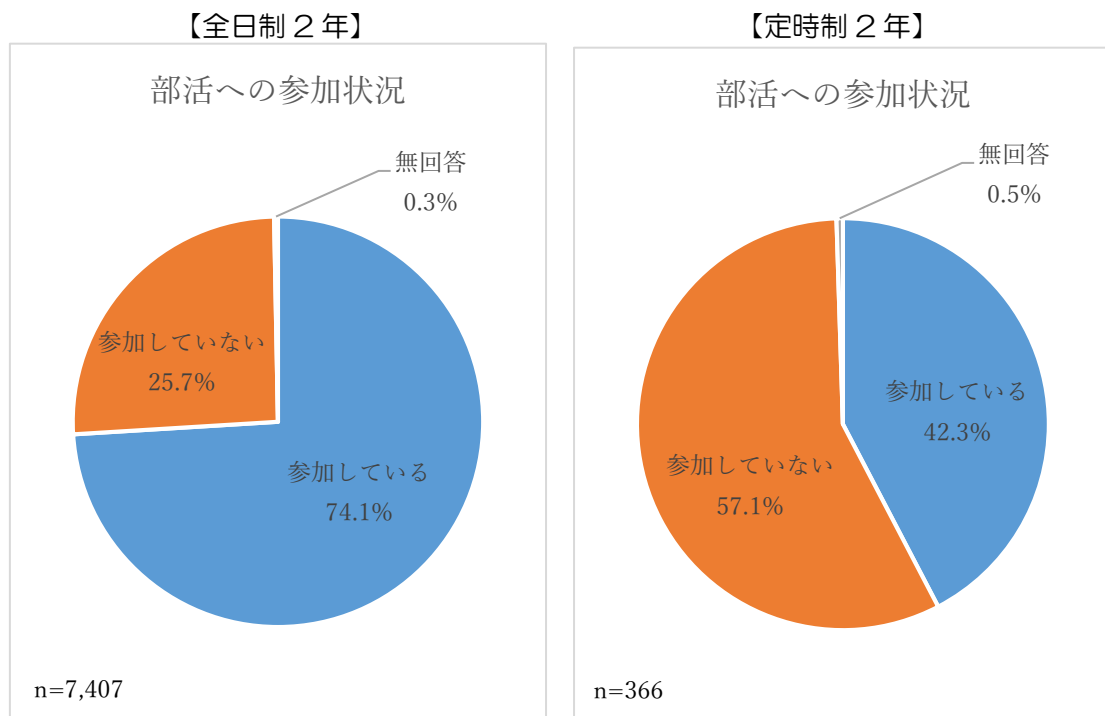


③部活への参加状況

部活への参加状況は、全日制では「参加している」が66.7%と高くなっている。
定時制では「参加していない」が73.2%と高くなっている。



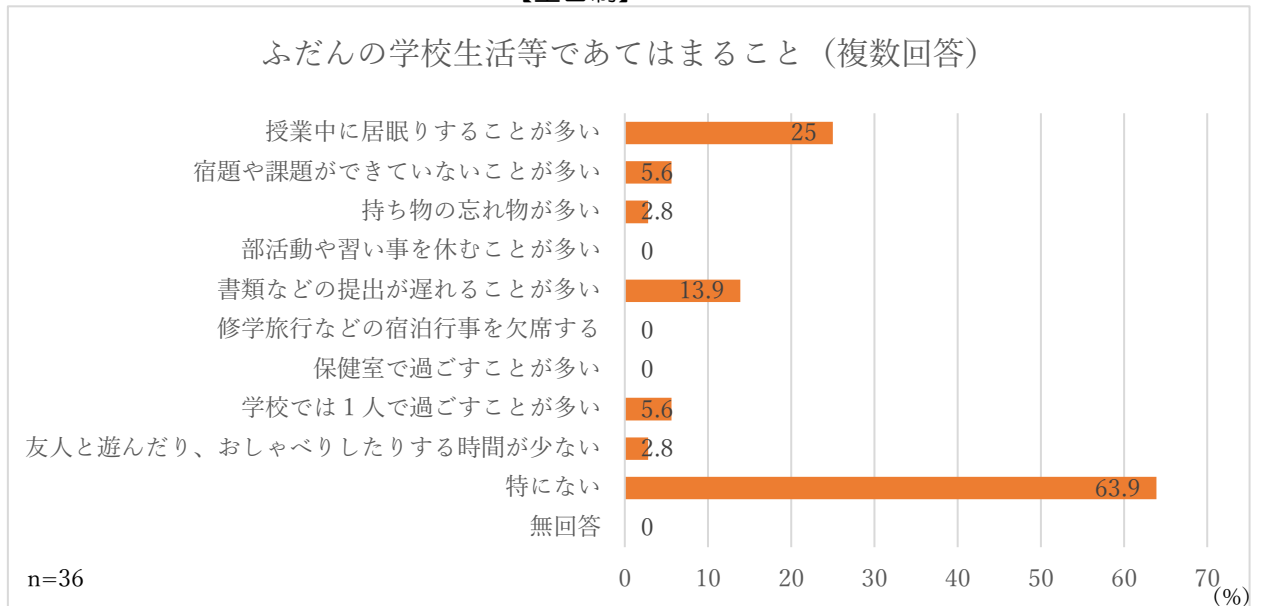
《国のアンケート調査結果》



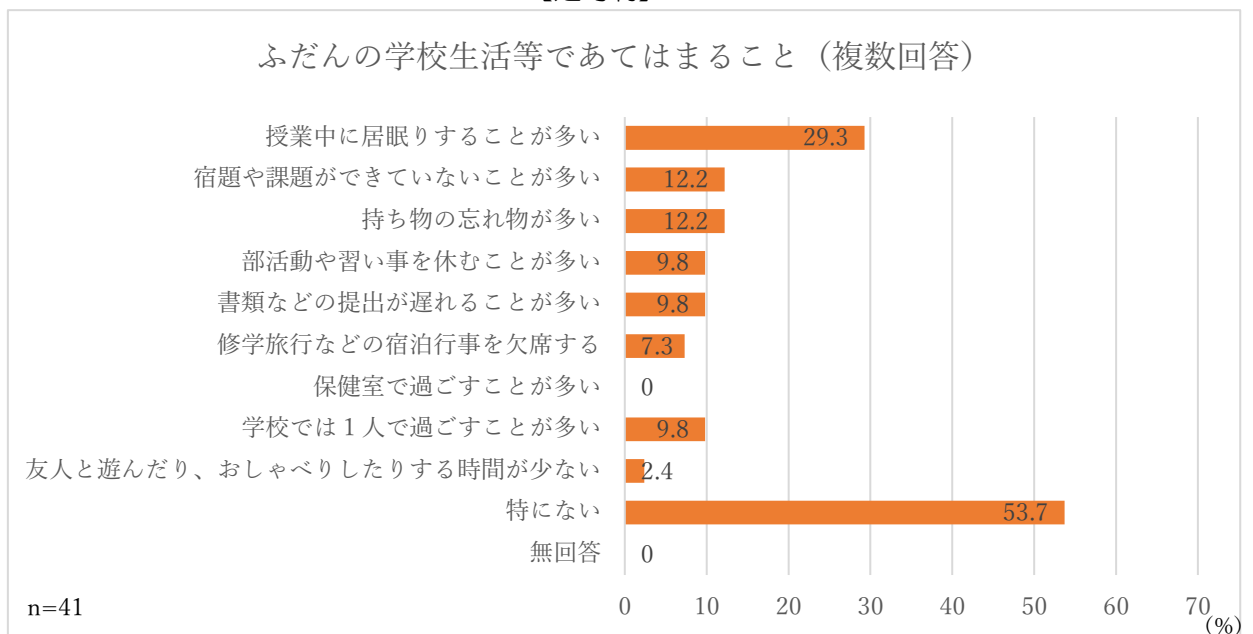
④ふだんの学校生活等であてはまること

ふだんの学校生活等であてはまることについては、いずれの学校種でも「特にない」が最も高くなっており、次いで「授業中に居眠りすることが多い」が高くなっている。全日制では「書類などの提出が遅れることが多い」、定時制では「宿題や課題ができないことが多い」「持ち物の忘れ物が多い」がほかに比べやや高くなっている。

【全日制】

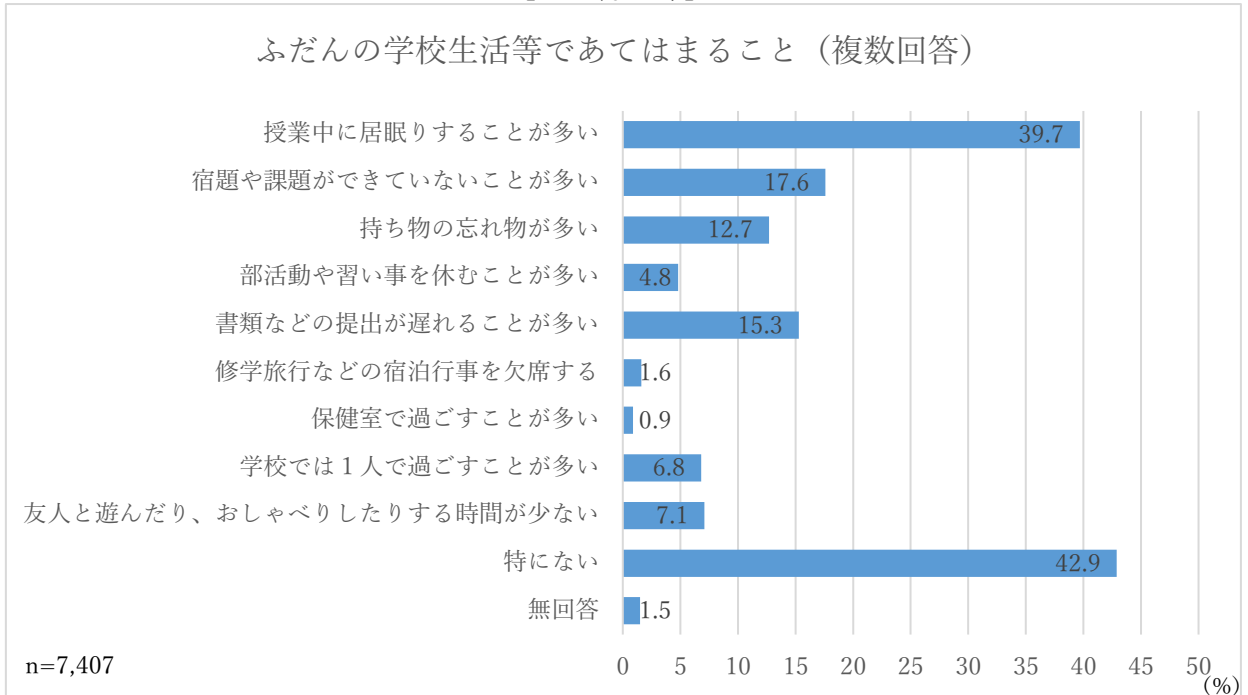


【定時制】

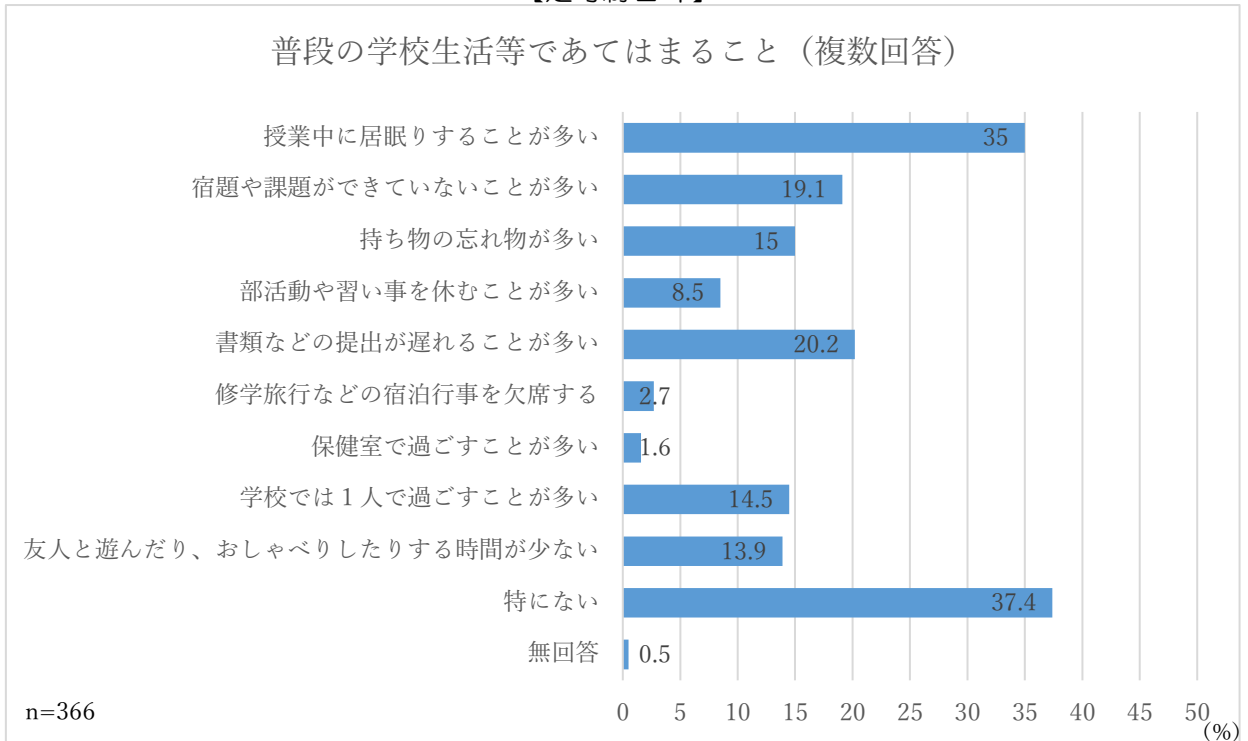


《国のアンケート調査結果》

【全日制 2 年】



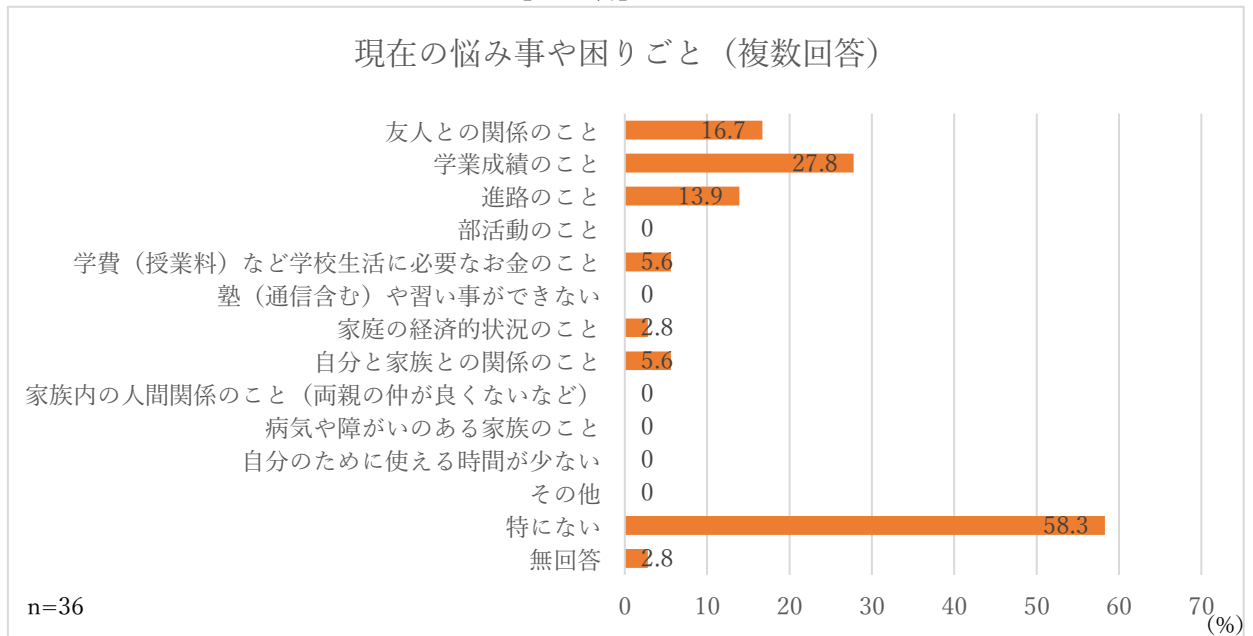
【定時制 2 年】



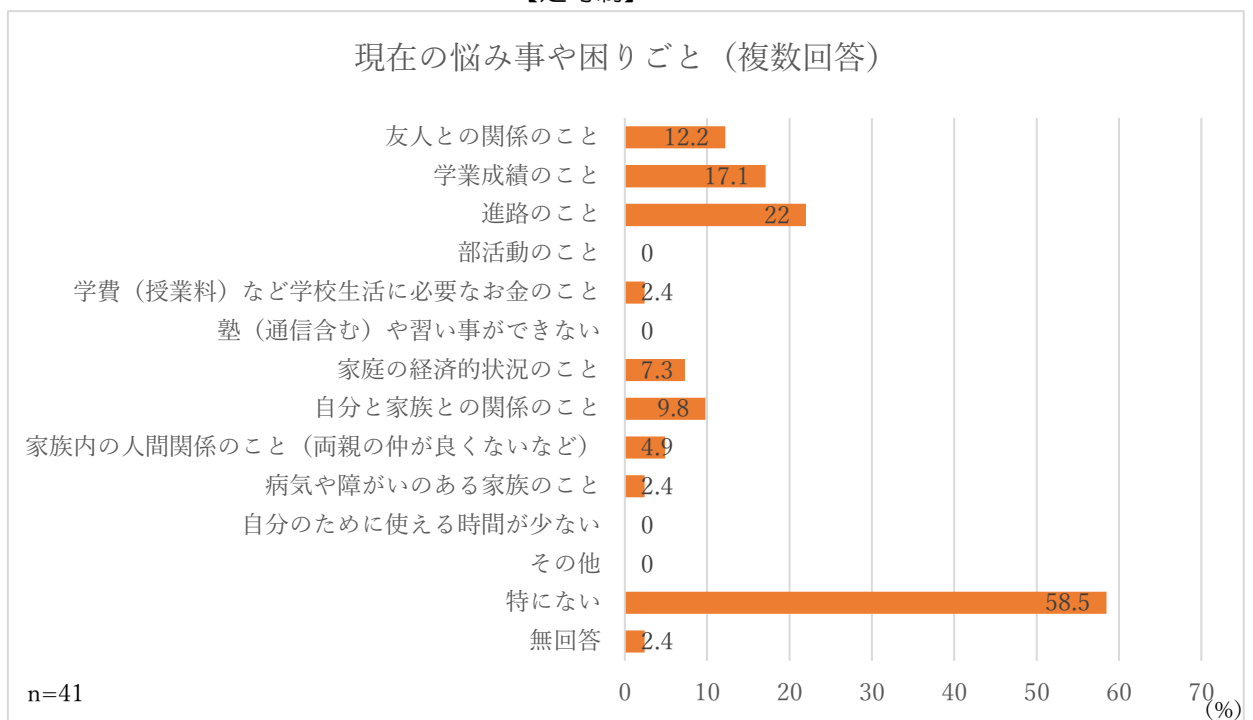
⑤現在の悩み事や困りごと

現在の悩みや困りごとについては、「特にない」が最も高く、全日制では、「学業成績のこと」「友人との関係のこと」「進路のこと」の順にやや高くなり、定時制では、「進路のこと」「学業成績のこと」「友人との関係のこと」の順にやや高くなる。

【全日制】

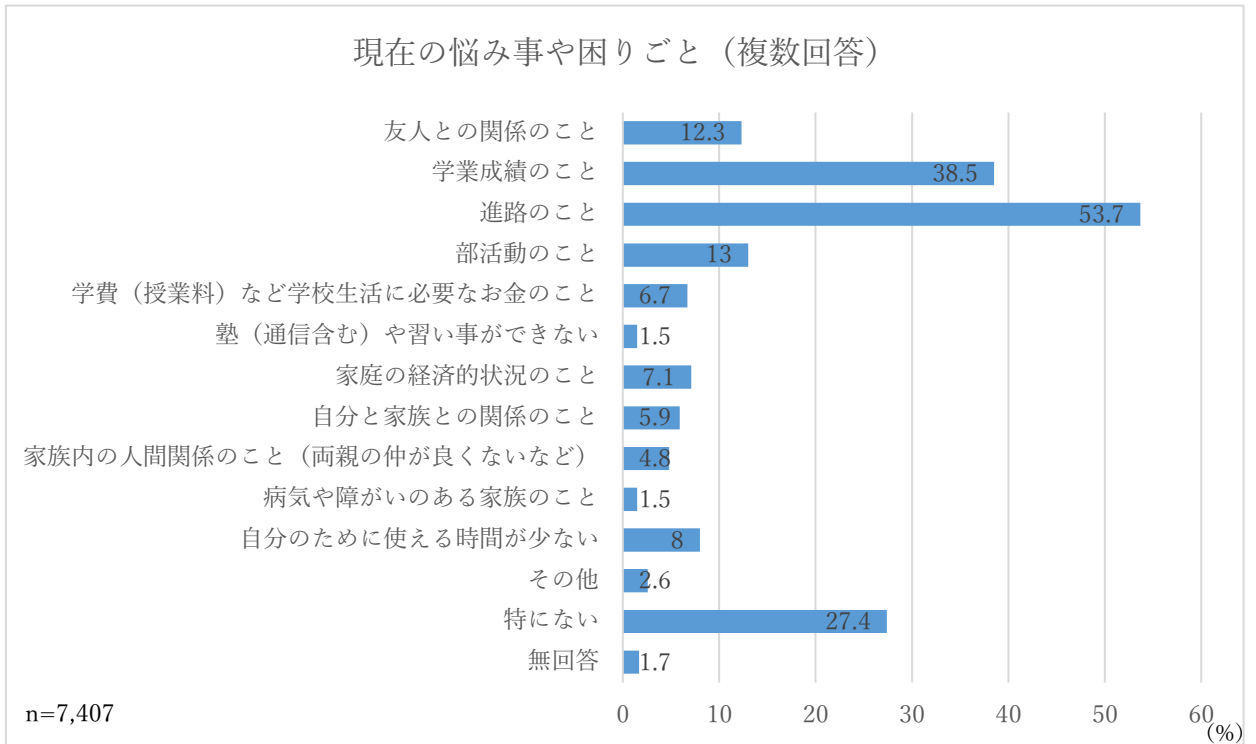


【定時制】

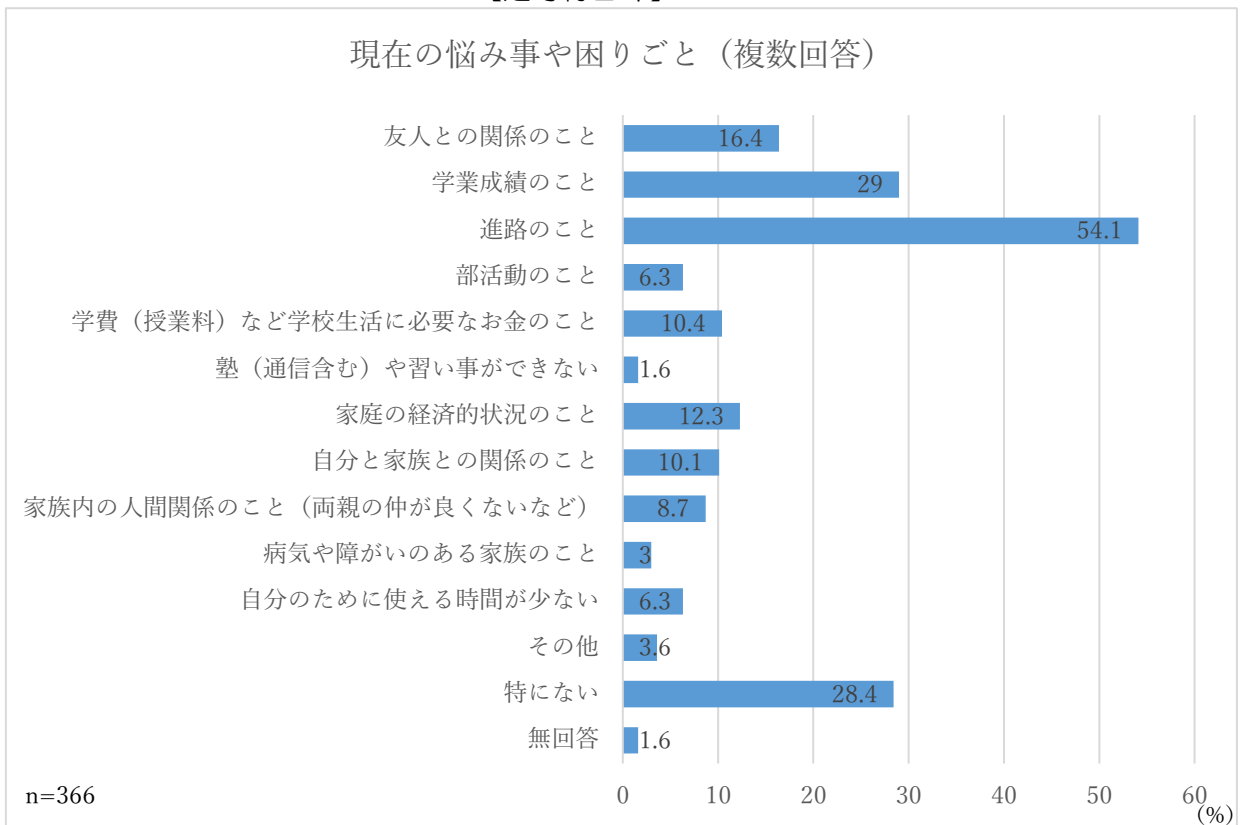


《国のアンケート調査結果》

【全日制2年】

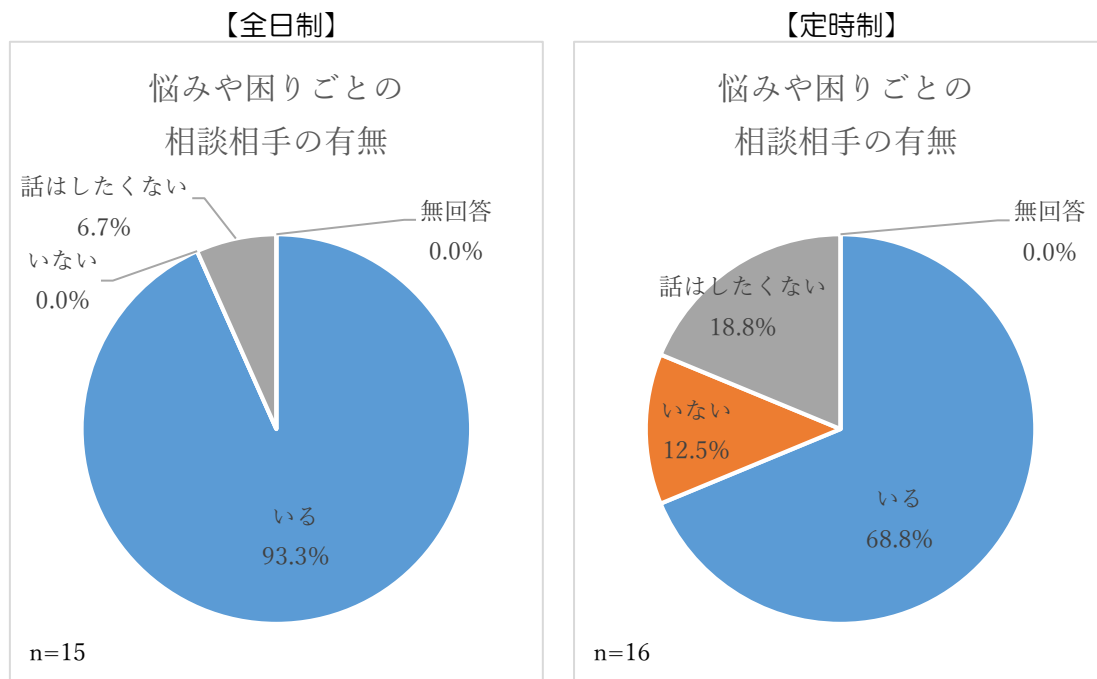


【定時制2年】

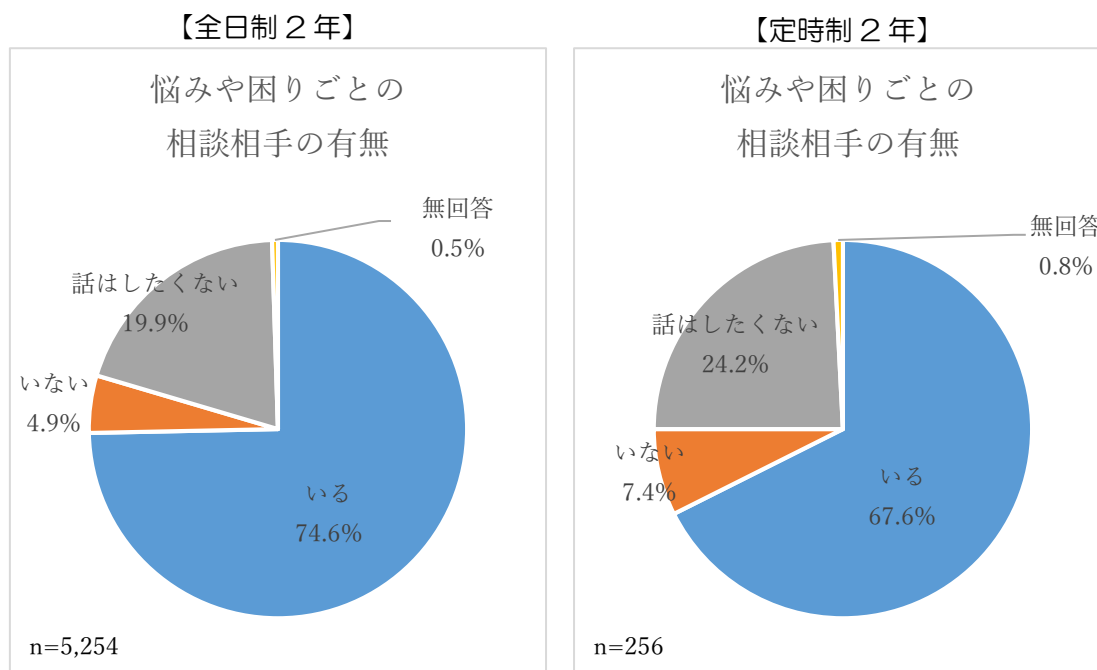


⑥悩みや困りごとの相談相手・話を聞いてくれる人の有無

何らかの悩みや困りごとがあると回答した人に、相談相手・話を聞いてくれる人の有無について聞いたところ、いずれの学校種でも「いる」が過半数を超え最も高くなっているが、定時制では「話はしたくない」、「いない」の割合が高くなっている。



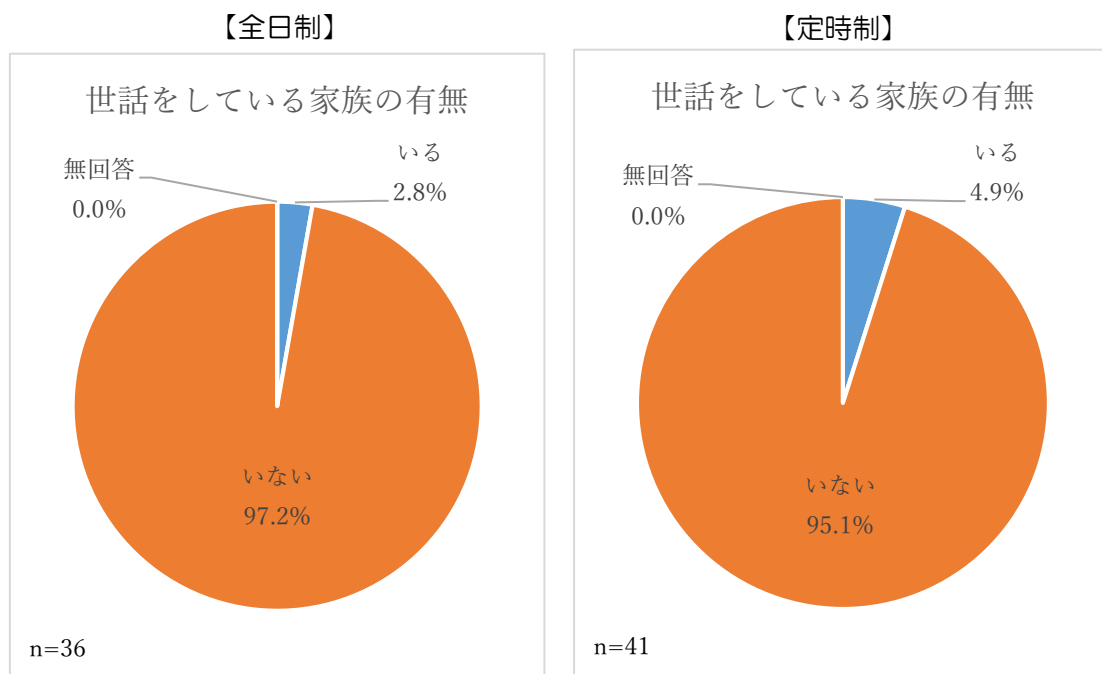
《国のアンケート調査結果》



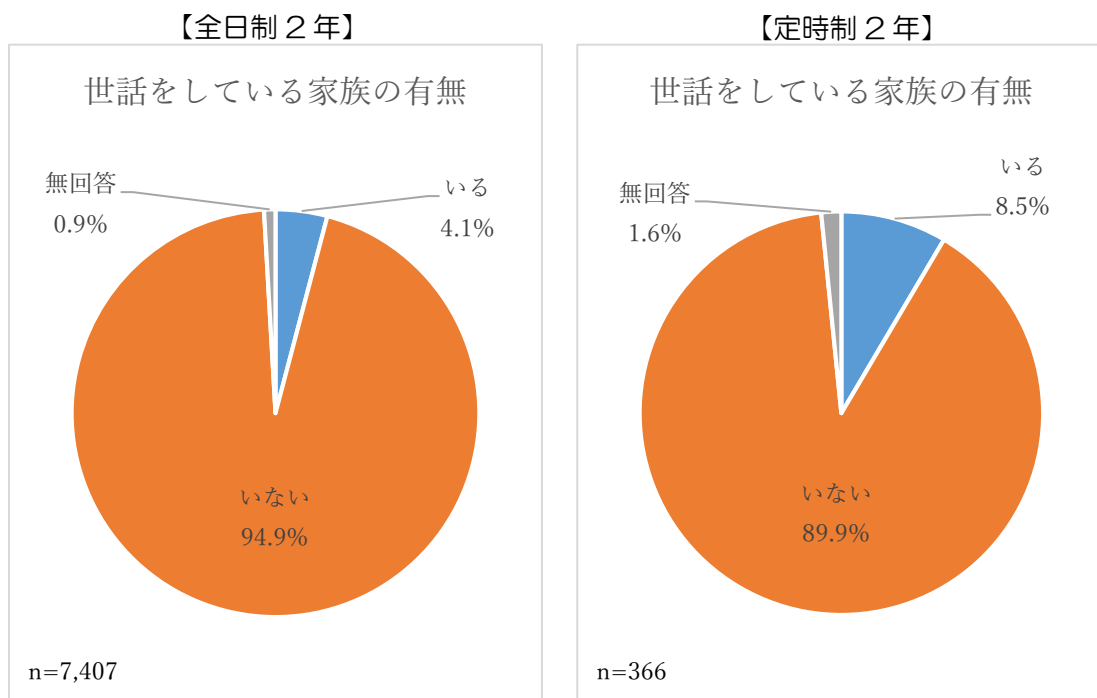
(3) 家庭や家族のことについて

①世話をしている家族の有無

世話をしている家族の有無については、以下の通りである。



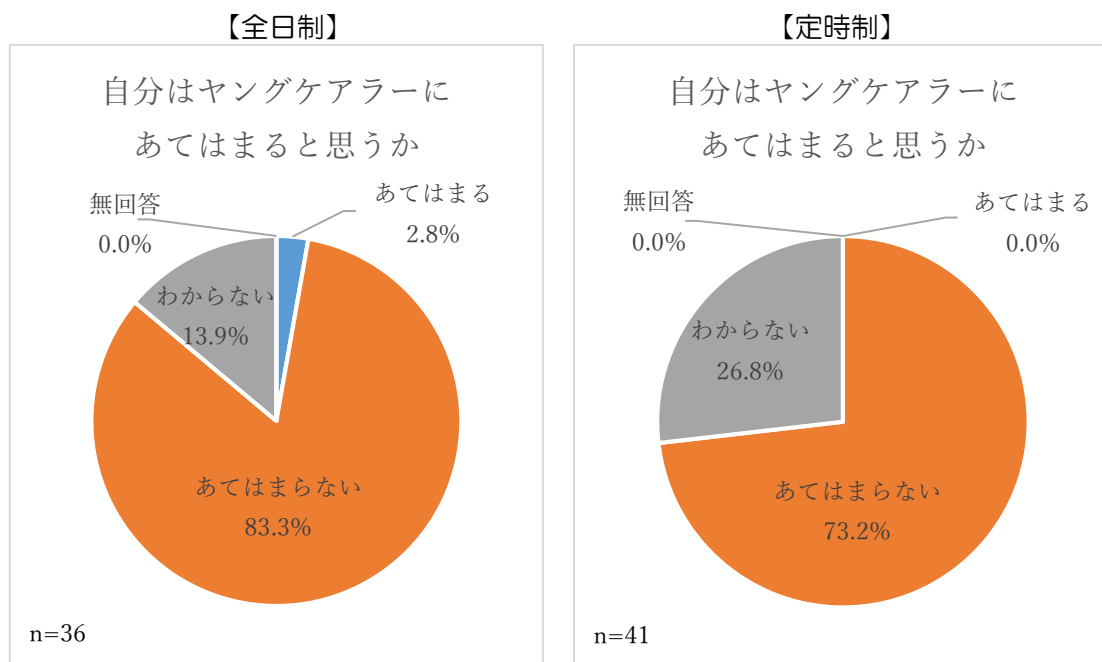
《国のアンケート調査結果》



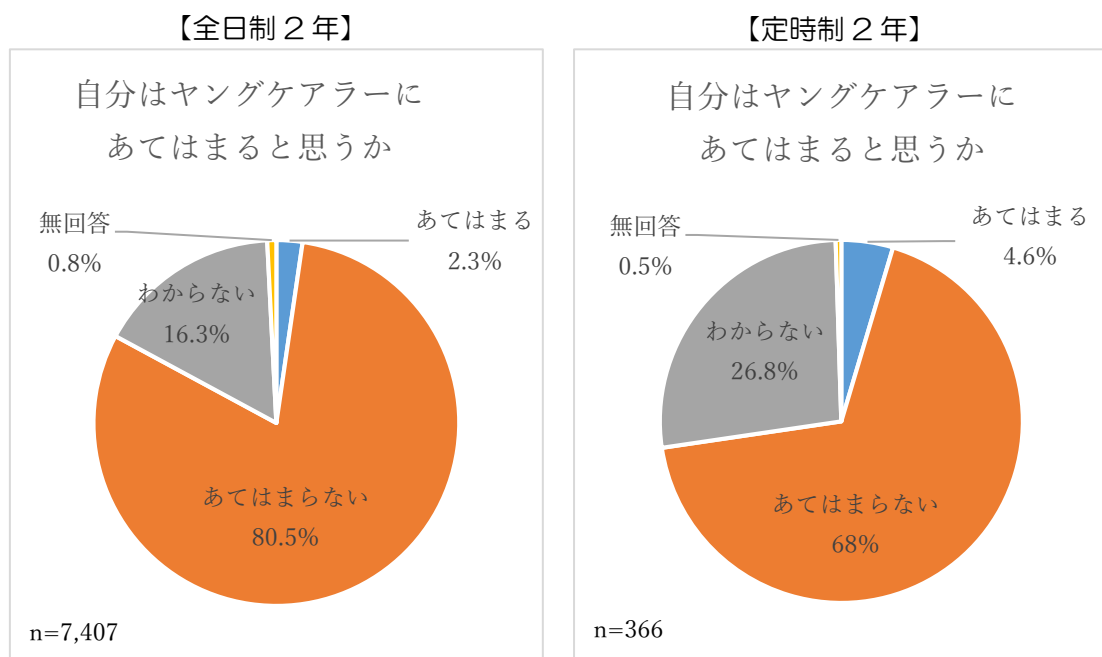
(4) ヤングケアラーについて

①ヤングケアラーの自覚

自分がヤングケアラーにあてはまると思うかについて聞いたところ、「あてはまる」が全日制で 2.8%、定時制では 0%となっており、「わからない」は全日制で 13.9%、定時制では 26.8%となっている。

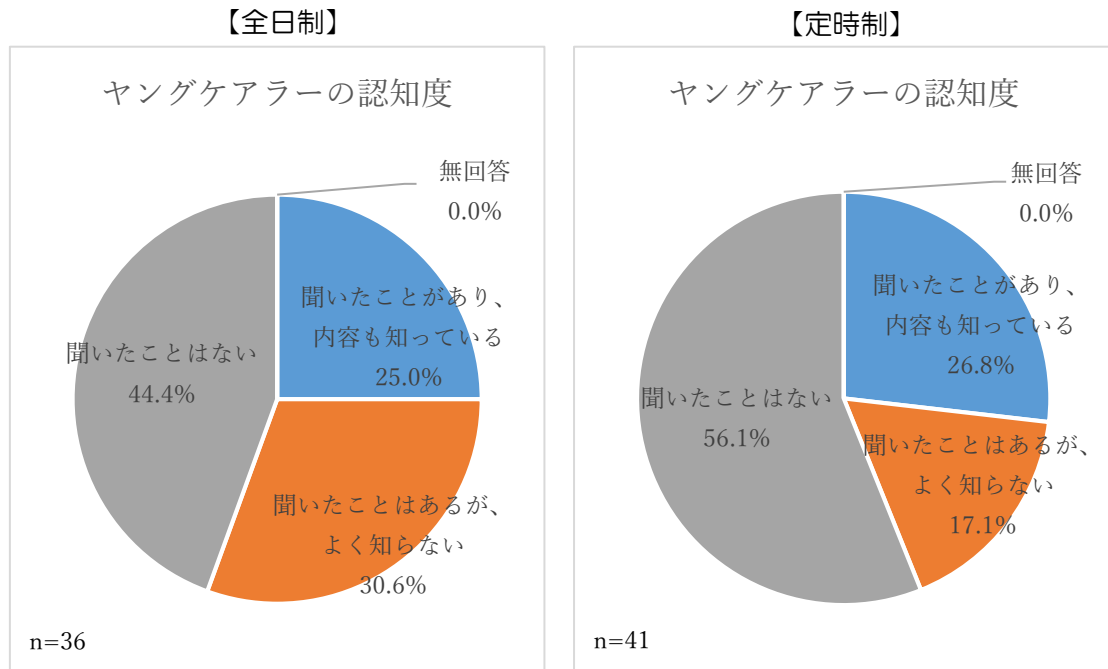


《国のアンケート調査結果》

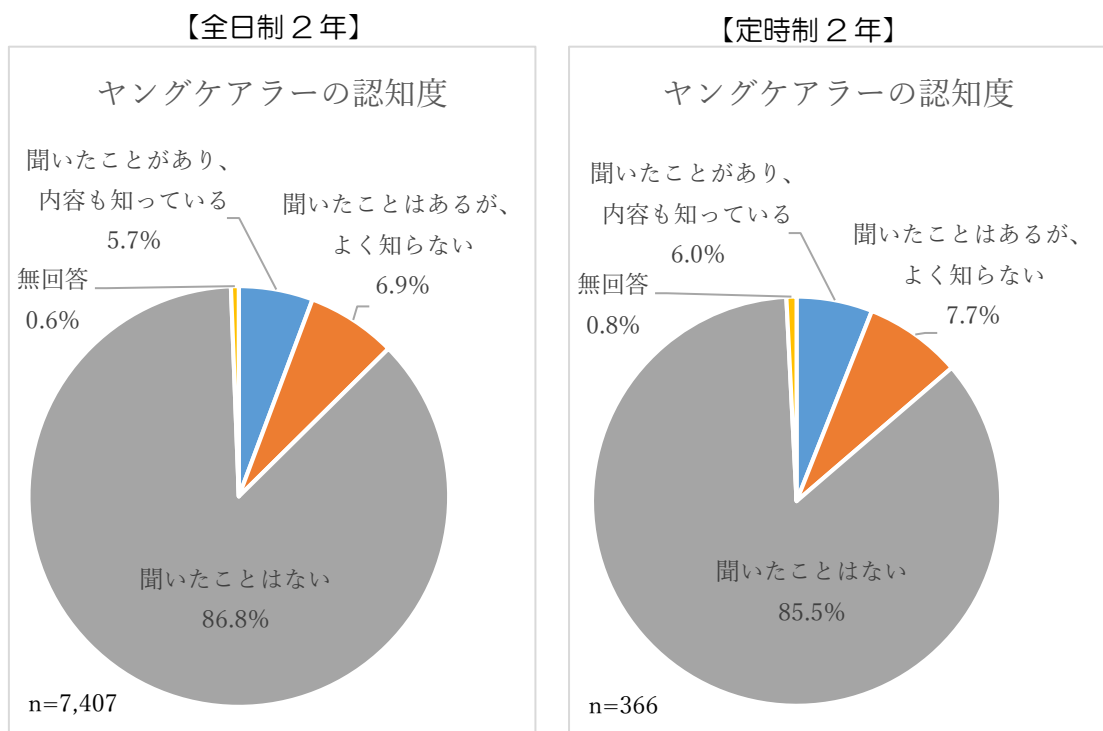


②ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことはない」が最も高く、「聞いたことがあり内容も知っている」がどちらも25%以上となっている。



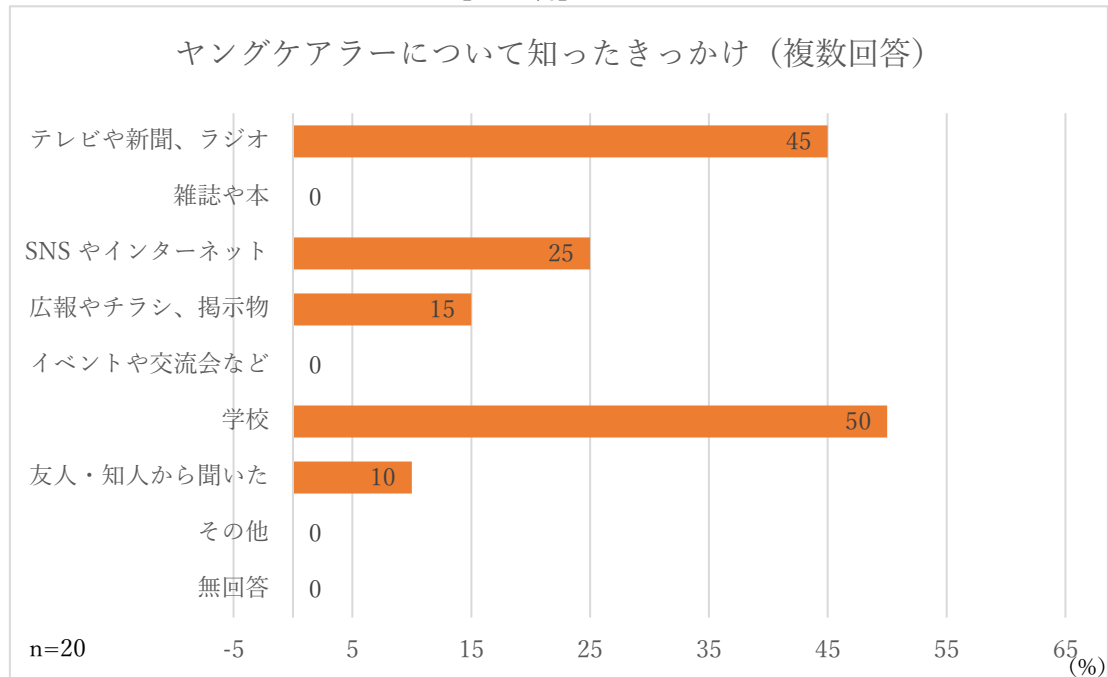
《国のアンケート調査結果》



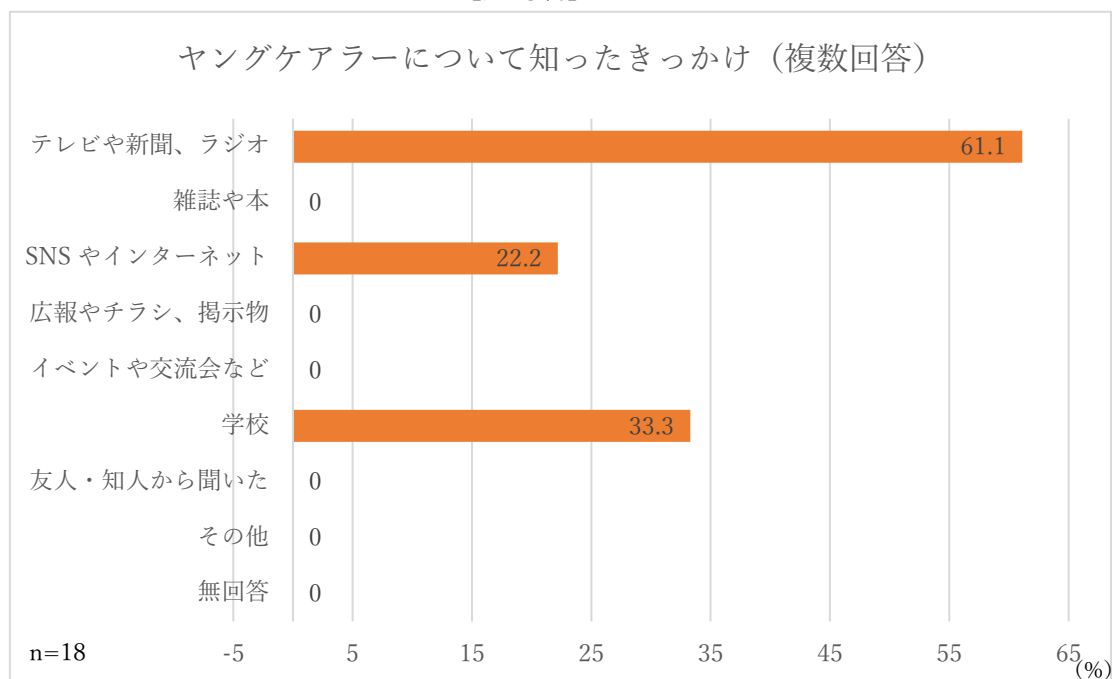
③ヤングケアラーについて知ったきっかけ

ヤングケアラーについて、「聞いたことがあり、内容も知っている」、「聞いたことはあるが、よく知らない」と回答した人に、知ったきっかけを聞いたところ、全日制では「学校」、定時制では「テレビや新聞、ラジオ」が最も高くなっている。

【全日制】

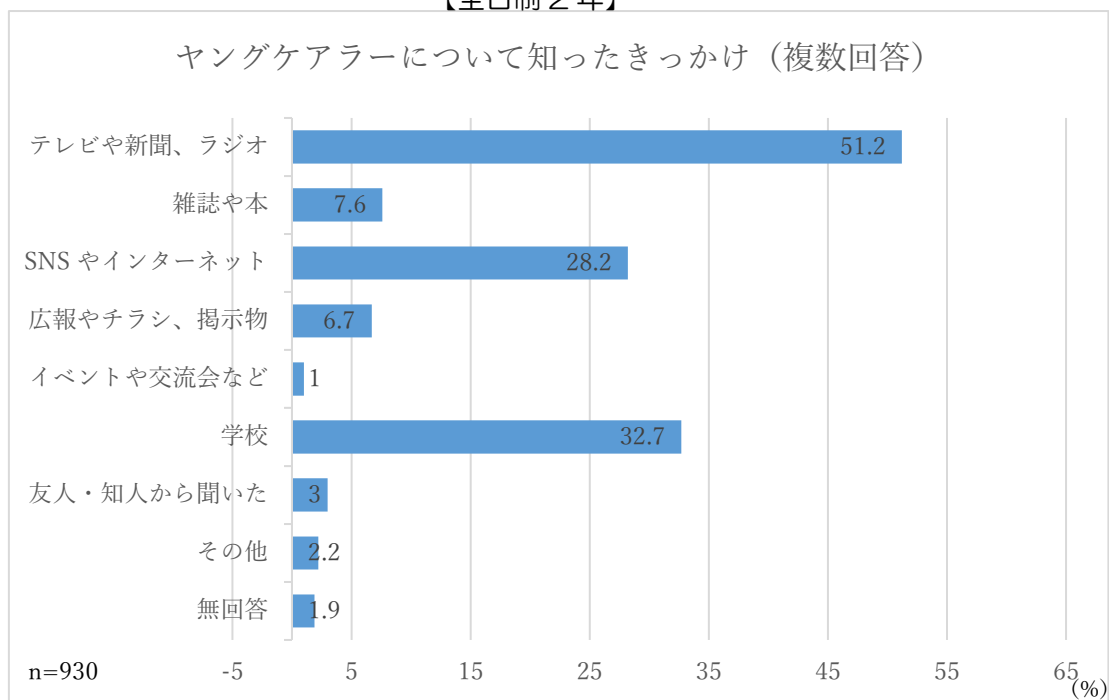


【定時制】

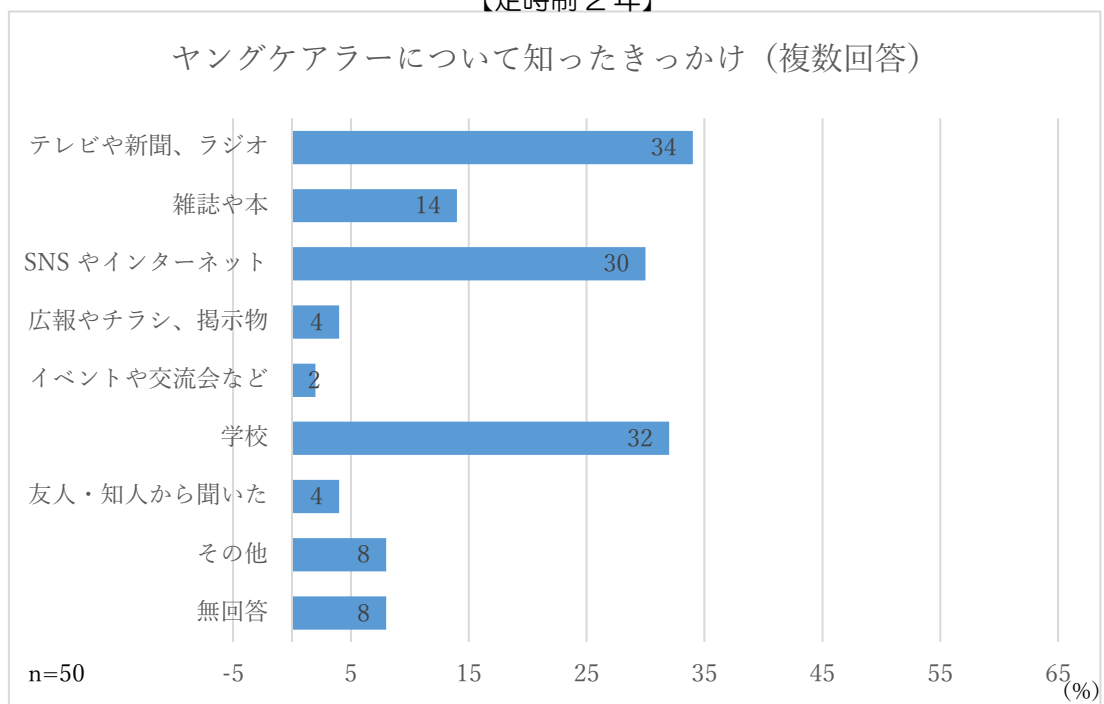


《国のアンケート調査結果》

【全日制2年】



【定時制2年】



(5) 自由意見

アンケート調査で寄せられた意見を紹介する。(原文のまま)

- お金の寄付。
- まだ知られてないから学校で相談とか出来たらいいと思う。
- ヤングケアラーの人達の負担が少しでも減るように周りの大人が支える。
- 初めて知った言葉でした。母に聞いて知りました。僕みたいな人も多いと思うので、もっと沢山の人に理解してもらいたいと思いました。
- 相談をしやすい社会になれば良いと思う。

3 国が実施したアンケート調査結果との比較

国が令和3年に実施したアンケート調査結果と大きな違いは見受けられなかったが、ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことがある」と回答した生徒の割合が、国の調査結果を大きく上回った。知ったきっかけは全日制では「学校」、定時制では「テレビや新聞、ラジオ」が国の調査結果よりも多くなっていた。

また、「世話をしている家族の有無」や「ヤングケアラーにあてはまるか」との問いに対しては、「いる」「あてはまる」が国の調査の数値を若干下回った。

なお、世話をしている家族がいる生徒を対象とした追加分析については、対象者が少ないことから報告書には掲載しておりません。

V 調査結果

1 実態把握

(1) 世話をしている家族について

小学生では2.9%、中学生では3.5%、全日制の高校生では2.8%、定時制の高校生では4.9%の児童・生徒が「世話をしている家族がいる」と回答している。【小学生・中学生・高校生】

世話をしている家族は、主にきょうだいで、次いで父母、祖父母となっており、国の調査結果と同様の傾向がみられる。【中学生・高校生】

(2) 世話の内容について

きょうだいへの世話の内容は、見守りが最も多く、次いで家事、付き添い、身体的介護である。父母への世話の内容は、家事が最も多く、次いで付き添い、見守り、感情面のサポート、祖父母への世話の内容についても、家事が最も多く、次いで見守り、身体的介護、感情面のサポート、付き添いの順となり、世話をしている頻度は、ほぼ毎日、1～2時間程度が多く、国の調査結果と同様の傾向がみられる。【中学生・高校生】

(3) 困りごとや悩みごとについて

世話をすることのきつさについては、「特に感じない」が多いものの、世話をしているために、やりたいけどできないこととして、最も多い「特にない」を除くと、進路の変更を考えざるを得ない、勉強や宿題をする時間がない、友達と遊ぶことができない、睡眠が十分に取れない、自分の時間が取れない順となり、国の調査結果と同様の傾向がみられる。【中学生・高校生】

(4) 悩み事の相談について

「世話をしている家族がいる」と回答した相談経験がある生徒の相談相手は、家族が最も多く、次いで友人、学校の先生の順である。相談経験がない生徒の相談しない理由は、誰かに相談するほどの悩みではない、家族以外の人に相談するような悩みではないなど、国の調査結果と同様の傾向がみられる。【中学生・高校生】

また、これまで相談経験がないと回答した生徒に、世話について話を聞いてくれる人の存在について尋ねたところ、「いない」が国の調査よりも多くなっている。【中学生】

(5) 必要な支援について

必要としている支援については、自由に使える時間が欲しい、進路や就職などの将来の相談にのってほしい、学校の勉強や受験勉強など学習のサポートなどだが、半数近くは特にないと回答するなど、国の調査結果と同様の傾向がみられる。【中学生・高校生】

(6) ヤングケアラーの認知度

ヤングケアラーの認知度については、「聞いたことはある」との回答が国の調査結果よりも高く、国の実態調査から時間が経過し、その間に学校やマスコミなどを通して認知が高まったものと思われる。【中学生・高校生】

2 今後の方向性

(1) ヤングケアラーの周知や啓発

児童・生徒に対するヤングケアラーの認知は広まりつつあるものの、子ども自身が「ヤングケアラー」と気づいていない場合も多い。子どもと接する立場にある大人や子ども自身もヤングケアラーについて正しく理解することが重要であり、ヤングケアラーの自発を促すためにも有効であることから、児童・生徒や地域に向けての啓発や、学校においては教職員への研修を引き続き行う。

また、児童・生徒に対して困りごとや悩み事を担任の教師や養護教諭、相談員等にも相談できる旨の更なる周知が必要である。

(2) ヤングケアラーの早期発見

悩み事や困りごとがあっても声に出せない児童・生徒など、潜在的なヤングケアラーも存在するため、教育や福祉などの各分野においてヤングケアラーの早期発見に努め、相談や支援につなげていく。

(3) ヤングケアラーの支援の充実

家事や見守りのほか、感情面のサポートなどの支援が求められており、重層的支援会議を活用するなど、家族の状況に応じた支援を関係機関が連携し実施していく。また、ヤングケアラーを支援する中で不足している支援があれば、関係部署にて新たな施策について検討する。



狭山市ヤングケアラー実態調査結果報告書

令和5年1月

狭山市 こども支援部 こども支援課
学校教育部 教育指導課

埼玉県狭山市入間川1丁目23番5号

電話：04-2953-1111